国保情報集約システム

データ連携用PC構築・利用ガイド

第7.0版

令和6年10月25日

MSA-2107-003

2 機器構築の手順

この章では、データ連携用 PC を使用するために必要な機器構築の手順について説明します。

2.1 機器構築の概要

データ連携用 PC を使用するために必要な機器構築作業を説明します。

表 2-1 データ連携用 PC の実施項目一覧

No.	区分	実施手順
1	OS の設定	基本設定
2		ネットワーク設定
3	ミドルウェアの設定	ミドルウェアインストール
4		OS・ミドルウェアの詳細設定

2.1.1 機器構築の準備

データ連携用 PC の機器構築前に行う準備について説明します。

(1) コンピュータ名の確認

データ連携用 PC に設定するコンピュータ名を確認してください。コンピュータ名は市町村ごとに任意の名前を定めることができます。

(2) IP アドレスなどの設計

データ連携用 PC に設定する IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを設計してください。

(3) 作業実施時間

「2 機器構築の手順」および「3 アプリケーションの適用手順」を含めた作業実施時間の目安は 5 時間となります。

2.1.2 前提となる設定

(1) BIOS 設定

データ連携用 PC の BIOS 設定にてハードディスクパスワードを設定してください。ハードディスクパスワードの設定方法は導入した機器によって異なるため、各機器に添付されるマニュアルを参照してください。

また、ハードウェア個別仕様として各機器に BIOS 設定が必要な場合には、個別に設定してください。

(2) ドライバの設定

ハードウェアドライバがインストールされ、各デバイスが正常に認識されていることを確認してください。

(3) ドライブ構成

データ連携用 PC のドライブ構成は、C ドライブおよび D ドライブを推奨しています。

また、ドライブのフォーマット形式は NTFS であることを前提としています。

2.2 OS の設定

OS の設定を行うための前提条件および OS の設定を行う手順について説明します。

注意事項

・ 本章の作業は、すべて「Administrator」権限の OS ユーザアカウントで実施します。

表 2-2 作業項目一覧

No.	区分	作業項目
1	基本設定	コンピュータ名の設定
2		ビルトインアカウント有効化の設定
3		ドライブ構成の設定
4	ネットワーク設定	IP アドレスの設定

2.2.1 基本設定

データ連携用 PC の OS に対する基本設定手順を説明します。

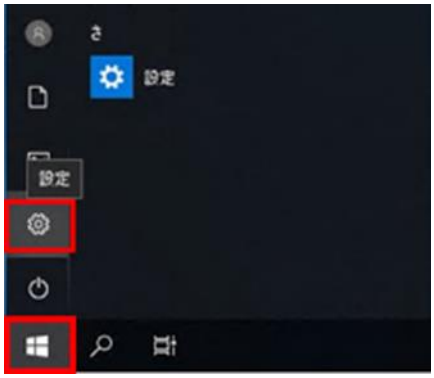
注意事項

・ 本手順は LTSC 2019 の手順例です。バージョンによって手順に差異がある場合がありますので、バージョンに合わせて設定してください。

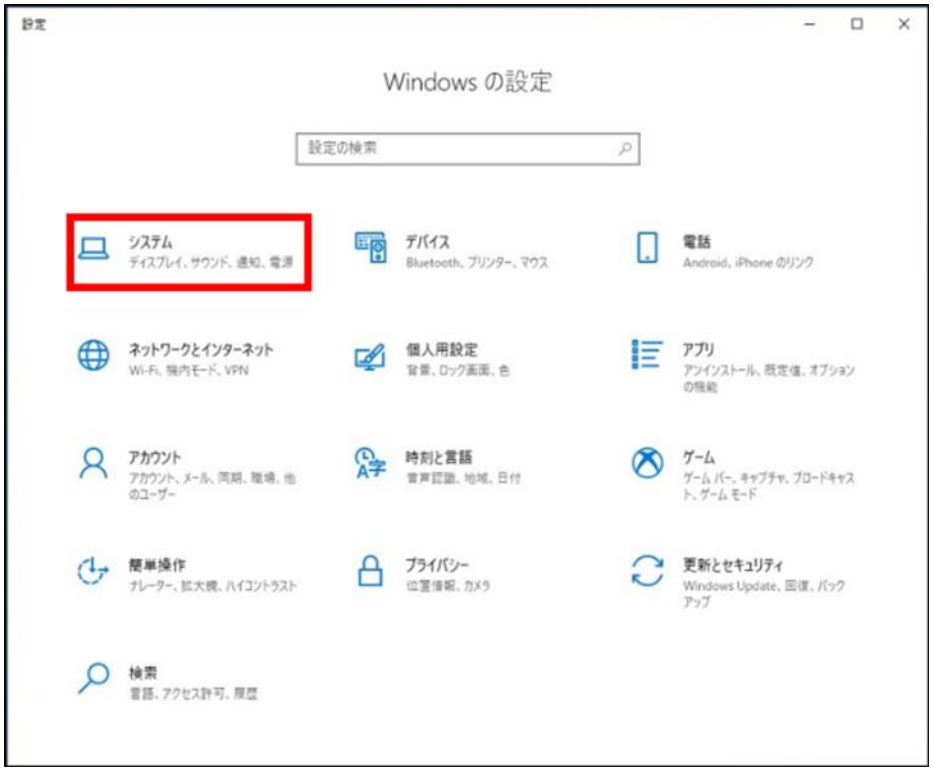
(1) コンピュータ名の設定

データ連携用 PC のコンピュータ名を設定します。

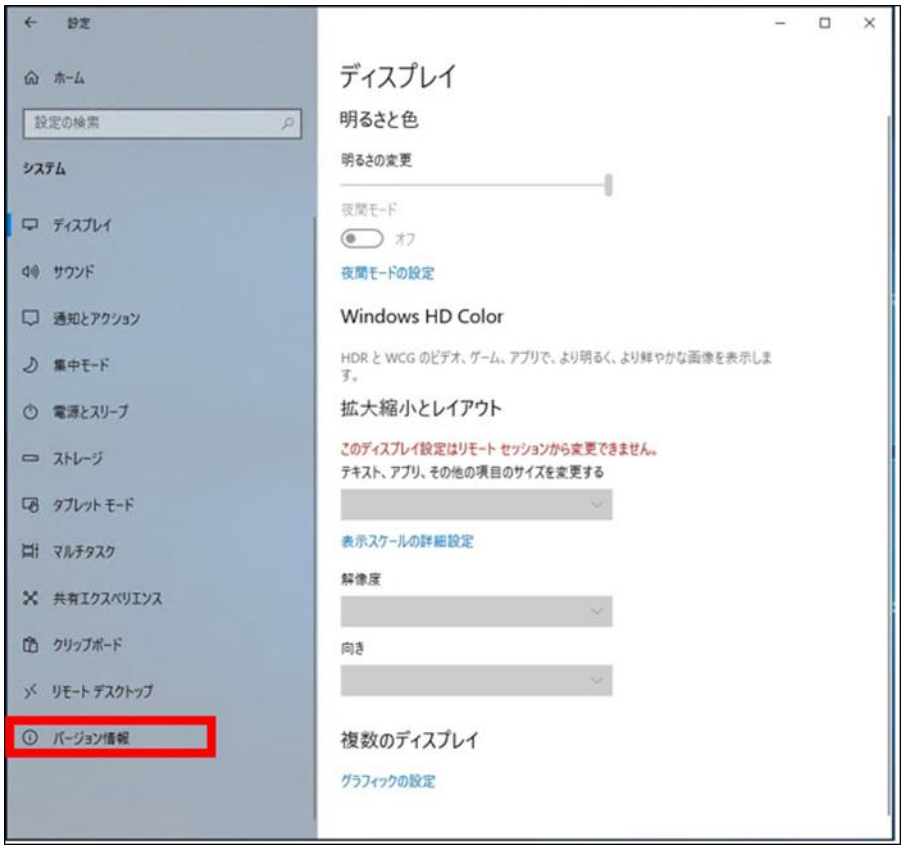
1. [スタート]アイコンをクリックし、[設定]をクリックします。



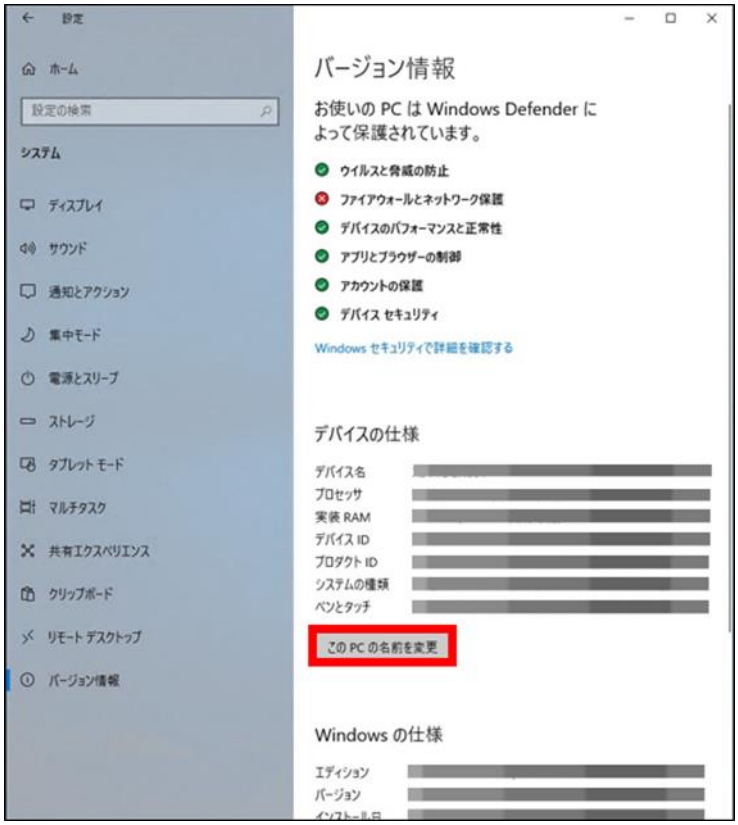
2.「設定」画面で、[システム]をクリックします。



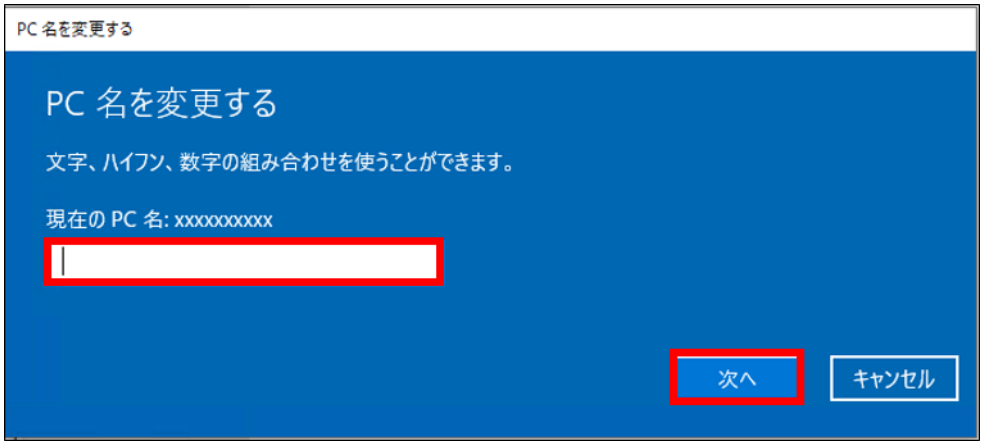
3.「システム」画面で、[バージョン情報]をクリックします。



4.「バージョン情報」画面で、[この PC の名前を変更]ボタンをクリックします。



5.「PC 名を変更する」画面で、コンピュータ名を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



⚠ 注意事項

・ コンピュータ名については、各市町村にて事前に設計してください。

6. [今すぐ再起動する]ボタンをクリックします。

7. 再起動後、手順 1. ～手順 3. を実施し、手順 4. の「バージョン情報」画面で、「デバイス名」に手順 5. で設定したコンピュータ名が表示されていることを確認します。

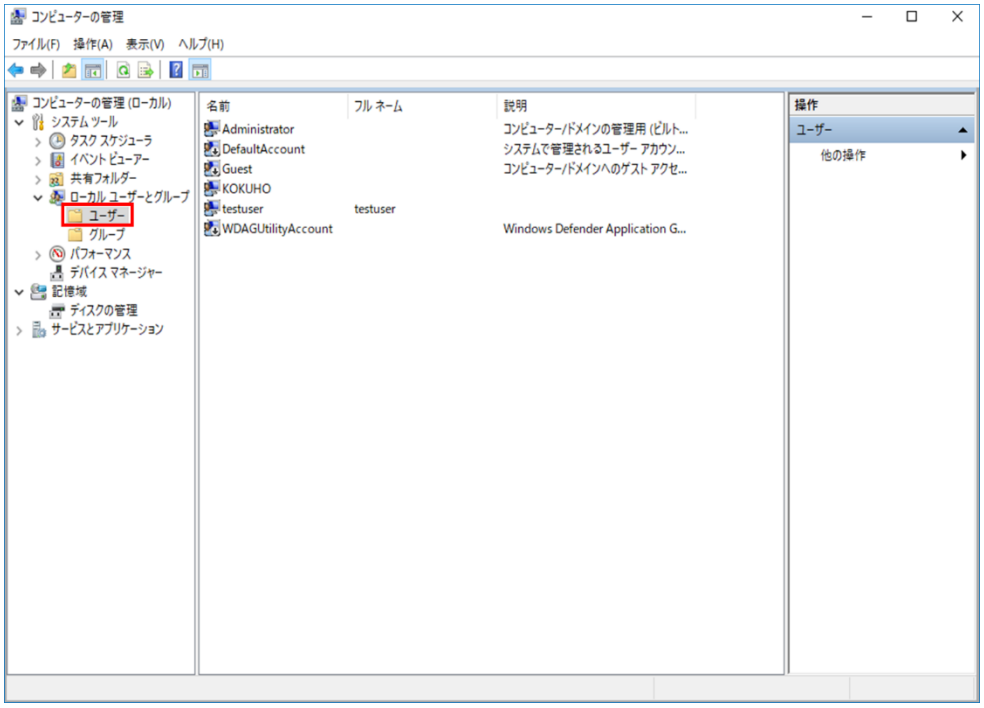
8.「バージョン情報」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

(2) ビルトインアカウント有効化の設定

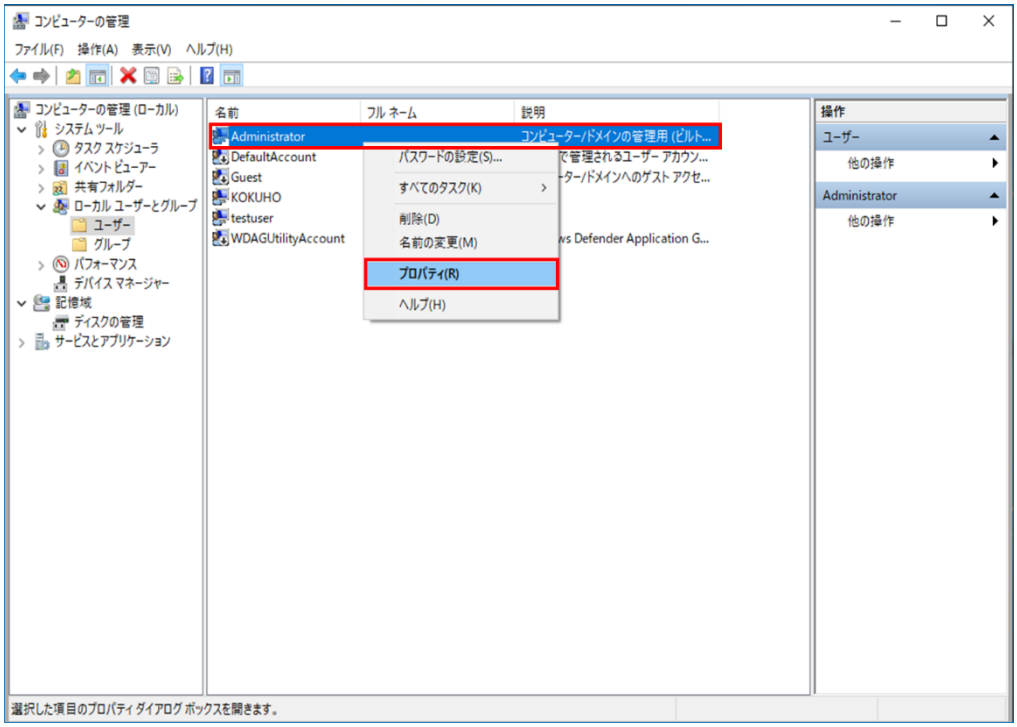
ビルトインアカウントの「Administrator」を有効化するための設定をします。

1. [スタート]アイコンを右クリックし、[コンピューターの管理]をクリックします。

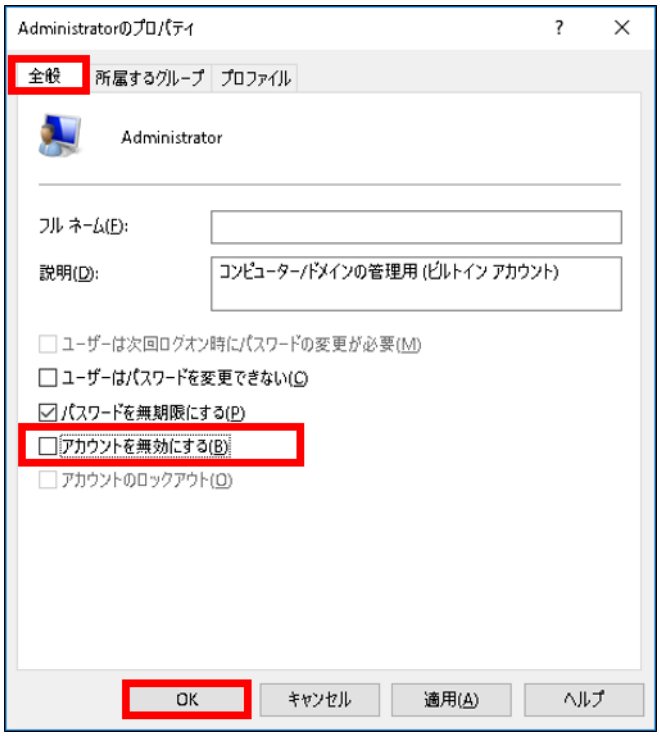
2. 「コンピューターの管理」画面で、[コンピューターの管理（ローカル）]-[システムツール]-[ローカルユーザーとグループ]-[ユーザー]をクリックします。



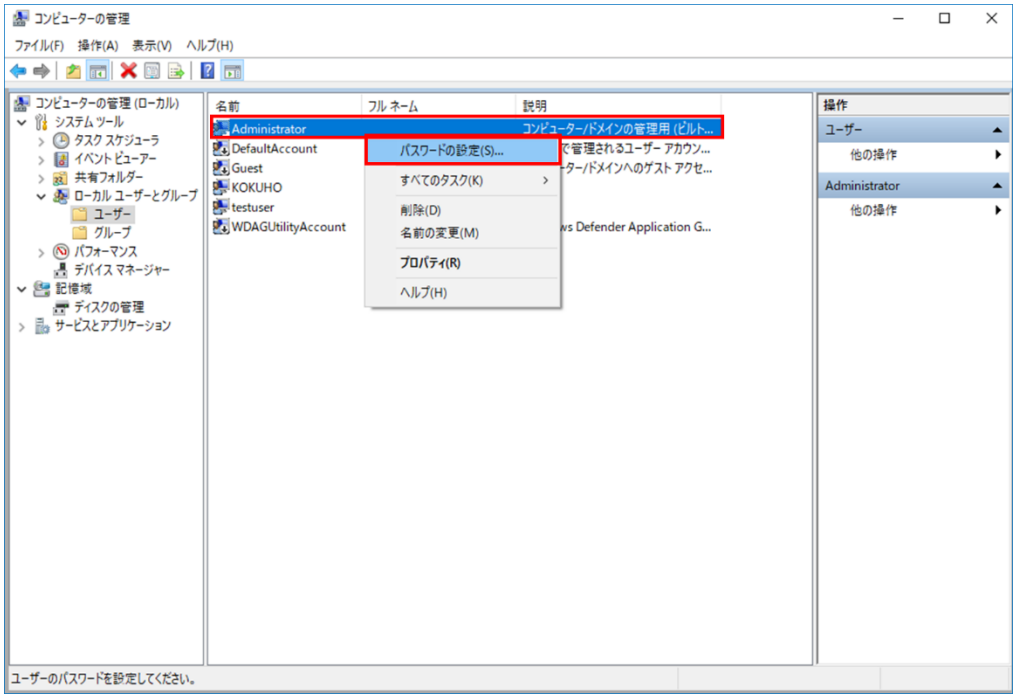
3.「コンピューターの管理」画面で、[Administrator]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



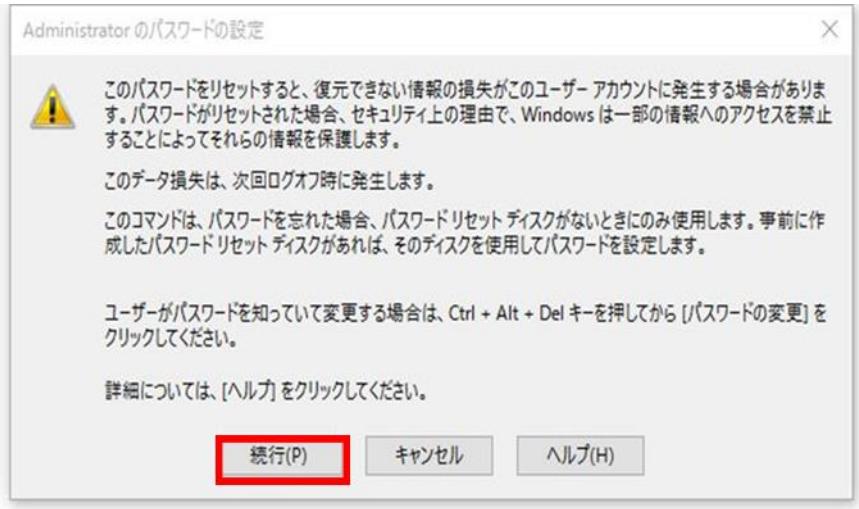
4.「Administrator のプロパティ」画面で、[全般]タブ-[アカウントを無効にする]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。



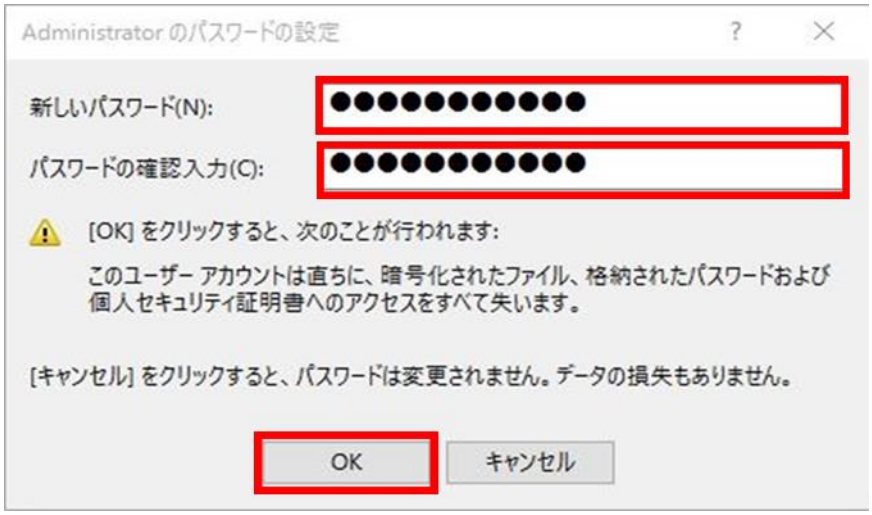
5.「コンピューターの管理」画面で、[Administrator]を右クリックし、[パスワードの設定]をクリックします。



6.「Administrator のパスワードの設定」画面で、[続行]ボタンをクリックします。



7.「Administrator のパスワードの設定」画面で、「新しいパスワード」「パスワードの確認入力」に Administrator のパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



⚠ 注意事項

・ Administrator のパスワードは事前に設計してください。

8.「ローカルユーザーとグループ」画面で、「パスワードは設定されました。」と表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。

9.「コンピューターの管理」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

10.「Administrator 権限のユーザ」をログアウトし、手順 1.～手順 9.で有効化した「Administrator」でログインできることを確認してください。

(3) ドライブ構成の設定

データ連携用PCのドライブ構成はCドライブおよびDドライブの構成とすることを推奨しています。各ドライブで使用を想定している内容を次に示します。

C:¥・・・　OS（Windowsのシステム領域）

ミドルウェア

D:¥・・・　アプリ領域（バッチファイルなどを格納する領域）

DVDドライブなど、すでに別のドライブレターが上記ドライブと異なる場合には、ドライブレターを変更してください。

注　アプリケーションの適用について、Dドライブを推奨としますが、Cドライブでも問題なく適用可能です。

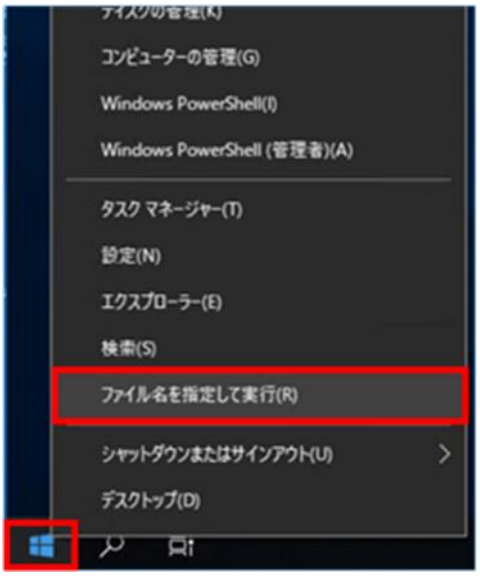
2.2.2 ネットワーク設定

データ連携用 PC のネットワーク設定手順について説明します。

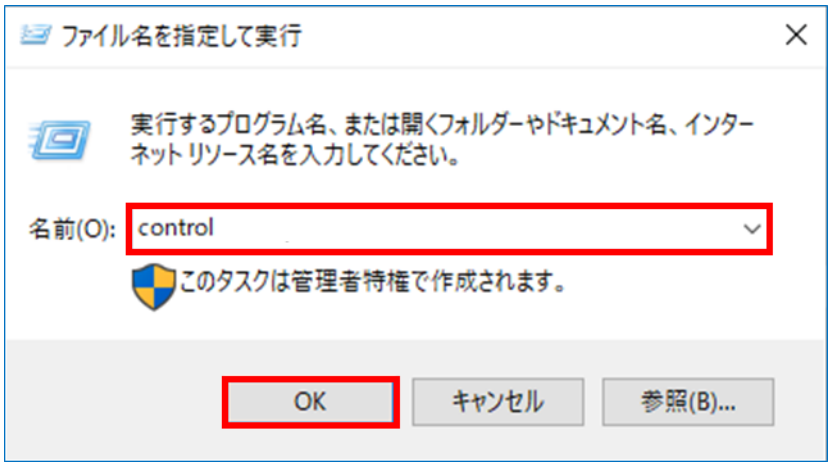
(1) IP アドレスの設定

データ連携用 PC の IP アドレスを設定します。

1. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



2. 「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「control」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

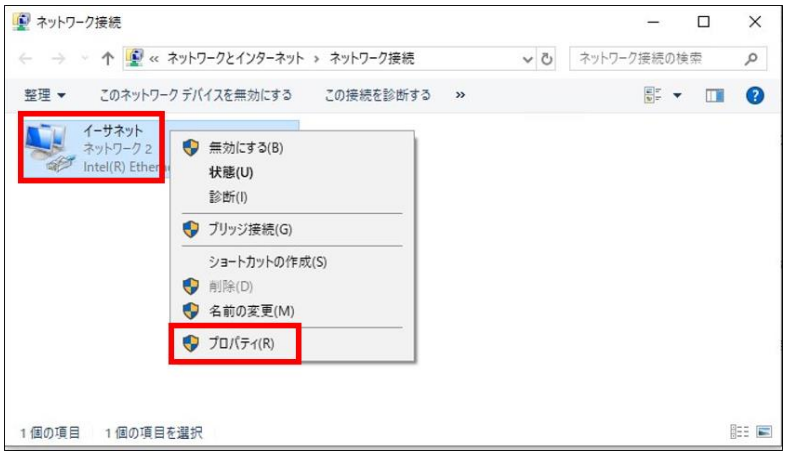


3.「コントロールパネル」画面で、[カテゴリ▼]をクリックし、[小さいアイコン]をクリックします。

4.「すべてのコントロールパネル項目」画面で、[ネットワークと共有センター]をクリックします。

5.「ネットワークと共有センター」画面で、[アダプターの設定の変更]をクリックします。

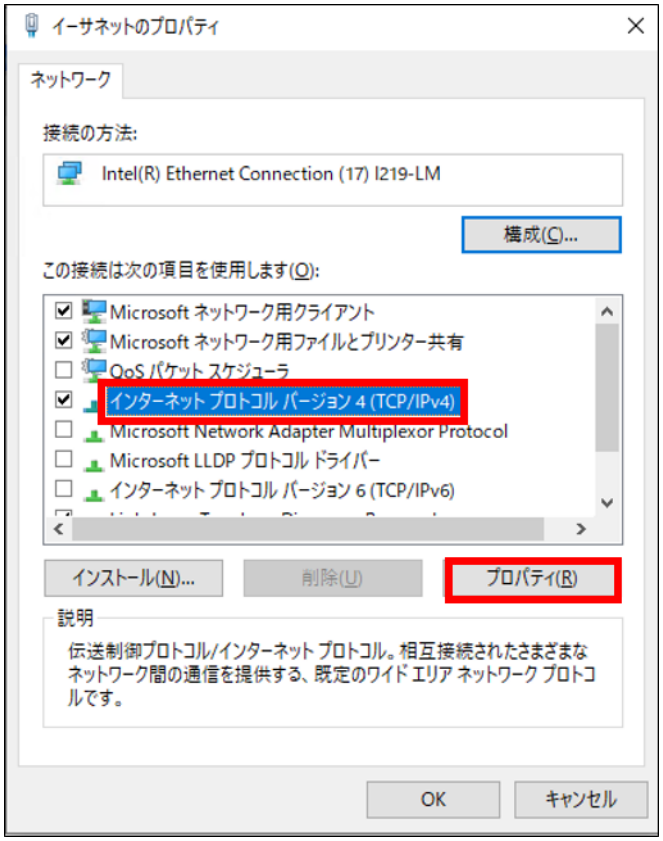
6.「ネットワーク接続」画面で、[イーサネット]を右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]をクリックします。



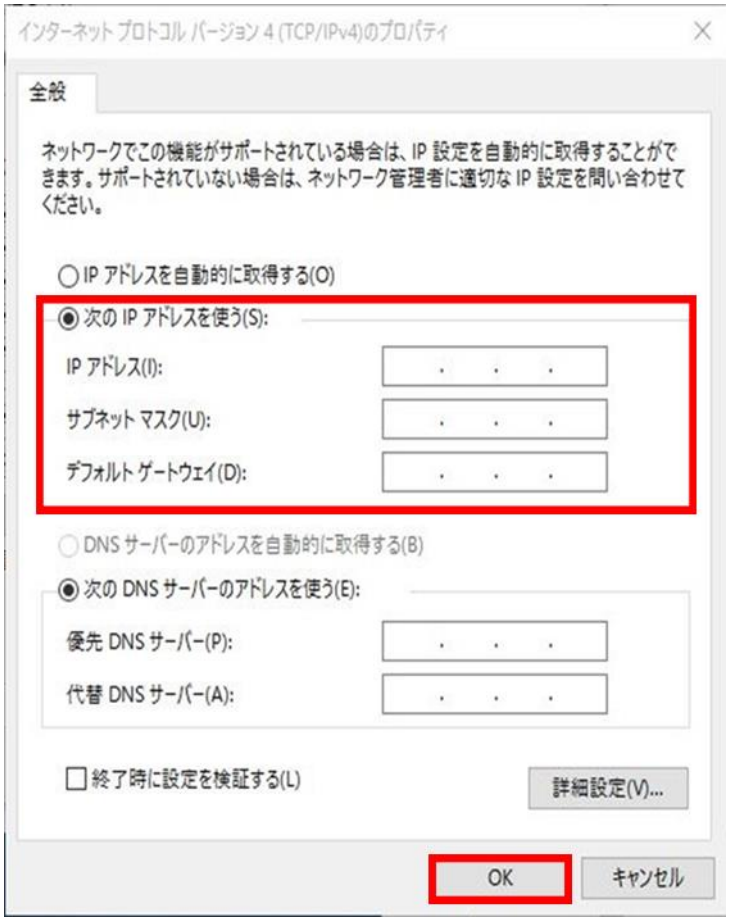
⚠ 注意事項

・ 使用するハードウェアによっては、右クリックするネットワークアダプタ名が、「イーサネット」以外の名称となっている場合があります。

7.「イーサネットのプロパティ」画面で、[インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。



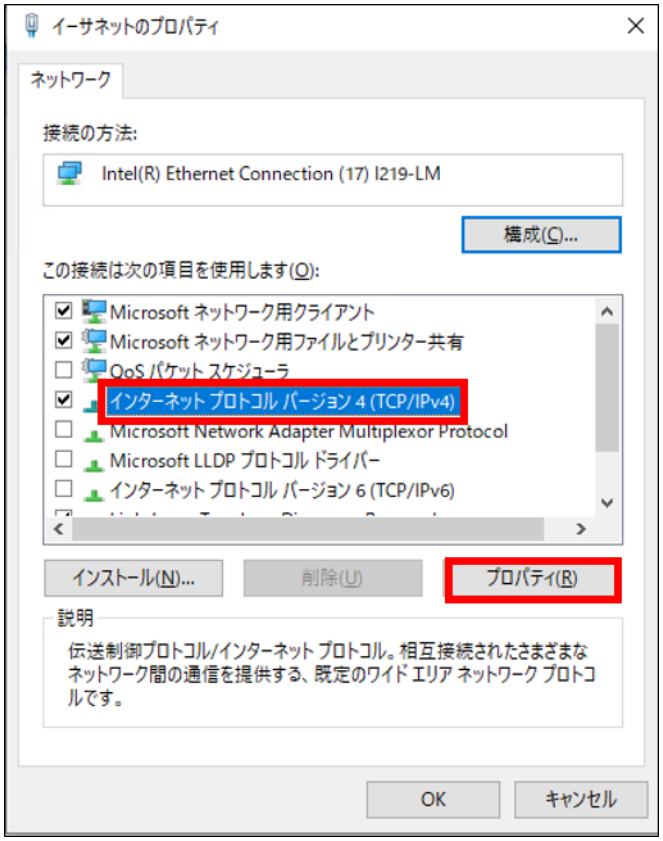
8.「インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）のプロパティ」画面で、[次の IP アドレスを使う]を選択し、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイをそれぞれ入力し、[OK]ボタンをクリックします。



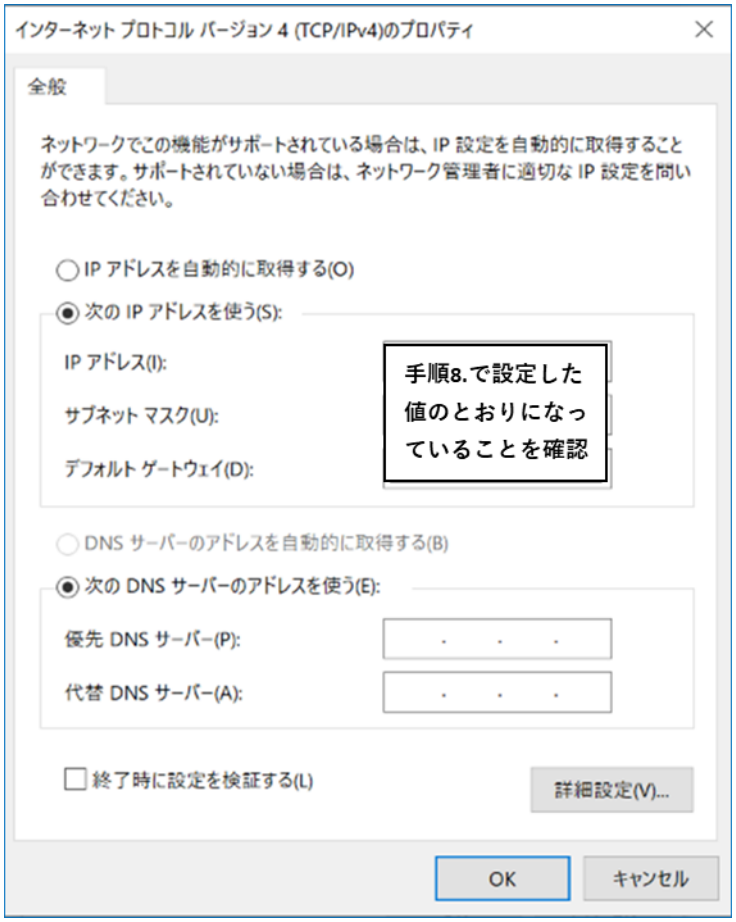
⚠ 注意事項

- IP アドレス、サブネットマスクおよびデフォルトゲートウェイについては、各市町村にて事前に設計してください。

9.「イーサネットのプロパティ」画面で、[インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。



10.「インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）のプロパティ」画面で、手順 8.で設定した値のとおりになっていることを確認し､「インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）のプロパティ」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。



11. 「イーサネットのプロパティ」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

12. 「ネットワーク接続」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

13. 「ネットワークと共有センター」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

2.3 ミドルウェアの設定

注意事項

・ 本章の作業は、すべて「Administrator」権限の OS ユーザアカウントで実施します。

2.3.1 ミドルウェアのインストール

(1) 実施項目について

データ連携用 PC に各ミドルウェアをインストールする手順を説明します。

表 2-3 実施項目一覧

No.	区分	実施項目
1	OS の詳細設定	Windows Defender ファイアウォールの設定
2	ミドルウェアインストール	Oracle Java Standard Edition のインストール
3		ウィルス対策ソフトウェアのインストール

注意事項

・ ミドルウェアのインストール時は、他のアプリケーションをすべて停止してください。
・ ウィルス対策ソフトウェアのインストール後に他のミドルウェアのインストールを実施する場合は、リアルタイムにファイルを監視する機能はオフにしてください。ミドルウェアのインストール完了後、オフにした機能をオンに戻してください。操作については、導入する製品のマニュアルを確認してください。
・ ミドルウェアのインストール先については、障害時の対応などを各市町村で統一するために「C:¥S_Kokuho¥PP」フォルダを作成し、その中にインストールしていただくことを前提とします。
・ ミドルウェアのインストール作業に際し、各ミドルウェアの設定パラメータについては、事前に設計し、設定値を確定させておく必要があります。
・ ウィルス対策ソフトウェアは未指定製品となります。各市町村にて選定のソフトウェアをインストールしてください。インストール実施の手順は選定したソフトウェアのマニュアルを参照してください。

(2) 作業フロー

表 2-3 に示す実施項目の作業フローを説明します。

また、各手順を「付録.A ミドルウェアインストール手順」ならびに「付録.B OS 詳細設定手順」に記載していますので、参照してください。なお、ミドルウェアのインストール手順の詳細につきましては、各ミドルウェアの関連マニュアル、オンラインヘルプなどを参照してください。

2.3.2 OS･ミドルウェアの詳細設定

(1) 実施項目について

データ連携用 PC の各ミドルウェアの設定手順を説明します。

表 2-4 実施項目一覧

No.	区分	実施項目
1	OS の詳細設定	ローカルポリシーの設定
		フォルダオプションの設定
		電源オプションの設定
		セキュリティパッチの適用
2	ミドルウェアの詳細設定	ウィルス対策ソフトウェアの詳細設定

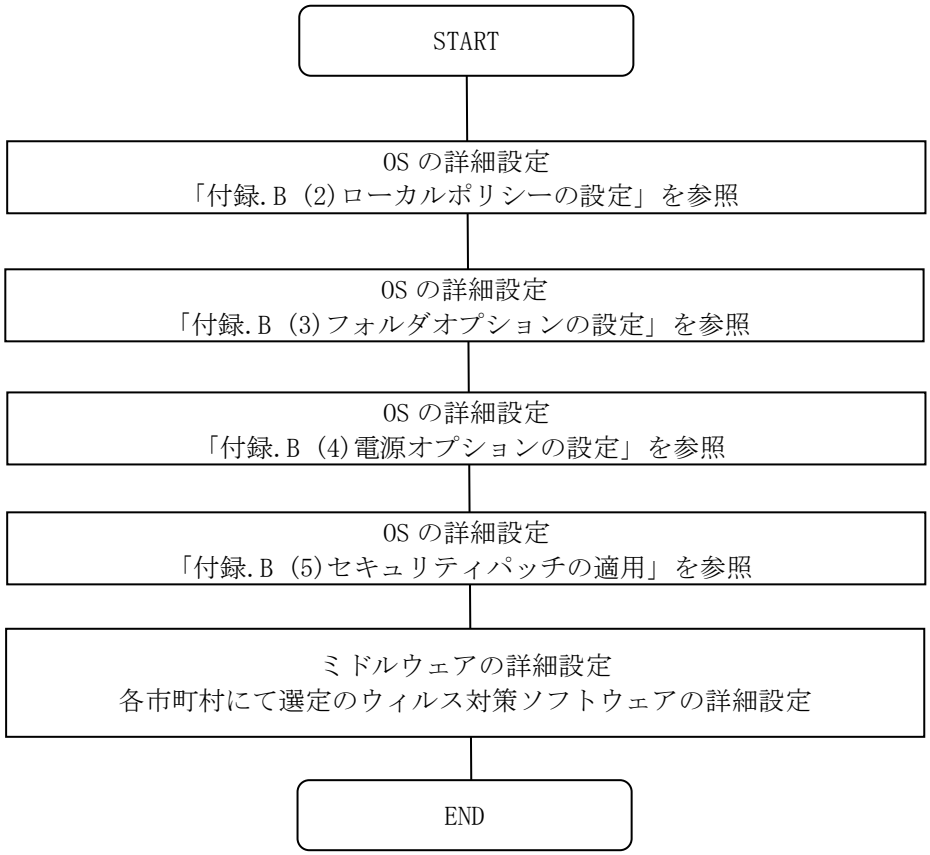
注意事項

- ミドルウェアの詳細設定で作成、更新するファイルなどについては、障害時の対応を各市町村で統一するために「C:¥S_Kokuho¥PP」フォルダを作成し、その中に保存していただくことを前提とします。
- ミドルウェアの詳細設定作業に際し、各ミドルウェアの詳細設定パラメータについては、事前に設計し、設定値を確定させておく必要があります。
- ウィルス対策ソフトウェアは未指定製品となります。各市町村にて選定のソフトウェアをインストールしてください。詳細設定の手順は選定したソフトウェアのマニュアルを参照してください。

(2) 作業フロー

表 2-4 に示す各実施項目について作業フローを説明します。

また、OS の詳細設定手順については「付録.B OS 詳細設定手順」を参照してください。なお、ミドルウェアの詳細設定手順につきましては、各ミドルウェアの関連マニュアル、オンラインヘルプなどを参照してください。



【このページは白紙です】

3 アプリケーションの適用手順

この章では、データ連携用 PC へのアプリケーションの適用および環境設定について説明します。

3.1 アプリケーション適用の概要

データ連携用 PC へのアプリケーションの適用手順を説明します。

注意事項

・ 本章の作業は、すべて「Administrator」権限の OS ユーザアカウントで実施します。

3.1.1 アプリケーション適用の準備

データ連携用 PC のアプリケーションを適用する前に行う準備について説明します。

(1) アプリケーションモジュールの取得

アプリケーションモジュールは、国民健康保険中央会ホームページからダウンロードし、準備してください。準備したアプリケーションモジュールは、「3.2.1 アプリケーションの適用手順」で使用します。取得したアプリケーションモジュールは、CD などの媒体を経由し、データ連携用 PC にコピーしてください。

3.2 アプリケーションの適用

注意事項

- 本章の作業は、すべて「Administrator」権限の OS ユーザアカウントで実施します。

3.2.1 アプリケーションの適用手順

アプリケーションの適用手順を説明します。

(1) 適用先フォルダの事前確認

1. エクスプローラーを起動し、「D:¥S_Kokuho」フォルダおよび「D:¥S_Kokuho_Test」フォルダがないことを確認します。

注意事項

- 「D:¥S_Kokuho」フォルダおよび「D:¥S_Kokuho_Test」フォルダがすでにある場合は、アプリケーションがすでに適用されている可能性があります。すでに適用されている場合は、「3.5 アプリケーションの更新」を行ってください。

(2) アプリケーションモジュールの解凍

1. 「3.1.1(1) アプリケーションモジュールの取得」で入手した ZIP ファイルを任意のフォルダ（D ドライブに「Work」フォルダを作成するなど）にコピーし、解凍してください。

注意事項

- 入手した ZIP ファイルをデータ連携用 PC 上のフォルダにコピーする際は、ZIP 形式のまま行ってください。解凍後のファイルでは、（ファイルが複数あるため）コピーに失敗したファイルがあった際に気付きにくいためです。
- 解凍先のフォルダパスは、Windows の制限のため 259 文字以下（ファイル名を含む）とする必要があります。

  次の解凍先フォルダパスの例を参考としてください。

  ＜解凍先フォルダパスの例＞

  「D:¥Work¥YYYYMMDD」

  注　YYYYMMDD は作業実施日を示します。

2. 解凍後、「解凍先フォルダパス¥データ連携用 PC¥D」フォルダの配下に「S_Kokuho」フォルダおよび「S_Kokuho_Test」フォルダが作成されていることを確認してください。

(3) アプリケーションの適用

1. 「解凍先フォルダパス¥データ連携用 PC¥D」フォルダの配下にある「S_Kokuho」フォルダおよび「S_Kokuho_Test」フォルダを D ドライブ直下にコピーしてください。

   注　適用作業で作成されたフォルダ構成の詳細については、「付録.D データ連携用 PC アプリケーションのフォルダ構成」を参照してください。

2. 「(2) アプリケーションモジュールの解凍」で配置した ZIP ファイルおよび解凍したフォルダを削除してください。

3.3 クライアントの環境設定

注意事項

・ 本章の作業は、すべて「Administrator」権限の OS ユーザアカウントで実施します。

3.3.1 クライアントの環境設定の事前準備

(1) 証明書とパスワードの取得

国保情報集約システムの接続に必要な証明書(SSL クライアント証明書と認証局の自己署名証明書の 2 つを指す）および SSL クライアント証明書のパスワードを国民健康保険団体連合会（以降、国保連合会という）に確認し、準備してください。証明書のファイル名は、「市町村連番（XXX）および都道府県英語表記（YY）の読み替え一覧」の項目「SSL クライアント証明書(本番環境)」、「SSL クライアント証明書(テスト環境)」、「認証局の自己署名証明書（本番環境)」および「認証局の自己署名証明書（テスト環境)」の値を使用します。国保情報集約システムに接続するためには、証明書をクライアントに設定する必要があります。取得した証明書とパスワードは、「3.3.2 証明書の設定」で使用します。本番環境とテスト環境で必要となる証明書が異なります。接続する環境の証明書を準備し、手順を実施してください。

(2) 接続先ドメインの確認

国保情報集約システムの接続に必要なドメインは、「市町村連番（XXX）および都道府県英語表記（YY）の読み替え一覧」の項目「ドメイン（本番環境)」および「ドメイン(テスト環境)」の値を使用します。確認した接続先ドメインは、「3.3.4 hosts ファイルの編集」で使用します。本番環境とテスト環境で接続先が異なります。接続する環境の接続先ドメインを確認し、手順を実施してください。

(3) 接続先 IP アドレスの確認

データ連携用 PC から国保情報集約システムに接続するための接続先 IP アドレスを確認してください。確認した接続先 IP アドレスは、「3.3.4(2) hosts ファイルの編集」で使用します。なお、本番環境とテスト環境で接続先サーバの IP アドレスが異なります。

Point

■接続先 IP アドレスについて

接続先 IP アドレスは、国保情報集約システムの接続先 IP アドレスを市町村で導入するファイアウォールで NAT 変換した IP アドレスとなります。

3.3.2 証明書の設定

本手順では、本番環境とテスト環境それぞれの証明書の設定を行います。設定に際しては、手順 4.～手順 13.を繰り返す必要があります。SSL クライアント証明書および認証局の自己署名証明書のインポートは、本番環境およびテスト環境のどちらを先に実施しても問題ありません。

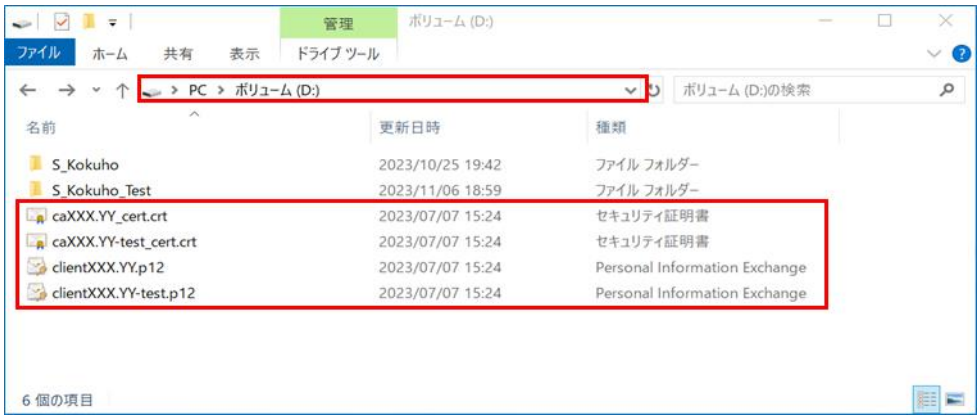
なお、本手順では、「市町村連番（XXX）および都道府県英語表記（YY）の読み替え一覧」の項目「SSL クライアント証明書（本番環境）」、「SSL クライアント証明書（テスト環境）」、「認証局の自己署名証明書（本番環境）」および「認証局の自己署名証明書（テスト環境）」の値を次のとおり記載しています。

- SSL クライアント証明書（本番環境）　「clientXXX.YY.p12」
- 認証局の自己署名証明書（本番環境）　「caXXX.YY_cert.crt」
- SSL クライアント証明書（テスト環境）　「clientXXX.YY-test.p12」
- 認証局の自己署名証明書（テスト環境）　「caXXX.YY-test_cert.crt」

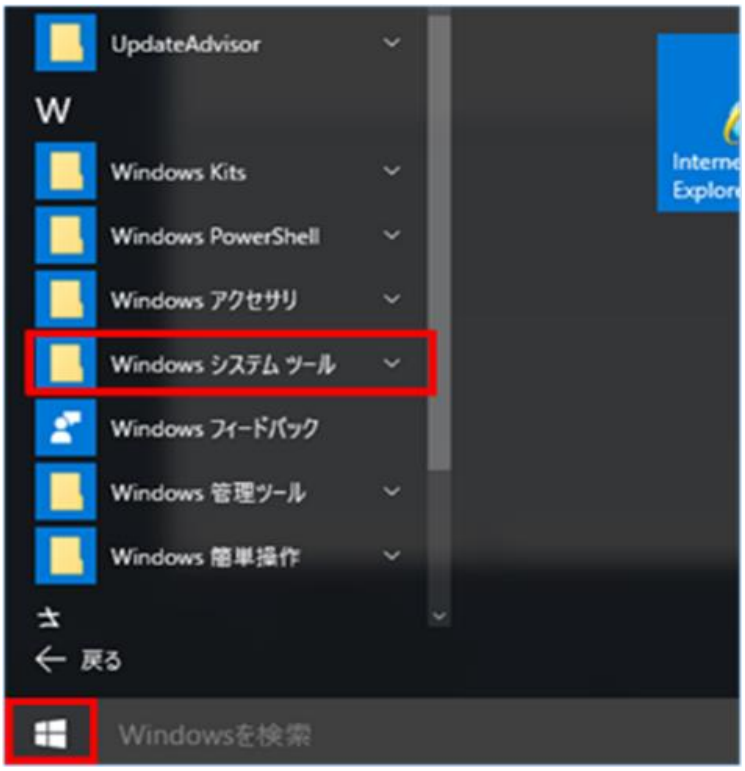
注意事項

- 本手順は LTSC 2019 の手順例です。バージョンによって手順に差異がある場合がありますので、バージョンに合わせて設定してください。

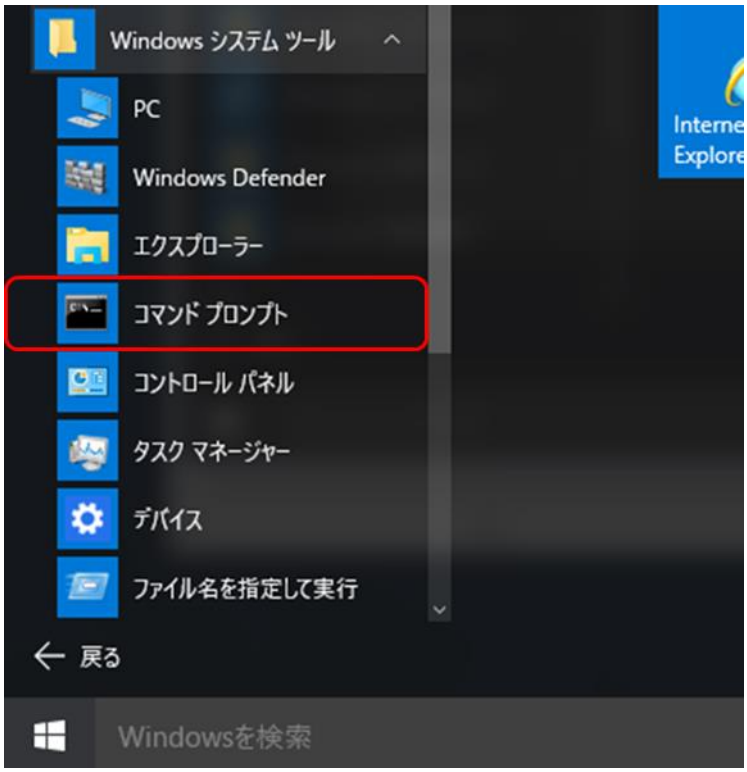
1. **「3.3.1(1) 証明書とパスワードの取得」で取得した証明書を「D:¥」フォルダの配下に格納します。**



2. [スタート]アイコンをクリックし、[Windows システムツール]をクリックします。



3. [コマンドプロンプト]をクリックします。



「コマンドプロンプト」画面が表示されます。

4.「コマンドプロンプト」画面で、認証局の自己署名証明書を設定するため、次のコマンドを入力し、Enter キーを押下します。

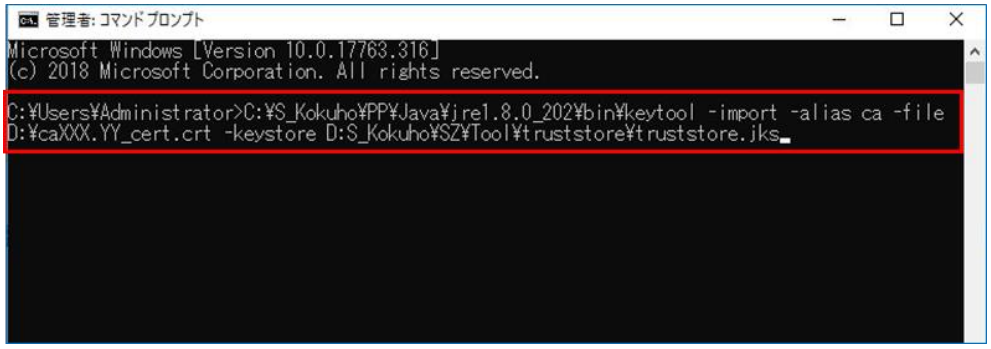
- 本番環境の設定を行う場合

  C:¥S_Kokuho¥PP¥Java¥jre1.8.0_202¥bin¥keytool△-import△-alias△ca△-file△D:¥caXXX.YY_cert.crt△-keystore△D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥truststore¥truststore.jks

- テスト環境の設定を行う場合

  C:¥S_Kokuho¥PP¥Java¥jre1.8.0_202¥bin¥keytool△-import△-alias△ca△-file△D:¥caXXX.YY-test_cert.crt△-keystore△D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥truststore¥truststore.jks

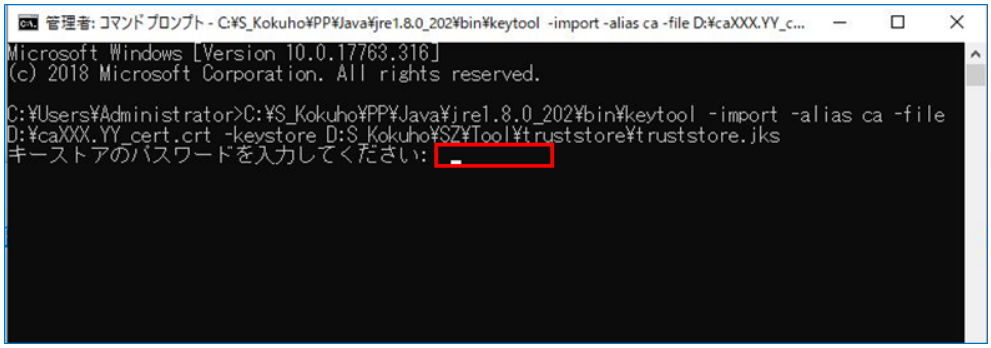
注　△は半角スペースを表します。



⚠ 注意事項

- 上記コマンドの途中には改行は入りません。コマンドを最後まで入力してから Enter キーを押下してください。
- 「XXX.YY」は、「市町村連番（XXX）および都道府県英語表記（YY）の読み替え一覧」の市町村連番および都道府県英語表記となります。

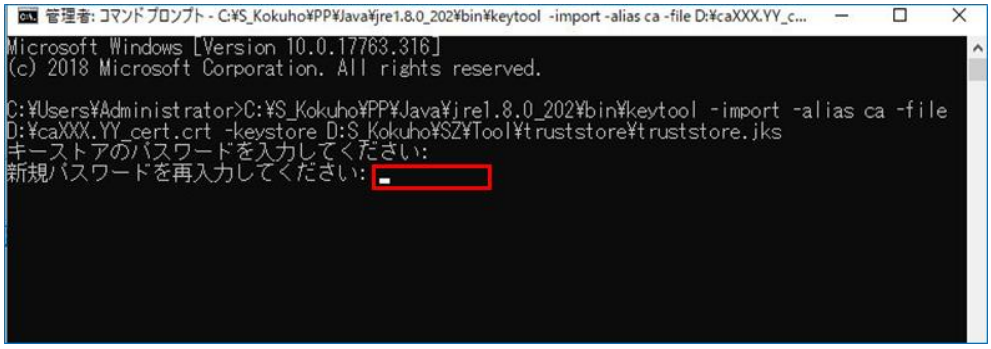
5.「キーストアのパスワードを入力してください：」と表示されるので、「changeit」と入力し、Enter キーを押下します（入力内容は表示されません）。



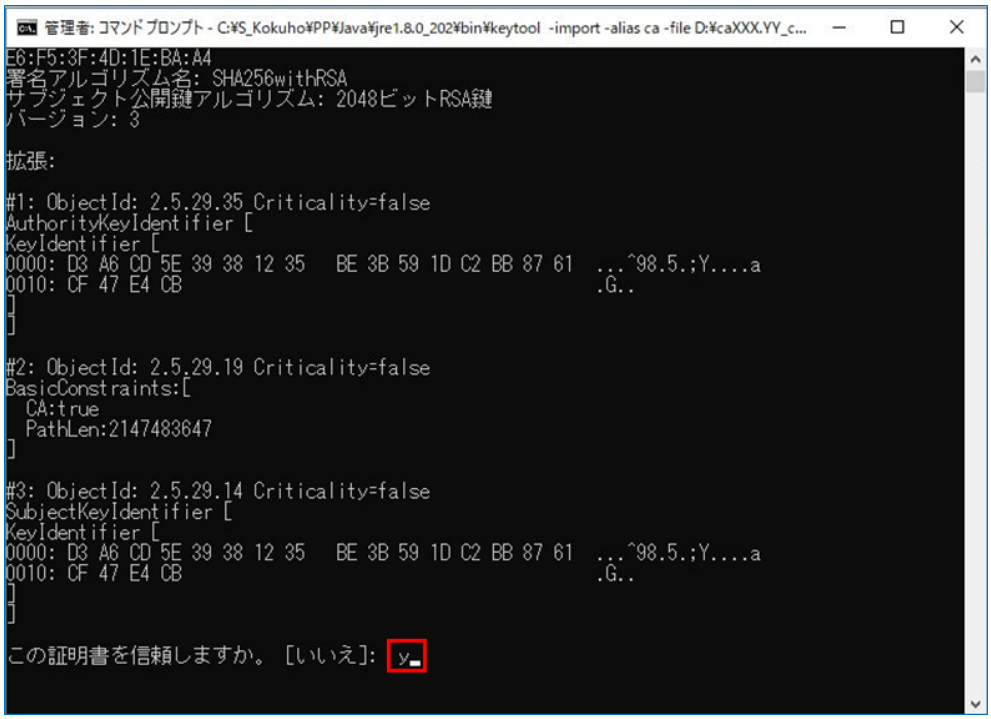
⚠ 注意事項

- パスワードを間違えた場合は、「管理者:コマンドプロンプト」画面を閉じます。手順 2. からやり直してください。

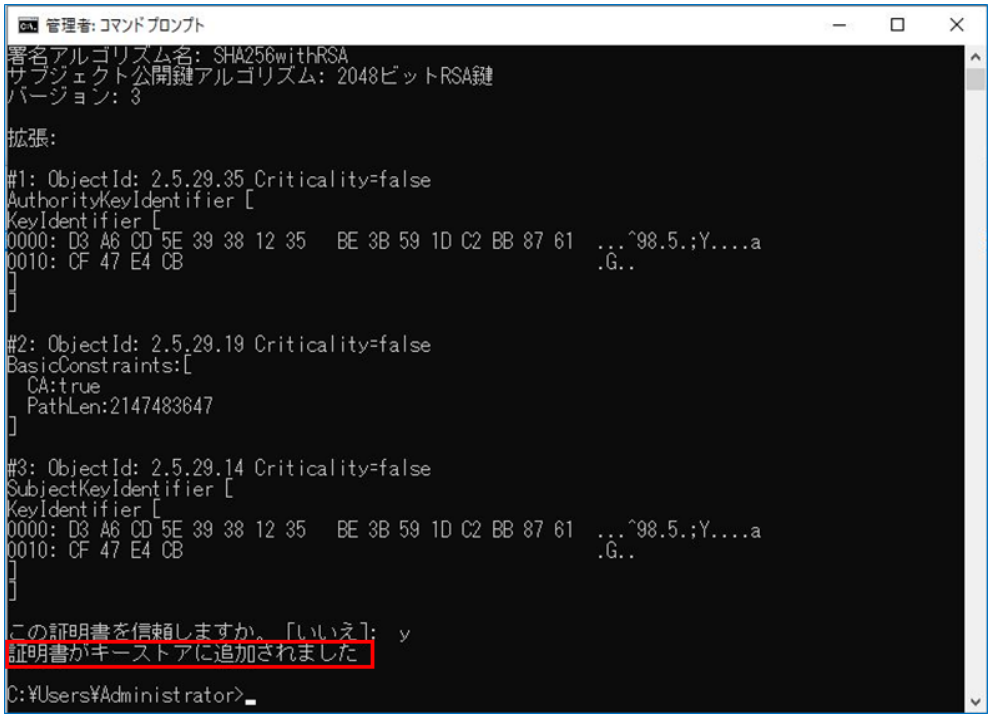
6.「新規パスワードを再入力してください：」と表示されるので、「changeit」と入力し、Enter キーを押下します（入力内容は表示されません）。



7.「この証明書を信頼しますか。[いいえ]：」と表示されるので、「y」（半角）を入力して Enter キーを押下します。



8.「証明書がキーストアに追加されました」と表示され、処理が完了します。



9.「コマンドプロンプト」画面で、SSL クライアント証明書を設定するため、次のコマンドを入力し、Enter キーを押下します。

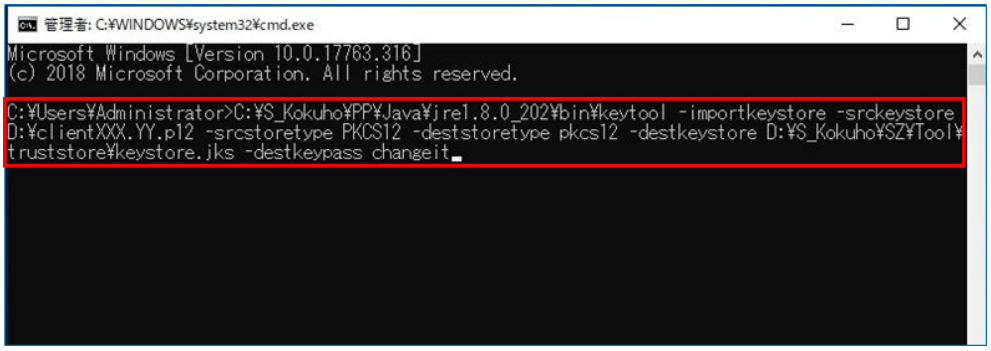
- 本番環境の設定を行う場合

  C:¥S_Kokuho¥PP¥Java¥jre1.8.0_202¥bin¥keytool△-importkeystore△-srckeystore△D:¥clientXXX.YY.p12△-srcstoretype△PKCS12△-deststoretype△pkcs12△-destkeystore△D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥truststore¥keystore.jks△-destkeypass△changeit

- テスト環境の設定を行う場合

  C:¥S_Kokuho¥PP¥Java¥jre1.8.0_202¥bin¥keytool△-importkeystore△-srckeystore△D:¥clientXXX.YY-test.p12△-srcstoretype△PKCS12△-deststoretype△pkcs12△-destkeystore△D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥truststore¥keystore.jks△-destkeypass△changeit

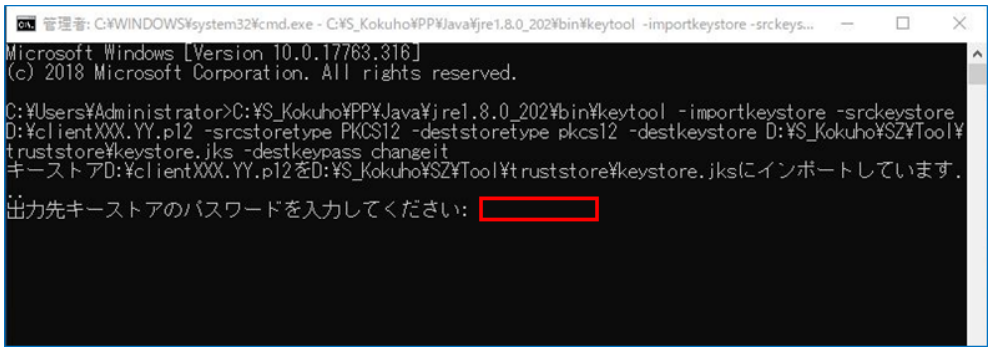
注　△は半角スペースを表します。



注意事項

- 上記コマンドの途中には改行は入りません。コマンドを最後まで入力してから Enter キーを押下してください。
- 「XXX.YY」は、「市町村連番（XXX）および都道府県英語表記（YY）の読み替え一覧」の市町村連番および都道府県英語表記となります。

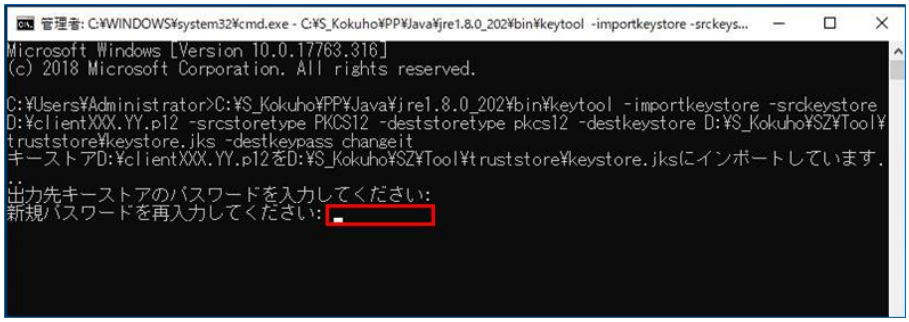
10.「出力先キーストアのパスワードを入力してください:」と表示されるので、「changeit」と入力し、Enter キーを押下します（入力内容は表示されません）。



注意事項

- パスワードを間違えた場合は、「管理者:コマンドプロンプト」画面を閉じます。手順 2. と手順 3. を実施した上で、手順 9. からやり直してください。

11.「新規パスワードを再入力してください：」と表示されるので、「changeit」と入力し、Enter キーを押下します（入力内容は表示されません）。



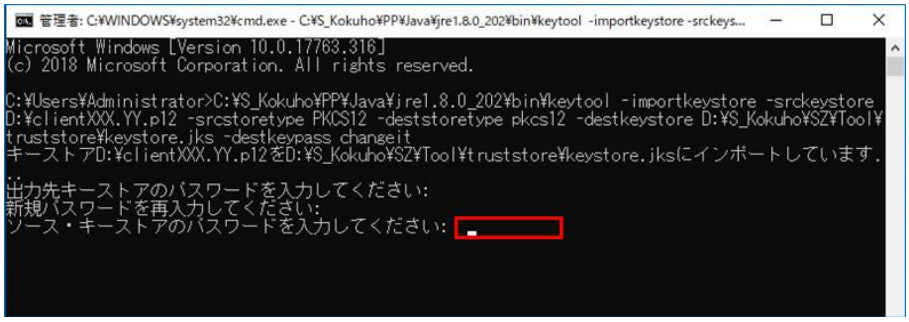
12.「ソース・キーストアのパスワードを入力してください:」と表示されるので、「3.3.1(1)証明書とパスワードの取得」で取得した SSL クライアント証明書のパスワードを入力し、Enter キーを押下します（入力内容は表示されません）。

入力するパスワードは、次に示すファイルに記載されています。

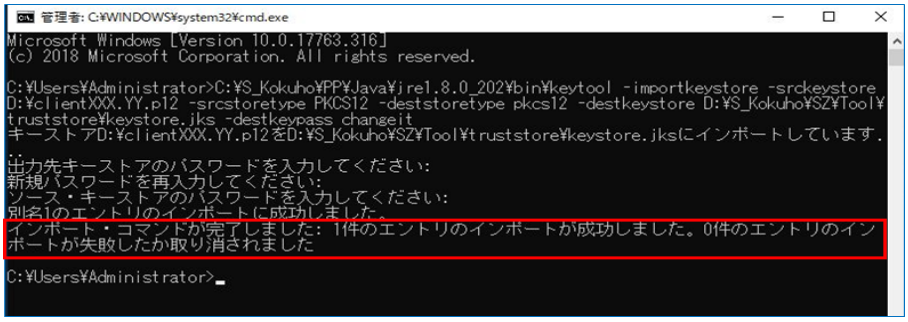
「clientXXX.YY.p12_password.txt」ファイル（本番環境）

「clientXXX.YY-test.p12_password.txt」ファイル（テスト環境）

注　「XXX.YY」は、「市町村連番（XXX）および都道府県英語表記（YY）の読み替え一覧」の市町村連番および都道府県英語表記となります。



13.「インポート・コマンドが完了しました:1 件のエントリのインポートが成功しました。0 件のエントリのインポートが失敗したか取り消されました」と表示され処理が完了します。



14. 本番環境またはテスト環境で証明書の設定完了後、手順 4. に戻り、残りの環境で証明書の設定を実施してください。

15. 右上の[×]ボタンをクリックして「管理者:コマンドプロンプト」画面を閉じます。

16.「エクスプローラー」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

3.3.3 hosts ファイルの編集の事前準備

hosts ファイルを編集する前に行う準備について説明します。

(1) hosts ファイルの編集ツールの取得

hosts ファイルの編集ツールは、国民健康保険中央会ホームページからダウンロードし、準備してください。取得したツールは、設定を行うクライアント機器で使用するため、CD などの媒体を経由してコピーしてください。

また、「3.3.1(1) 証明書とパスワードの取得」で取得したフォルダ配下にある「input_hosts.ini」ファイルを使用しますので、併せて CD などの媒体を経由してコピーしてください。

3.3.4 hosts ファイルの編集

(1) hosts ファイルの編集の事前作業

1. **エクスプローラーを起動し、「3.3.3(1) hosts ファイルの編集ツールの取得」で取得したツールを任意のフォルダ（C ドライブに「Work」フォルダを作成するなど）にコピーします。**

注意事項

- ツールを端末上のフォルダにコピーする際は、ダウンロードした ZIP 形式のまま行ってください。解凍後のファイルでは、ファイルが複数あり、コピーに失敗したファイルがあった際に気付きにくいためです。

(2) hosts ファイルの編集

1.「(1) hosts ファイルの編集の事前作業」の手順 1. でコピーした hosts ファイルの編集ツールを、任意のフォルダ（C ドライブに「Work」フォルダを作成するなど）に解凍します。

解凍後のフォルダ名、ファイル名を次に示します。

表 3-1 hosts ファイルの編集ツールのフォルダ名/ファイル名

No.	フォルダ名	ファイル名	説明
1	解凍先フォルダパス¥hosts ファイルの編集ツール	hosts ファイル編集.bat	hosts ファイル編集用のバッチプログラム

⚠ 注意事項

- 解凍先のフォルダパスは、Windows の制限により 259 文字以下（ファイル名を含む）とする必要があります。
- 解凍先のフォルダパスに半角括弧が含まれていないことを確認してください。半角括弧が含まれている場合、手順 8. の画面が表示されず、正常に処理されません。
  次の解凍先フォルダパスの例を参考としてください。
  ＜解凍先フォルダパスの例＞
  「C:¥Work¥YYYYMMDD」
  注　YYYYMMDD は作業実施日を示します。

2.「3.3.1(1) 証明書とパスワードの取得」で取得したフォルダ配下にある「input_hosts.ini」ファイルを、「解凍先フォルダパス¥hosts ファイルの編集ツール」配下にコピーします。

3.「解凍先フォルダパス¥hosts ファイルの編集ツール」フォルダ配下にある「input_hosts.ini」ファイルを右クリックし、[プログラムから開く]-[メモ帳]をクリックします。

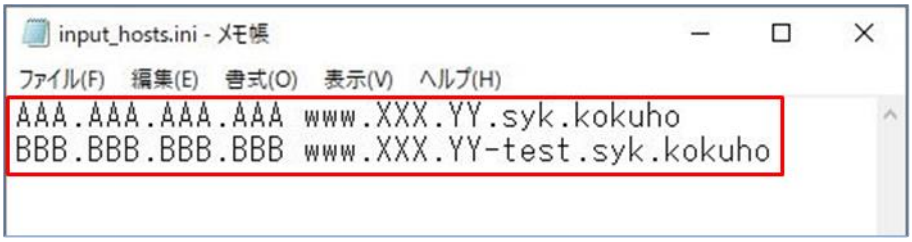
4. 手順 3. で開いたメモ帳の内容を確認します。

AAA.AAA.AAA.AAA△www.XXX.YY.syk.kokuho（本番環境）

BBB.BBB.BBB.BBB△www.XXX.YY-test.syk.kokuho（テスト環境）

注　IP アドレスおよびドメインの凡例について、次に示します。なお、IP アドレスについては「3.3.1(3) 接続先 IP アドレスの確認」で確認してください。ドメインについては「市町村連番（XXX）および都道府県英語表記（YY）の読み替え一覧」の項目「ドメイン（本番環境）」および「ドメイン（テスト環境）」の値を確認してください。

- AAA.AAA.AAA.AAA：本番環境の IP アドレス
- BBB.BBB.BBB.BBB：テスト環境の IP アドレス
- XXX：市町村連番
- YY：都道府県英語表記
- △：半角スペース



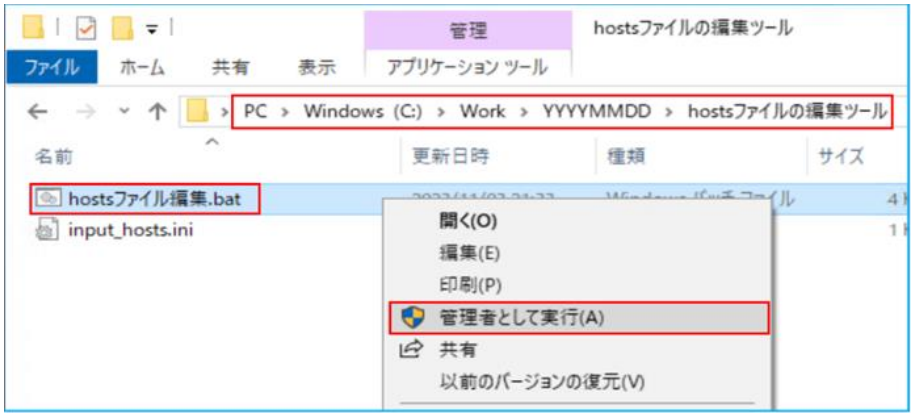
Point

■接続先 IP アドレスについて

接続先 IP アドレスは、国保情報集約システムの接続先 IP アドレスを市町村で導入するファイアウォールで NAT 変換した IP アドレスとなる場合があります。IP アドレスを NAT 変換した IP アドレスに書き換えて、上書き保存してください。

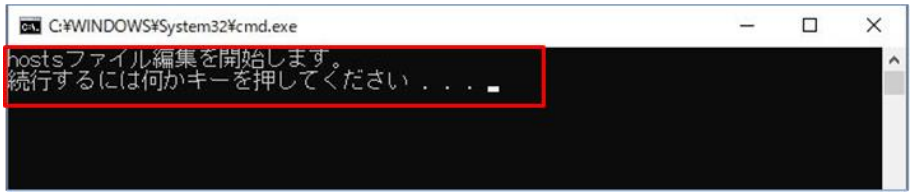
5. 画面左上の[ファイル]タブをクリックし、[メモ帳の終了]をクリックします。

6.「解凍先フォルダパス¥hosts ファイルの編集ツール」フォルダ配下にある「hosts ファイル編集.bat」ファイルを右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

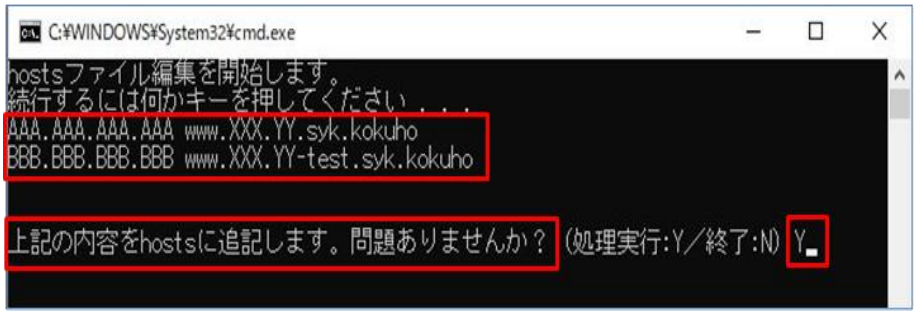


7.「ユーザー アカウント制御」画面で、[はい]ボタンをクリックします。

8. コマンドプロンプト画面で、「hosts ファイル編集を開始します。続行するには何かキーを押してください...」と表示されたことを確認し、Enter キーを押下します。

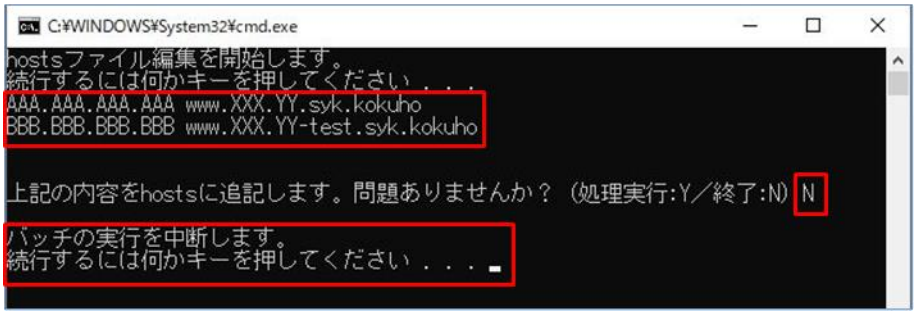


9.「上記の内容を hosts に追記します。問題ありませんか？（処理実行:Y／終了:N)」と表示されるので、表示された IP アドレスおよびドメインの内容に問題ないことを確認し、「Y」（半角）を入力し、Enter キーを押下します。

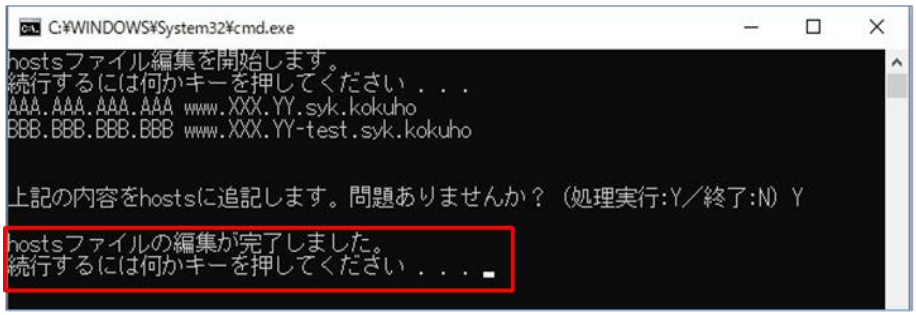


注　「上記の内容を hosts に追記します。問題ありませんか？(処理実行:Y／終了:N)」以外のメッセージが表示された場合または表示された IP アドレスおよびドメインに誤りがある場合は次に従ってください。

- 「input_hosts.ini が存在しません。[バッチファイル格納先パス]に格納してください。続行するには何かキーを押してください...」が表示された場合は、Enter キーを押下してコマンドプロンプトを終了させます。「input_hosts.ini」ファイルを[バッチファイル格納先パス]に格納の上、手順 3. から実施してください。なお、[バッチファイル格納先パス]は表示されたメッセージの内容に置き換えてください。
- 表示された IP アドレスおよびドメインに誤りがある場合は、「N」（半角）を入力して Enter キーを押下してください。その後、「バッチの実行を中断します。続行するには何かキーを押してください...」と表示されたことを確認し、Enter キーを押下します。



10.「hosts ファイルの編集が完了しました。続行するには何かキーを押してください...」と表示されたことを確認し、Enter キーを押下してコマンドプロンプトを終了します。



注　「hosts ファイルの編集が完了しました。続行するには何かキーを押してください...」以外のメッセージが表示された場合は次に従ってください。

- 「hosts ファイルのバックアップに失敗しました。本バッチファイルを「管理者として実行」から実行してください。続行するには何かキーを押してください...」が表示された場合は、Enter キーを押下してコマンドプロンプトを終了の上、手順 6. から実施してください。
- 「hosts ファイルの編集に失敗しました。続行するには何かキーを押してください...」が表示された場合は、Enter キーを押下してコマンドプロンプトを終了させます。業務支援システムに問い合わせてください。

3.4 国保情報集約システムへの接続について

国保情報集約システムに接続するための、アプリケーションの設定方法について説明します。

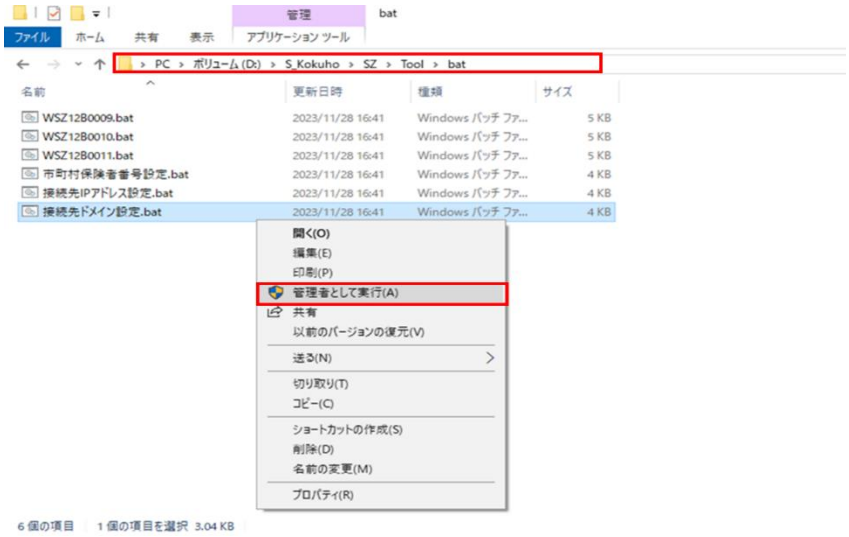
注意事項

・ 本章の作業は、すべて「Administrator」権限の OS ユーザアカウントで実施します。

3.4.1 アプリケーションの接続設定

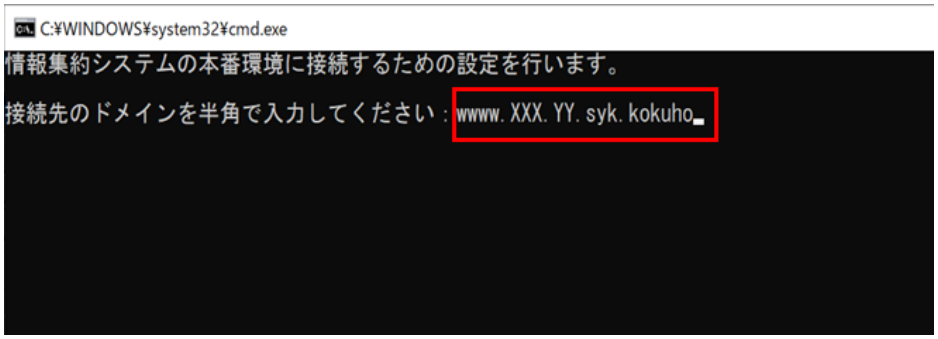
本手順では、本番環境とテスト環境それぞれのアプリケーションの設定を行います。設定に際しては、手順 1.～手順 4.を繰り返す必要があります。

1. 本番環境の場合は「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥bat」フォルダ配下にある「接続先ドメイン設定.bat」ファイルを、テスト環境の場合は「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥bat」フォルダ配下にある「接続先ドメイン設定.bat」ファイルを右クリックし[管理者として実行]をクリックします。

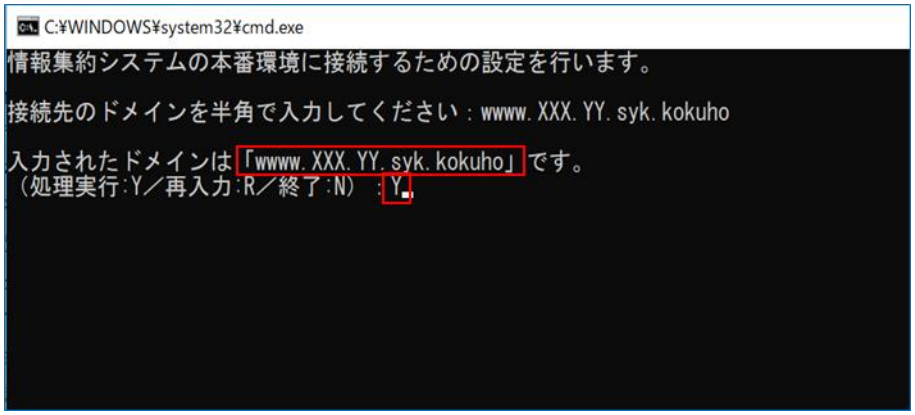


2. コマンドプロンプト画面で、本番環境またはテスト環境と表示されていることを確認し、本番環境の場合は接続先ドメイン「www.XXX.YY.syk.kokuho」をテスト環境の場合は、「www.XXX.YY-test.syk.kokuho」入力して Enter キーを押下します。

注　「XXX.YY」を含むドメインは、「市町村連番（XXX）および都道府県英語表記（YY）の読み替え一覧」の項目「ドメイン（本番環境）」および「ドメイン（テスト環境）」の値を入力してください。



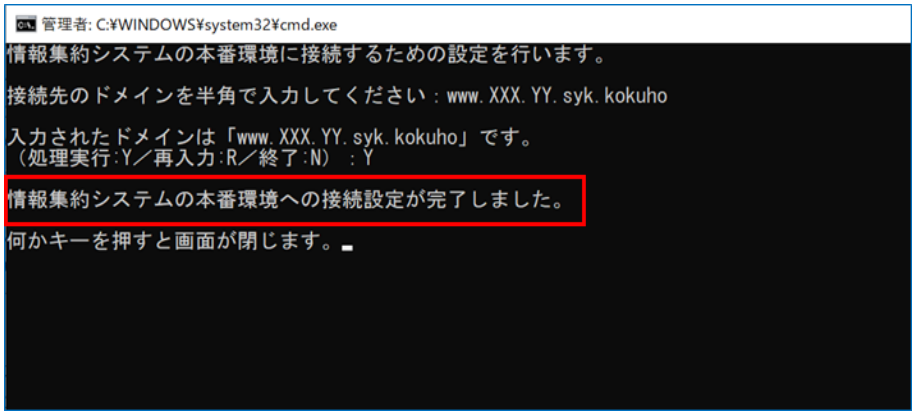
3. 接続先ドメインに誤りがないことを確認し、「Y」（半角）を入力して Enter キーを押下します。



⚠ 注意事項

- 接続先ドメインの入力に誤りがある場合は、「R」（半角）を入力して Enter キーを押下し、手順 2. に戻り再度接続先ドメインを入力してください。
- 処理を中止する場合は、「N」（半角）を入力し Enter キーを押下してください。

4. 本番環境の場合は「情報集約システムの本番環境への接続設定が完了しました。」、テスト環境の場合は「情報集約システムのテスト環境への接続設定が完了しました。」と表示されたことを確認し、Enter キーを押下してコマンドプロンプトを終了します。



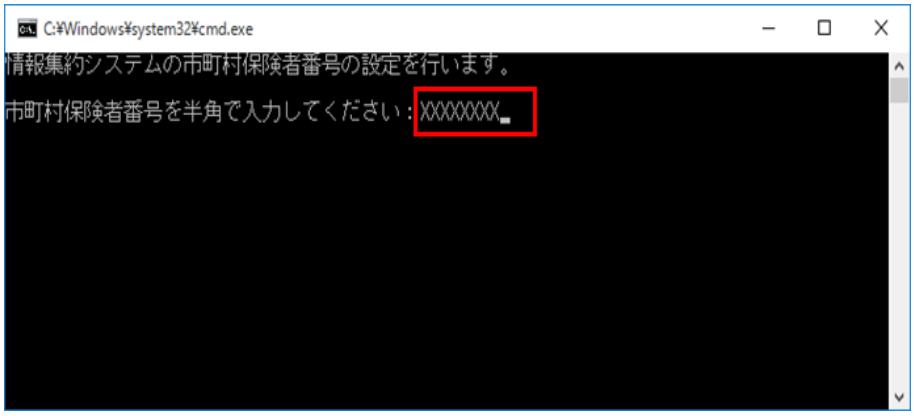
5. 本番環境またはテスト環境でアプリケーションの接続設定の完了後、手順 1. に戻り、残りの環境でアプリケーションの接続設定を実施してください。

3.4.2 市町村保険者番号の設定

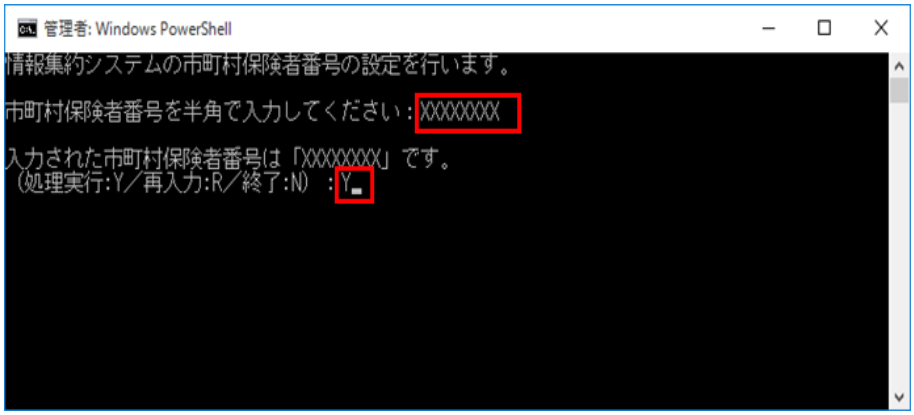
本手順では、本番環境とテスト環境それぞれの市町村保険者番号の設定を行います。
設定に際しては、手順 1.～手順 4. を繰り返す必要があります。

1. 本番環境の場合は「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥bat」フォルダ配下にある「市町村保険者番号設定.bat」ファイルを、テスト環境の場合は「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥bat」フォルダ配下にある「市町村保険者番号設定.bat」ファイルを右クリックし[管理者として実行]をクリックします。

2. コマンドプロンプト画面で、市町村保険者番号を半角数字で入力して Enter キーを押下します。



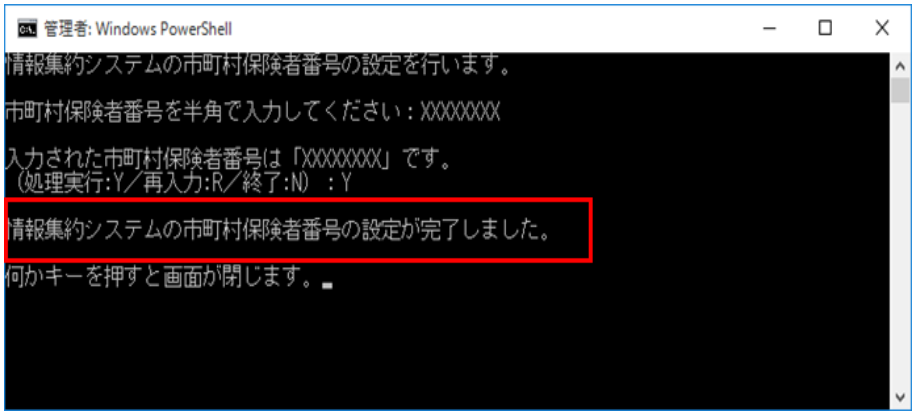
3. 市町村保険者番号に誤りがないことを確認し、「Y」（半角）を入力して Enter キーを押下します。



⚠ 注意事項

- 市町村保険者番号の入力に誤りがある場合は、「R」（半角）を入力して Enter キーを押下し、手順 2. に戻り再度市町村保険者番号を入力してください。
- 処理を中止する場合は、「N」（半角）を入力し Enter キーを押下してください。

4.「情報集約システムの市町村保険者番号の設定が完了しました。」と表示されたことを確認し、Enter キーを押下して、コマンドプロンプトを終了します。



5. 本番環境またはテスト環境で市町村保険者番号の設定完了後、手順 1. に戻り、残りの環境で市町村保険者番号の設定を実施してください。

6.「エクスプローラー」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

以上でデータ連携用 PC の構築作業は完了です。データ連携用 PC の利用方法は「4 データ連携用 PC の利用方法」を参照してください。障害対応手順は「5 障害対応手順」を参照してください。

3.5 アプリケーションの更新

3.5.1 本手順を実施するための前提

本手順を実施するための前提について、以下に示します。作業を行う前に、必ず確認してください。

・ アプリケーションの適用がされていること

⚠ アプリケーションの適用がされていることの確認について

・ 以下のフォルダが存在していることを確認してください。

「D:¥S_Kokuho」

「D:¥S_Kokuho_Test」

・ アプリケーションの適用のみを行う場合は、本手順を実施する必要はありません。

また、本手順を実施する前に、市町村の判断にてバックアップを取得してください。

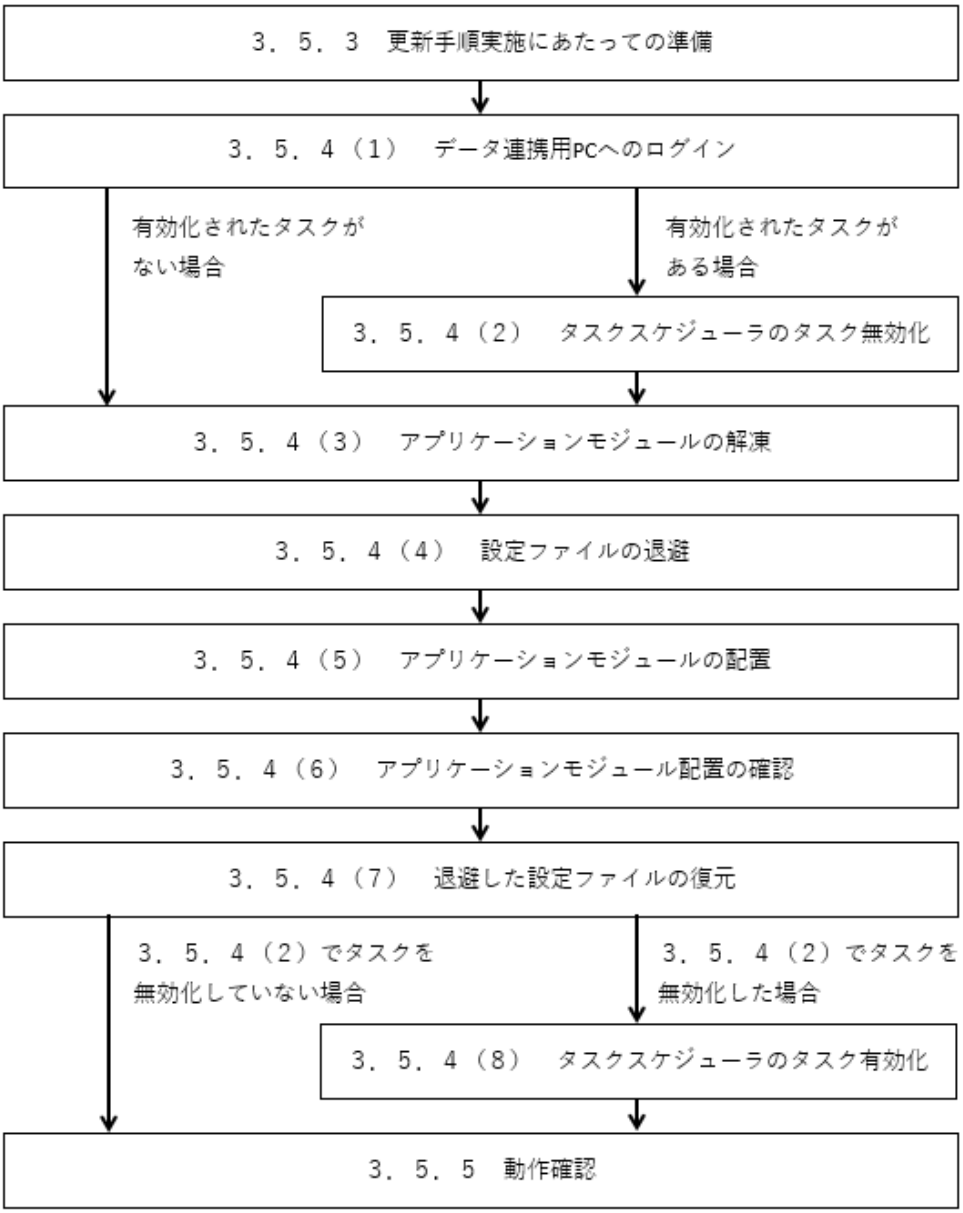
データ連携用 PC のバックアップソフトウェアは任意製品かつ未指定としております。

そのため、バックアップを取得する場合は、導入したバックアップソフトウェアの製品マニュアルを参照して実施してください。

3.5.2 作業フロー

本手順の作業フローを以下に示します。

以下の作業フローに従って、データ連携用 PC にアプリケーションモジュールを更新してください。



3.5.3 更新手順実施にあたっての準備

(1) OS のユーザアカウント情報の確認

データ連携用 PC のアプリケーションモジュールの更新作業は、「Administrator」権限のユーザアカウントでログインして実施します。「Administrator」権限のユーザ名、パスワードを確認してください。

⚠ パスワードの扱いについて

・ パスワードは、第三者の目に触れることがないように、十分にご注意ください。

(2) アプリケーションモジュールの取得

アプリケーションモジュールは、国民健康保険中央会ホームページからダウンロードし、準備してください。準備したアプリケーションモジュールは、「3.5.4 アプリケーションの更新手順」で使用します。取得したアプリケーションモジュールは、CD などの媒体を経由し、データ連携用 PC にコピーしてください。

3.5.4 アプリケーションの更新手順

(1) データ連携用 PC へのログイン

データ連携用 PC へ、「Administrator」権限のユーザでログインします。

(2) タスクスケジューラのタスク無効化

タスクスケジューラに登録したファイル連携処理が実行中の場合、アプリケーションモジュールの更新ができません。「国保情報集約システム　データ連携用 PC 構築・利用ガイド」の「付録.F.2 タスクの無効化手順」を参照し、以下のタスクを無効化してください。

なお、すでに無効となっているタスクについては作業不要です。

・ ファイル連携（受信）（テスト環境）
・ ファイル連携（受信）（本番環境）
・ ファイル連携（送信）（テスト環境）
・ ファイル連携（送信）（本番環境）

(3) アプリケーションモジュールの解凍

1.「3.5.3(2) アプリケーションモジュールの取得」で入手したZIPファイルを任意のフォルダ（Dドライブに「Work」フォルダを作成するなど）にコピーし、解凍してください。

⚠ 注意事項

- 入手したZIPファイルをデータ連携用PC上のフォルダにコピーする際は、ZIP形式のまま行ってください。解凍後のファイルでは、（ファイルが複数あるため）コピーに失敗したファイルがあった際に気付きにくいためです。
- 解凍先のフォルダパスは、Windowsの制限のため259文字以下（ファイル名を含む）とする必要があります。
  次の解凍先フォルダパスの例を参考としてください。
  ＜解凍先フォルダパスの例＞
  「D:¥Work¥YYYYMMDD」
  注　YYYYMMDDは作業実施日を示します。

2. 解凍後、「解凍先フォルダパス¥データ連携用PC¥D」フォルダの配下に「S_Kokuho」フォルダおよび「S_Kokuho_Test」フォルダが作成されていることを確認してください。

(4) 設定ファイルの退避

任意のフォルダ（Dドライブに「Work」フォルダを作成するなど）に以下のファイルをフォルダ階層ごとコピーしてください。

「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥conf¥SZ_RenkeiCustom.properties」

「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥conf¥SZ_Common.ini」

「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥conf¥SZ_RenkeiCustom.properties」

「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥conf¥SZ_Common.ini」

(5) アプリケーションモジュールの配置

「解凍先フォルダパス¥データ連携用PC¥D」フォルダの配下にある「S_Kokuho」および「S_Kokuho_Test」フォルダを、Dドライブ直下に上書きコピーしてください。

上書きコピーする際に、「ファイルの置換またはスキップ」画面が表示されますので、「ファイルを置き換える」をクリックしてください。

(6) アプリケーションモジュール配置の確認

1.「D:¥S_Kokuho¥version.txt」をダブルクリックします。

2. 1行目に、最新バージョン※が記載されていることを確認します。

3.「D:¥S_Kokuho_Test¥version.txt」をダブルクリックします。

4. 1行目に、最新バージョン※が記載されていることを確認します。

注※　アプリケーションモジュールの最新バージョン情報は、国民健康保険中央会ホームページの更新のお知らせをご確認ください。

(7) 退避した設定ファイルの復元

「3.5.4(4) 設定ファイルの退避」で退避したファイルを、以下のファイルに上書きコピーする。

「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥conf¥SZ_RenkeiCustom.properties」

「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥conf¥SZ_Common.ini」

「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥conf¥SZ_RenkeiCustom.properties」

「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥conf¥SZ_Common.ini」

(8) タスクスケジューラのタスク有効化

「3.5.4(2) タスクスケジューラのタスク無効化」で無効化した以下のタスクを、「国保情報集約システム　データ連携用PC構築･利用ガイド 付録.F.1 タスクの有効化手順」を参照し、有効化してください。なお、本手順の作業を行う前から無効化していたタスクについては有効化する必要はありません。

- ファイル連携（受信）（テスト環境）
- ファイル連携（受信）（本番環境）
- ファイル連携（送信）（テスト環境）
- ファイル連携（送信）（本番環境）

3.5.5 動作確認

本マニュアルの「4.1.2 ファイル自動連携の動作確認」を参照し、ファイル連携処理が正常に実行されることを確認してください。

4 データ連携用 PC の利用方法

データ連携用 PC と国保情報集約システム間でファイルを送受信するための処理は、タスクスケジューラで自動的に実行します。
この章では、タスクスケジューラの設定方法およびファイルを送受信するための処理の使用手順について説明します。

4.1 実行準備

データ連携用 PC と国保情報集約システム間でファイルを送受信するための処理は、タスクスケジューラで自動的に実行します。

ここでは、データ連携用 PC でファイルの送受信を実行するための準備として行う、タスクスケジューラの設定および動作確認の手順を説明します。

注意事項

- 本章の作業は、すべて「Administrator」権限の OS ユーザアカウントで実施します。
- 本手順は LTSC 2019 の手順例です。バージョンによって手順に差異がある場合がありますので、バージョンに合わせて設定してください。

Point

■市町村国保システムとデータ連携用 PC 間のファイル受け渡しについて

市町村国保システムとデータ連携用 PC 間のファイル受け渡し方法については、市町村にて決定してください。

4.1.1 タスクスケジューラを設定する

(1) タスクスケジューラの設定概要

タスクスケジューラは、実行する処理や実行間隔を設定することで、処理を自動的に実行します。

データ連携用 PC で自動実行させる処理には、ファイル連携（送信）、ファイル連携（受信）または受信処理異常検知の 3 つがあります。また、データ連携用 PC には本番サーバ（本番環境）への連携用の環境、テストサーバ（テスト環境）への連携用の環境の 2 つの環境を構築します。

そのため、タスクスケジューラには次に示す計 5 つの処理の設定を行います。

- 本番環境へのファイル連携（送信）処理
- 本番環境からのファイル連携（受信）処理
- テスト環境へのファイル連携（送信）処理
- テスト環境からのファイル連携（受信）処理
- 受信処理異常検知

Point

■タスクスケジューラの設定値について

タスクスケジューラに設定する値は以降の設定手順で個別に記載していますが、「付録.E ファイル自動連携するためのタスクスケジューラの設定」にすべての設定値を纏めた一覧表を記載していますので参考にしてください。

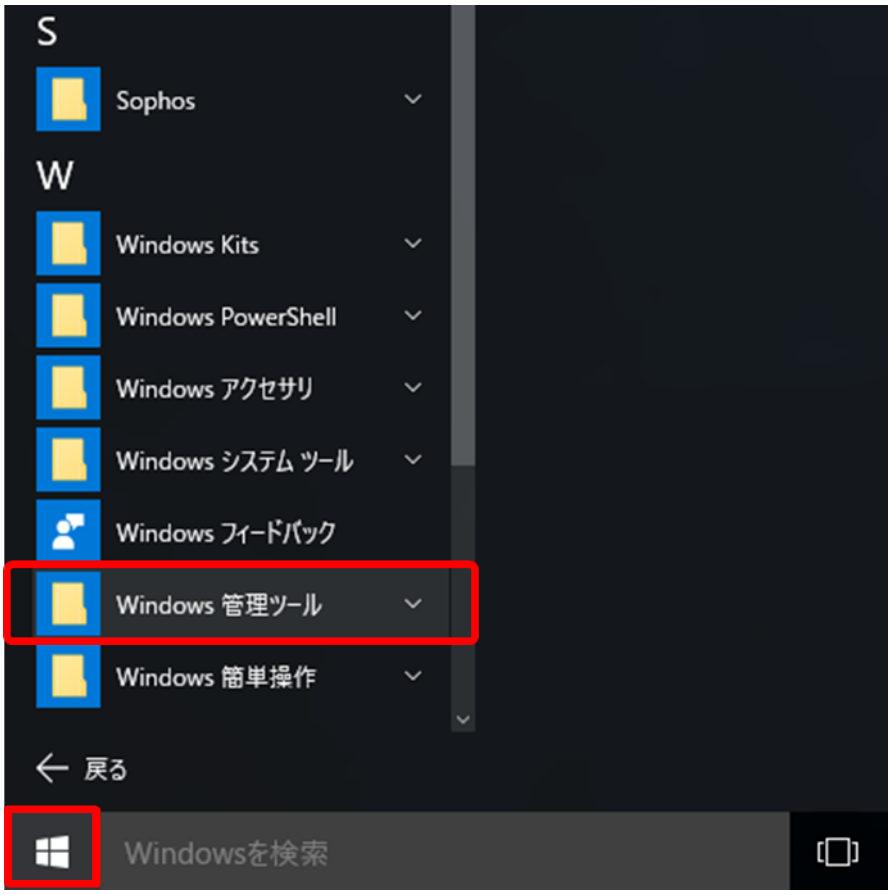
(2) タスクスケジューラへの処理の設定手順

(a) ファイル連携の設定

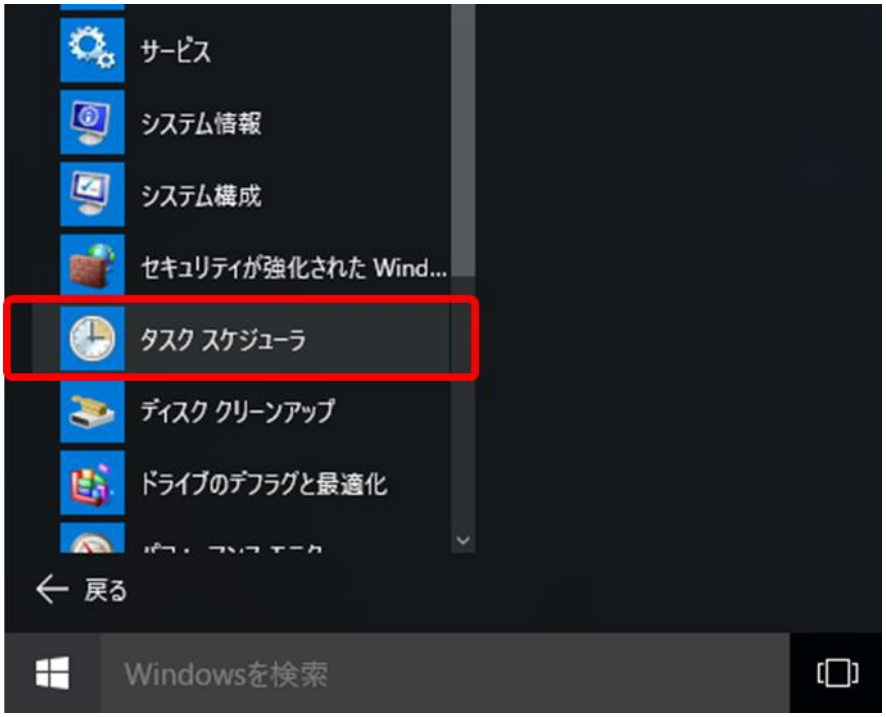
タスクスケジューラは次に示す手順 3.～手順 12.を繰り返し行い、次の 4 つの処理の設定を行います。

- 本番環境へのファイル連携（送信）処理
- 本番環境からのファイル連携（受信）処理
- テスト環境へのファイル連携（送信）処理
- テスト環境からのファイル連携（受信）処理

1. [スタート]アイコンをクリックし、[Windows 管理ツール]をクリックします。



2. [タスク　スケジューラ]をクリックします。



「タスク　スケジューラ」画面が表示されます。

3. [タスクの作成]をクリックします。

「タスクの作成」画面が表示されます。

4. ［全般］タブの名前欄にタスクに付ける名前を設定します。「名前」欄に設定する値は、設定する処理ごとに異なります。「名前」欄の設定値を表 4-1 に示します。

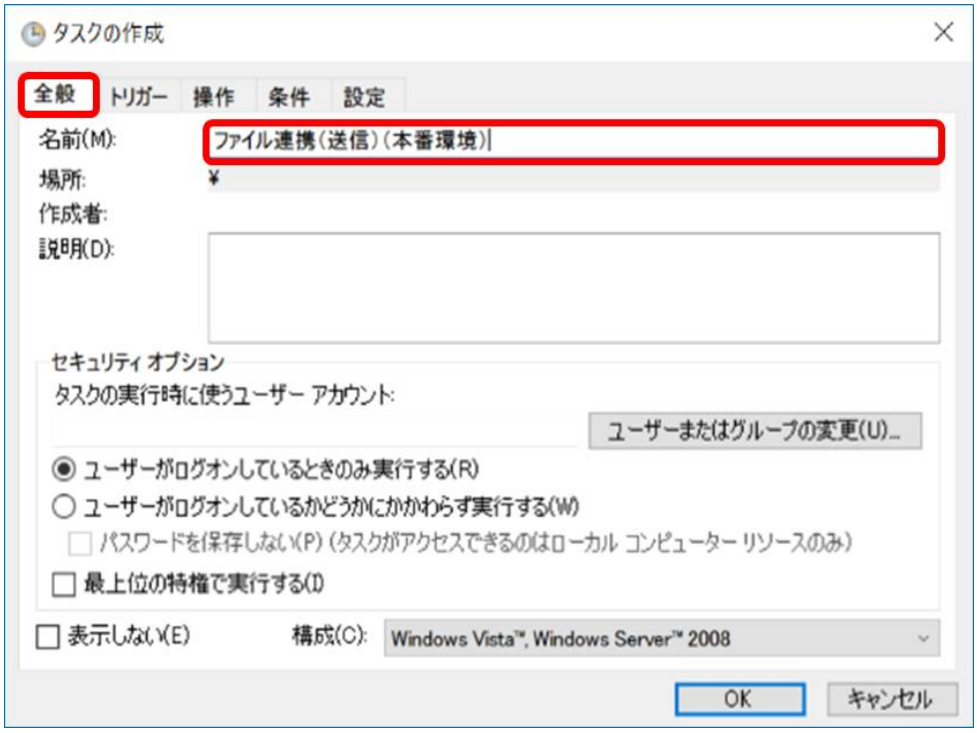
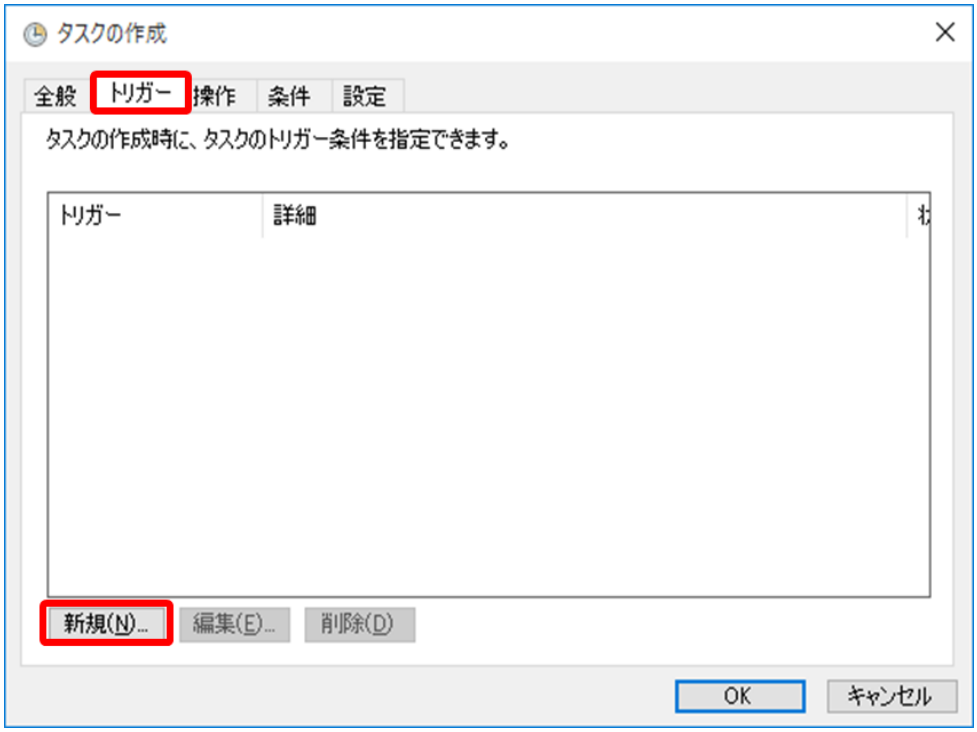


表 4-1 名前欄の設定値

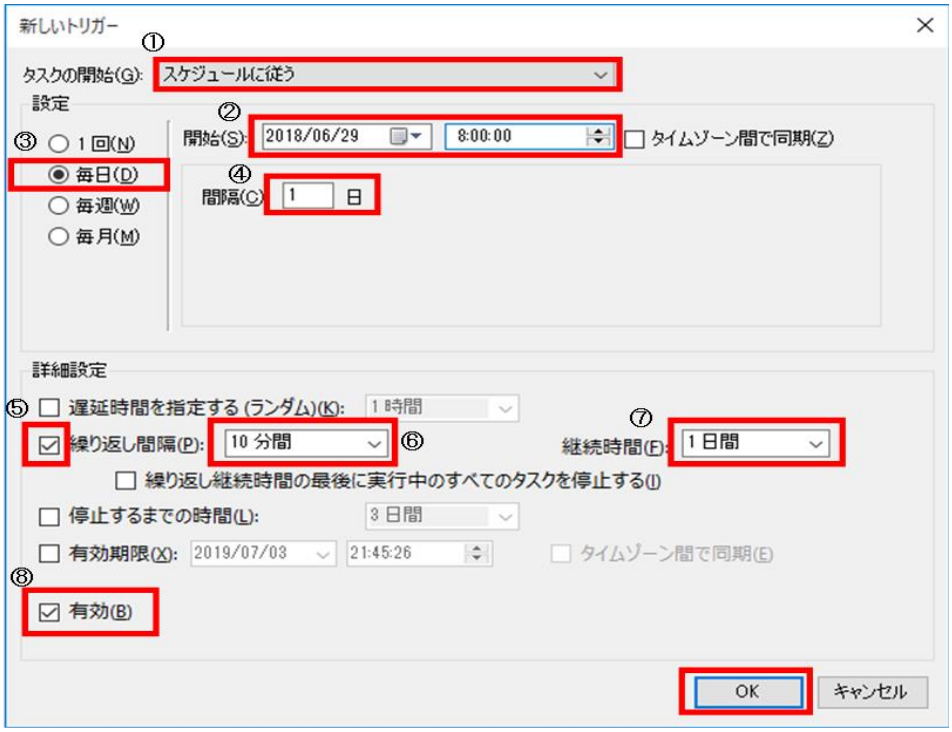
No.	設定対象処理	名前欄の設定値
1	本番環境へのファイル連携（送信）処理	ファイル連携（送信）（本番環境）
2	本番環境からのファイル連携（受信）処理	ファイル連携（受信）（本番環境）
3	テスト環境へのファイル連携（送信）処理	ファイル連携（送信）（テスト環境）
4	テスト環境からのファイル連携（受信）処理	ファイル連携（受信）（テスト環境）

5. [トリガー]タブを選択し、[新規]ボタンをクリックします。



「新しいトリガー」画面が表示されます。

6.「新しいトリガー」画面に、次の値を設定し、[OK]ボタンをクリックします。「新しいトリガー」画面の設定値を表 4-2 に示します。



図中の丸付き数字は、次の表 4-2 の No. と対応しています。

表 4-2 「新しいトリガー」画面の設定値

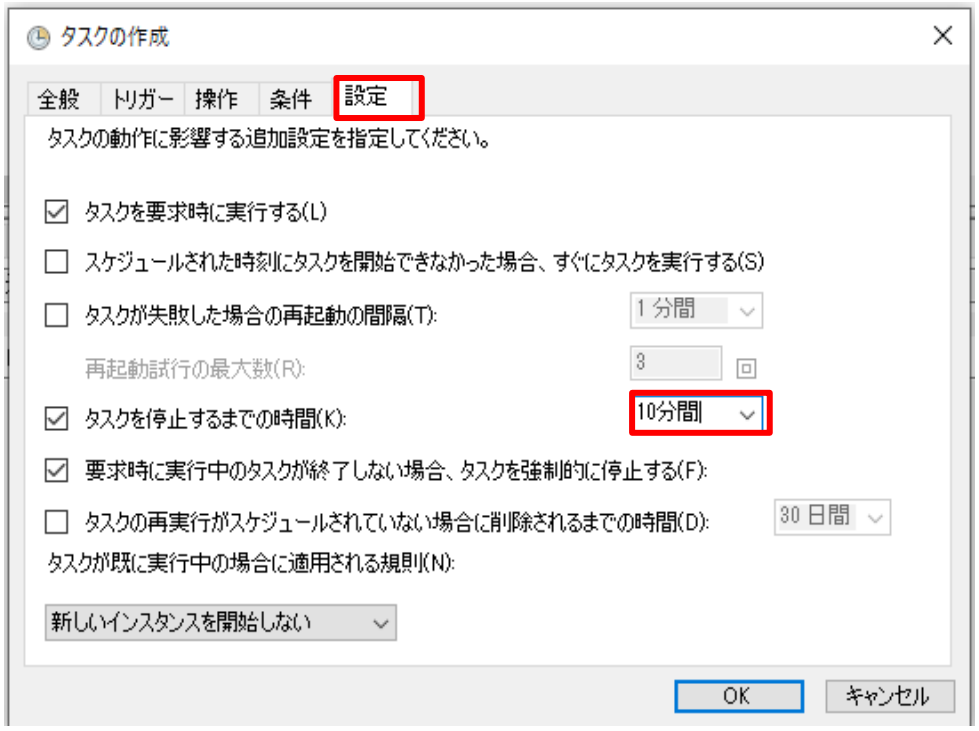
No.	設定項目	設定値
1	タスクの開始	スケジュールに従う
2	開始※1	・ 実行時間帯を 24 時間とする場合 タスクの使用を開始する年月日、時刻を設定する ・ 実行時間帯から AP サーバおよび Web サーバが停止する時間帯を除外する場合 タスクの使用を開始する年月日を設定し、時刻にはタスクの開始時刻※2 を設定する
3	設定	毎日
4	間隔	1 日
5	繰り返し間隔チェックボックス	チェックする
6	繰り返し間隔	10 分間
7	継続時間※1	・ 実行時間帯を 24 時間とする場合 1 日間を設定する ・ 実行時間帯から AP サーバおよび Web サーバが停止する時間帯を除外する場合 タスクの開始時刻から停止時刻※2 までの時間を分単位で設定する （例）3:00～24:00 まで実行する場合 3:00～24:00=21 時間=1260 分 1260 を入力する
8	有効チェックボックス	チェックする

注※１　実行時間帯を 24 時間の設定にしても、後から実行時間帯を AP サーバおよび Web サーバが停止する時間帯から除外することが可能です。変更方法については「付録.G タスクの実行時間帯変更手順」を参照してください。

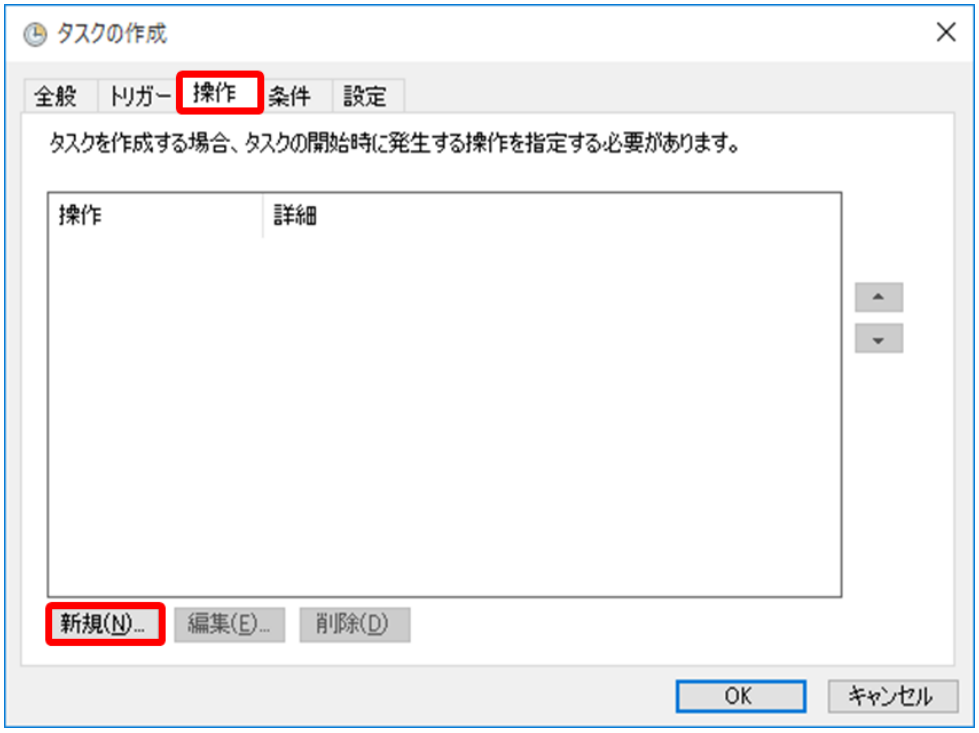
注※２　AP サーバおよび Web サーバが停止する時間帯については業務処理量によって日ごとに変動するため、タスクの開始時刻および停止時刻については国保連合会に確認してください。

7. 設定対象が「本番環境へのファイル連携（受信）処理」および「テスト環境へのファイル連携（受信）処理」の場合は、手順 8. 以降を実施してください。異なる場合は、手順 9. 以降を実施してください。

8.「設定」タブを選択し、「タスクを停止するまでの時間」に「10 分間」と入力します。



9. [操作]タブを選択し、[新規]ボタンをクリックします。



「新しい操作」画面が表示されます。

10.「新しい操作」画面に、次の値を設定し、[OK]ボタンをクリックします。「新しい操作」画面の設定値を表 4-3 に示します。「プログラム／スクリプト」欄に設定する値は、設定する処理ごとに異なります。「プログラム／スクリプト」欄の設定値を表 4-4 に示します。

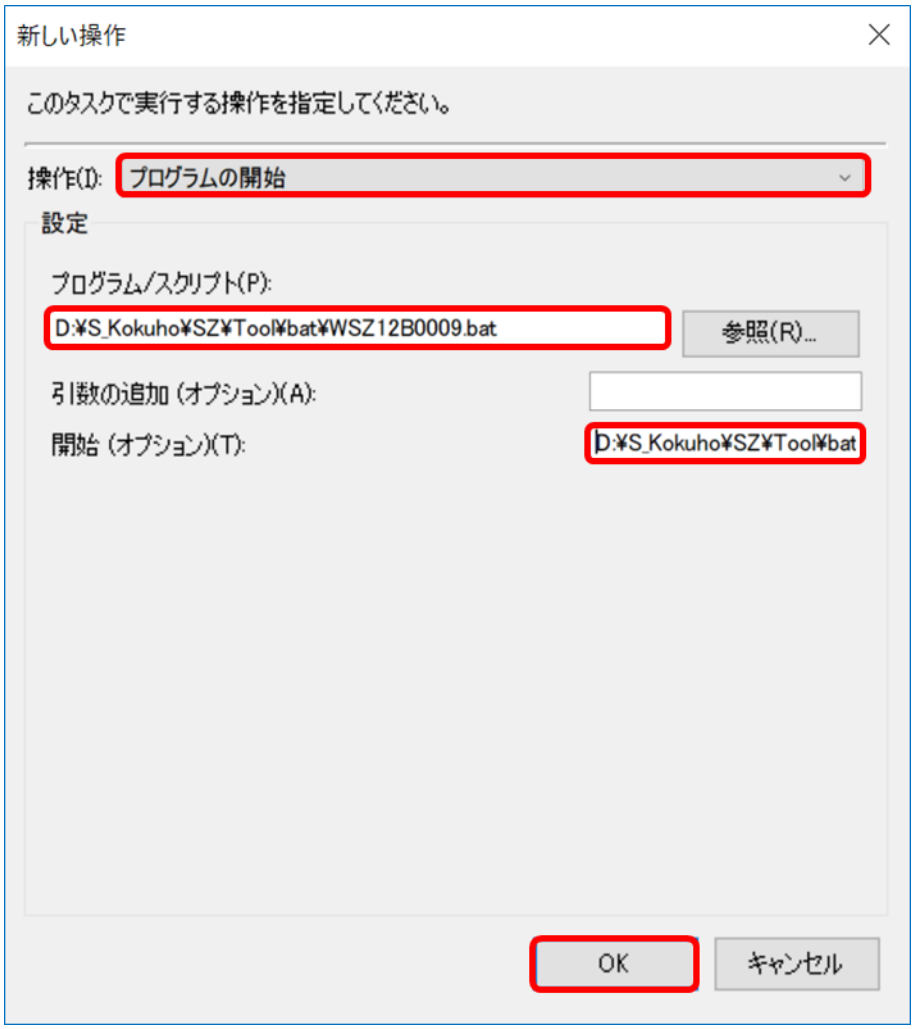


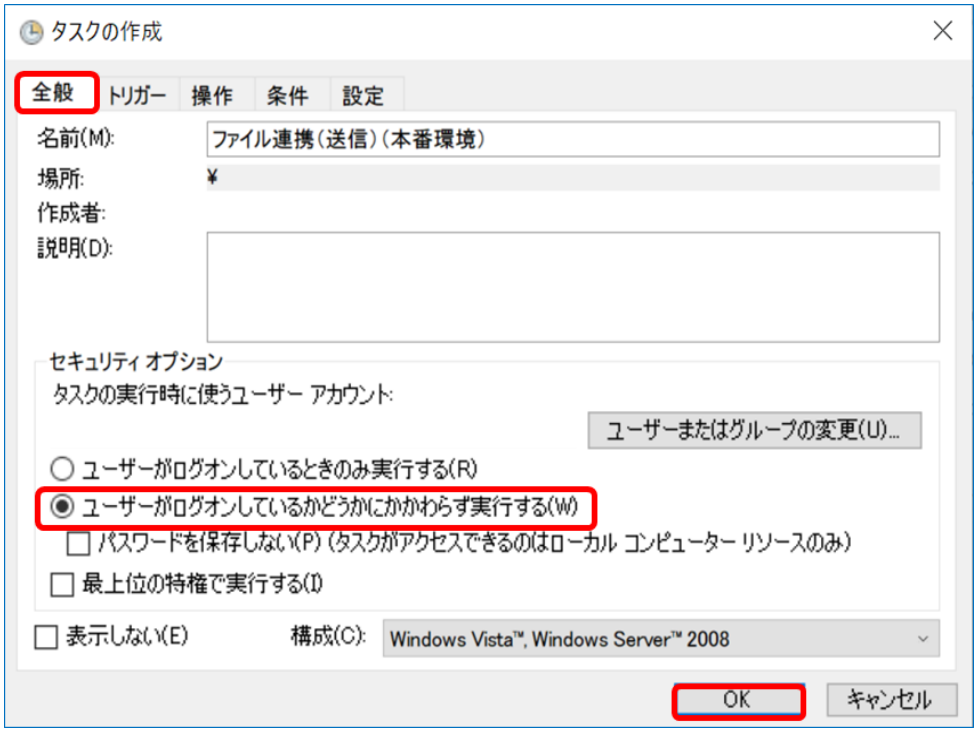
表 4-3 「新しい操作」画面の設定値

No.	設定項目	設定値
1	操作	プログラムの開始
2	プログラム／スクリプト	「表 4-4 プログラム／スクリプト欄の設定値」参照
3	開始（オプション）	プログラム／スクリプトを実行するパスを設定します。 (本番環境　D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥bat テスト環境　D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥bat)

表 4-4 プログラム／スクリプト欄の設定値

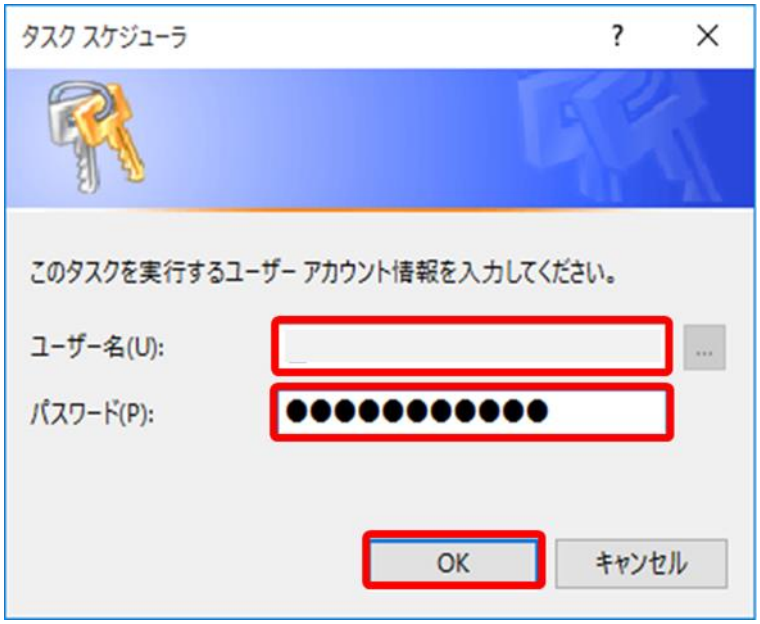
No.	設定対象処理	プログラム／スクリプト欄の設定値
1	本番環境へのファイル連携（送信）処理	D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥bat¥WSZ12B0009.bat
2	本番環境からのファイル連携（受信）処理	D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥bat¥WSZ12B0010.bat
3	テスト環境へのファイル連携（送信）処理	D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥bat¥WSZ12B0009.bat
4	テスト環境からのファイル連携（受信）処理	D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥bat¥WSZ12B0010.bat

11. [全般]タブを選択、セキュリティオプションから[ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



注　タスクの作成において[ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する]を選択した場合、手順 12. で入力するユーザ名、パスワードを資格情報として保存しています。タスク内で実行される処理でネットワークログオンを行う際、保存した資格情報を使用しています。

12.「タスク スケジューラ」画面で「ユーザー名」に「コンピュータ名¥Administrator」、「パスワード」に Administrator のパスワードを設定し、[OK]ボタンをクリックします。



Point

■「ユーザー名」に設定するコンピュータ名について

コンピュータ名は「2.2.1 基本設定」で設定した値とします。

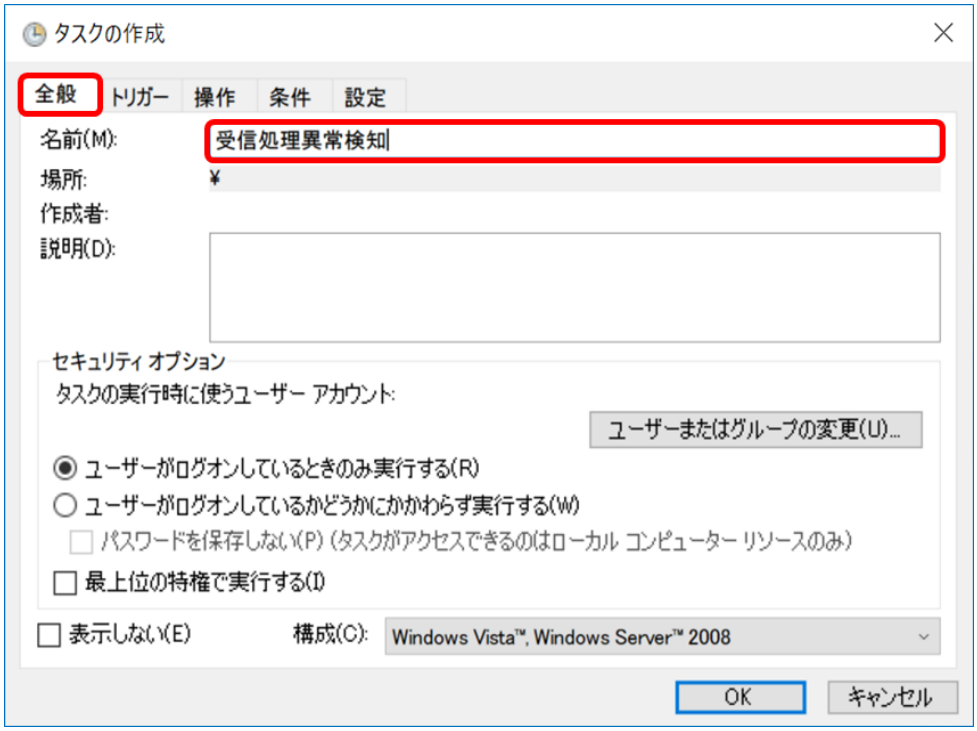
13. 手順 3.～手順 12. を繰り返し行い、残りの処理の設定を行います。

(b) 受信処理異常検知の設定

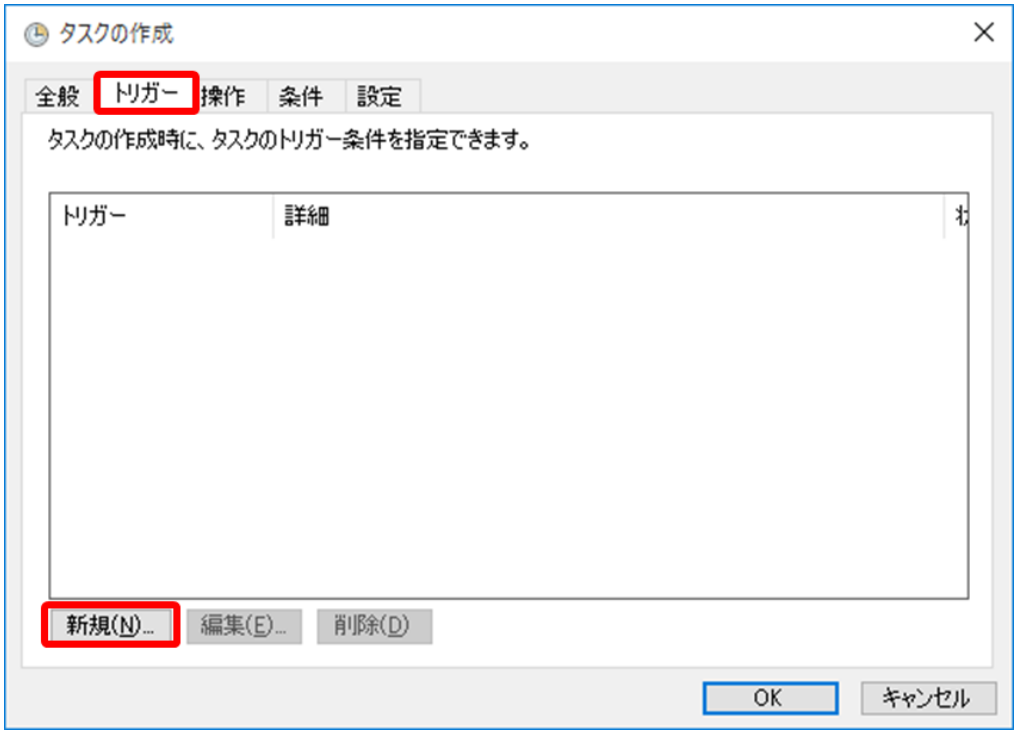
1. [タスクの作成]をクリックします。

「タスクの作成」画面が表示されます。

2. [全般]タブの「名前」に「受信処理異常検知」と入力します。

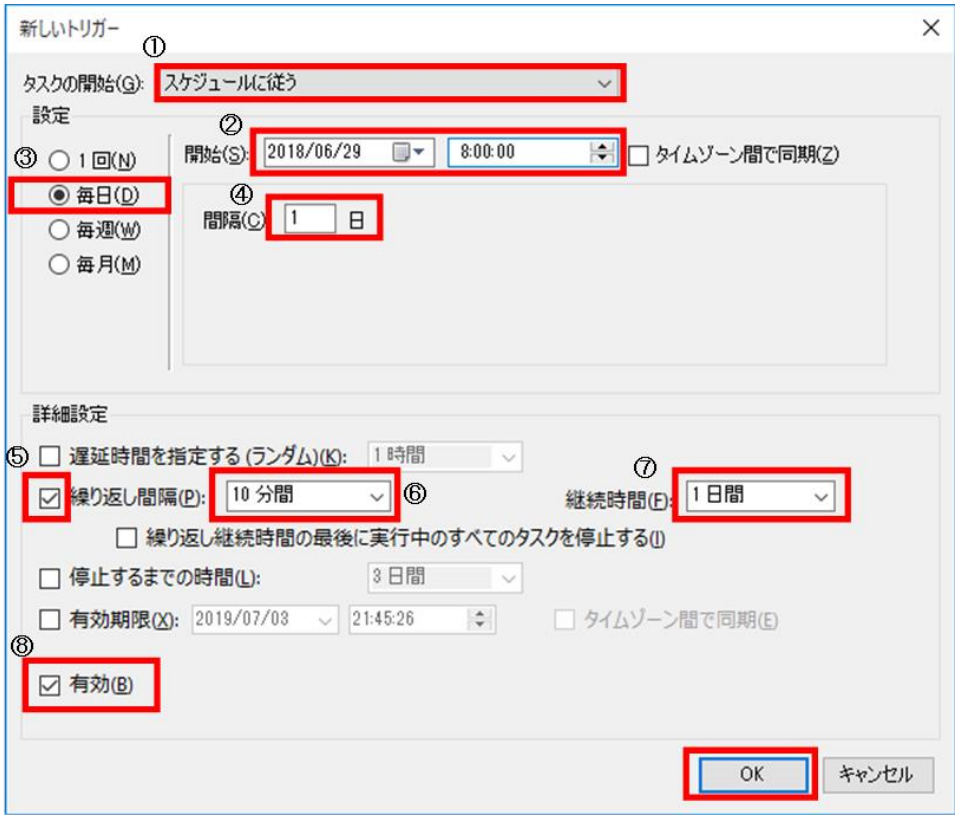


3. [トリガー]タブを選択し、[新規]ボタンをクリックします。



「新しいトリガー」画面が表示されます。

4.「新しいトリガー」画面に、次の値を設定し、[OK]ボタンをクリックします。「新しいトリガー」画面の設定値を表 4-5 に示します。

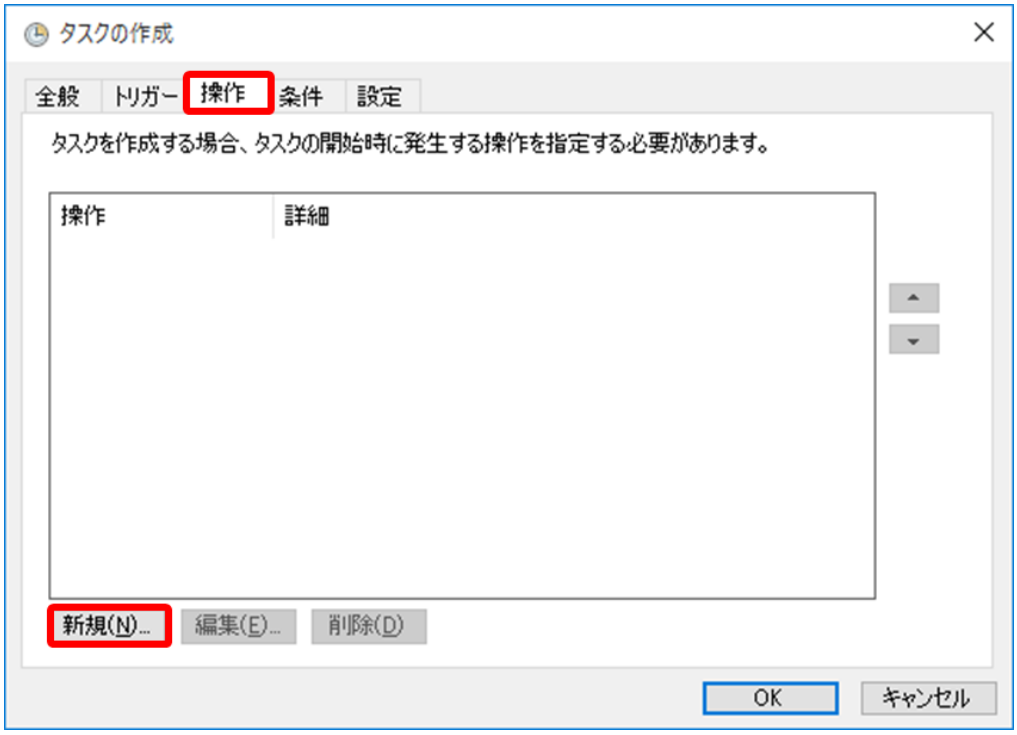


図中の丸付き数字は、次の表の No. と対応しています。

表 4-5 「新しいトリガー」画面の設定値

No.	設定項目	設定値
1	タスクの開始	スケジュールに従う
2	開始	・ 実行時間帯を 24 時間とする場合 タスクの使用を開始する年月日、時刻を設定する ・ 実行時間帯から AP サーバおよび Web サーバが停止する時間帯を除外する場合 タスクの使用を開始する年月日を設定し、時刻にはタスクの開始時刻を設定する
3	設定	毎日
4	間隔	1 日
5	繰り返し間隔チェックボックス	チェックする
6	繰り返し間隔	10 分間
7	継続時間	1 日
8	有効チェックボックス	チェックする

5. [操作]タブを選択し、[新規]ボタンをクリックします。



「新しい操作」画面が表示されます。

6.「新しい操作」画面に、次の値を設定し、[OK]ボタンをクリックします。「新しい操作」画面の設定値を表 4-6 に示します。

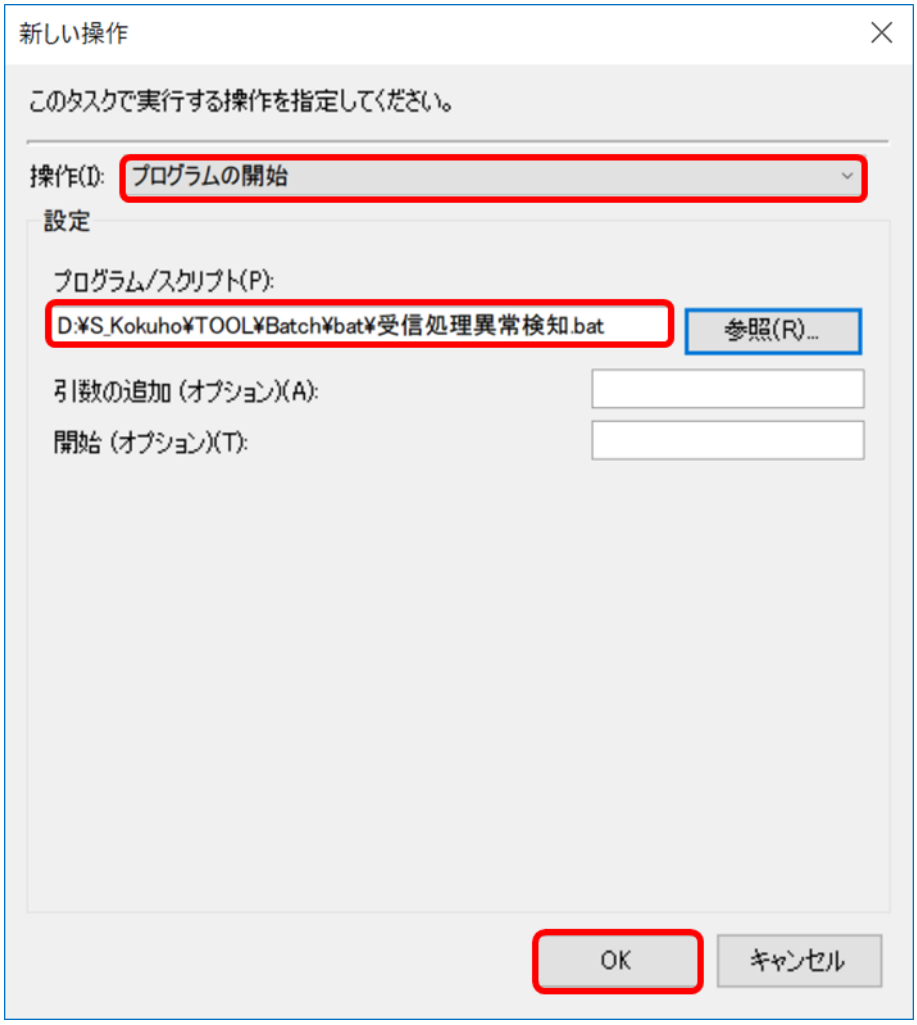
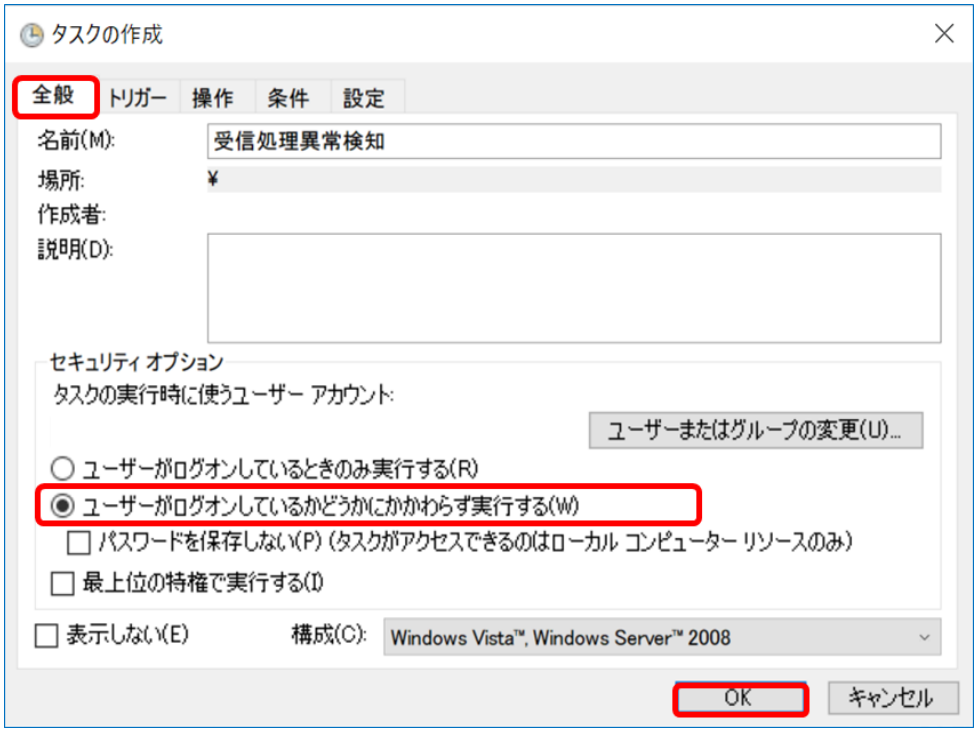


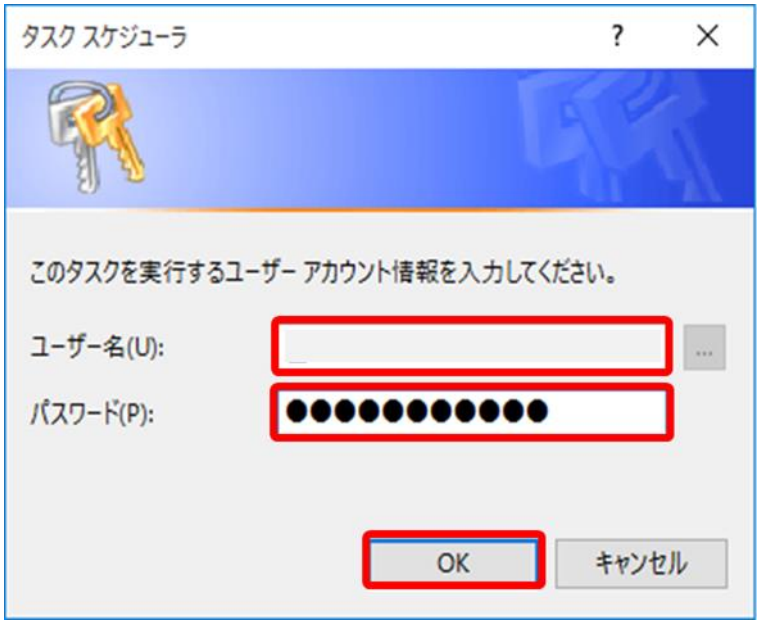
表 4-6 「新しい操作」画面の設定値

No.	設定項目	設定値
1	操作	プログラムの開始
2	プログラム／スクリプト	D:¥S_Kokuho¥Tool¥Batch¥bat¥受信処理異常検知.bat

7. [全般]タブを選択し、セキュリティオプションから[ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。



8.「タスク スケジューラ」画面で「ユーザー名」に「コンピュータ名¥Administrator」、「パスワード」に Administrator のパスワードを設定し、[OK]ボタンをクリックします。



Point

■「ユーザー名」に設定するコンピュータ名について

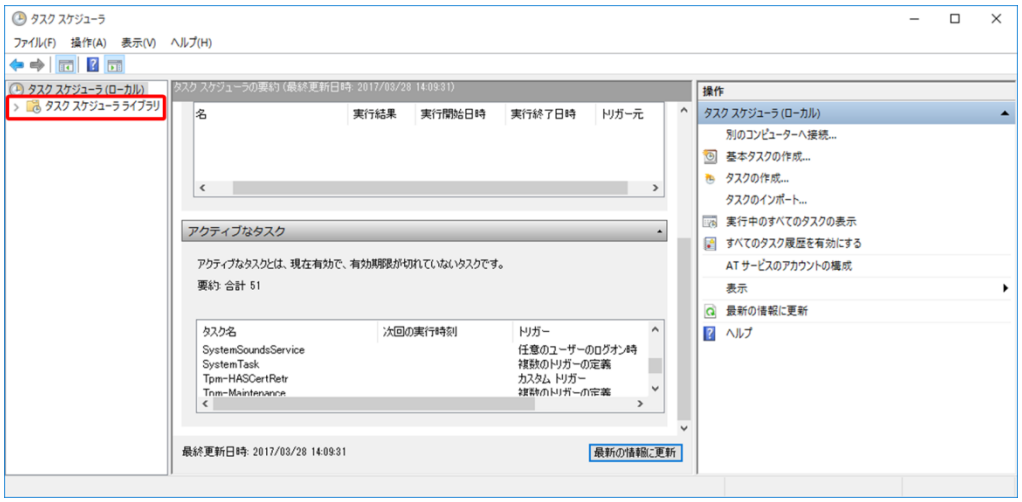
コンピュータ名は「2.2.1 基本設定」で設定した値とします。

(3) タスクスケジューラの履歴有効化手順

タスクスケジューラに登録した処理の実行状況を記録するために、タスクスケジューラの履歴を有効にします。

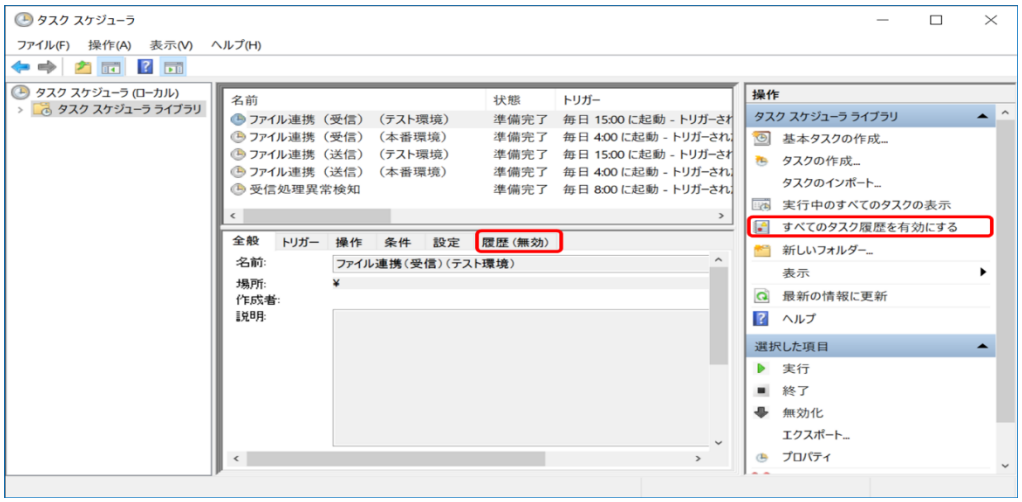
タスクスケジューラの履歴有効化手順を説明します。

1. [タスク スケジューラライブラリ]をクリックします。

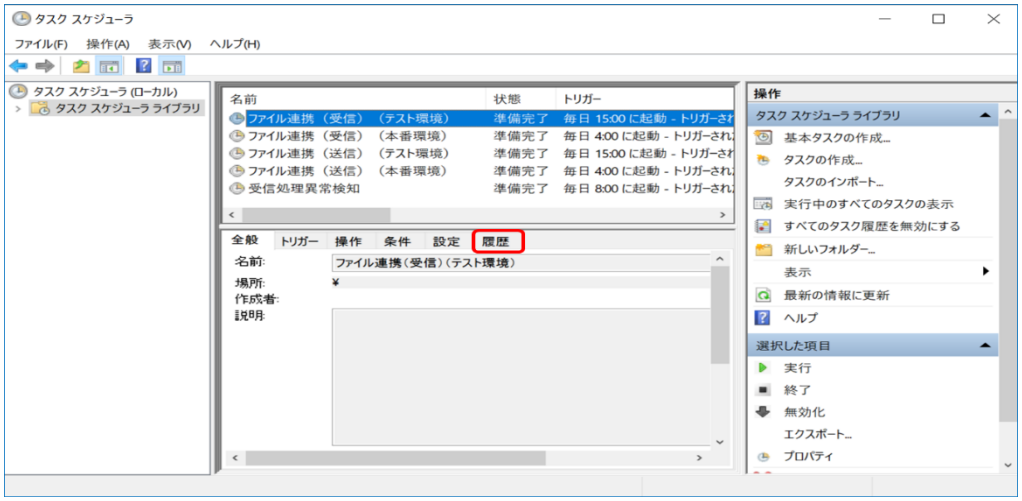


画面中央に設定したタスクの情報が表示されます。

2. 画面中央下のタスクの情報表示エリアの[履歴]タブの表示が「履歴（無効)」と表示されていることを確認し、[操作]エリアの[すべてのタスク履歴を有効にする]をクリックします。なお、本操作はタスクごとに実施する必要はありません。
タブ名が「履歴」となっている場合は、すでに履歴有効化の設定がされているため、手順の実施は不要です。



3. 画面中央のタブ名が「履歴」に変わったことを確認します。



4.1.2 ファイル自動連携の動作確認

タスクスケジューラの設定まで完了したら、タスクスケジューラからファイル連携処理が正常に実行されるか、連携ファイルを格納していない状態で連携処理を実行し、動作を確認します。

次に示す手順 4.～手順 7.を繰り返し行い、次の 4 つの処理の動作確認を行います。

- 本番環境へのファイル連携（送信）処理
- 本番環境からのファイル連携（受信）処理
- テスト環境へのファイル連携（送信）処理
- テスト環境からのファイル連携（受信）処理

ここでは、本番環境からのファイル連携（受信）処理を例に説明します。

注意事項

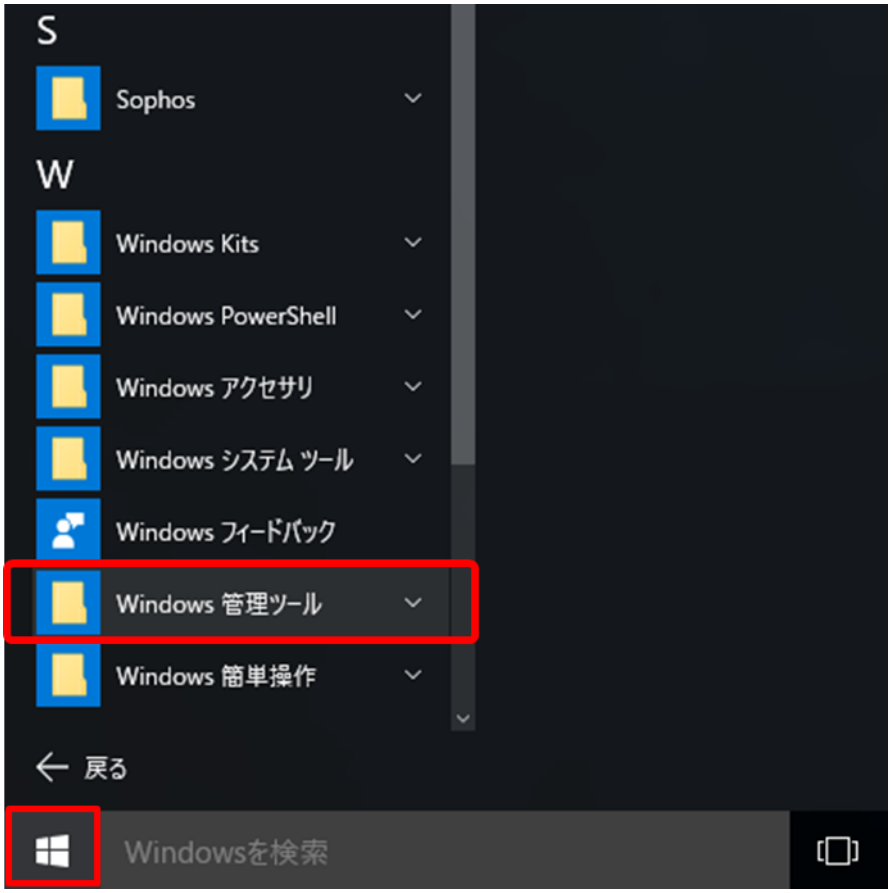
- 国保情報集約システムからファイルをダウンロードする方法には、データ連携用 PC でのダウンロード（自動）とオンライン画面からのダウンロード（手動）があります。運用開始後にダウンロード方法をオンライン画面からのダウンロードからデータ連携用 PC でのダウンロードに変更した場合、データ連携用 PC でのダウンロードの初回実行時に注意が必要となります。

  運用開始当初はデータ連携用 PC を導入せず、オンライン画面からダウンロードする運用としていたが、例えば 1 年後にデータ連携用 PC を導入することが考えられます。この場合、オンライン画面からのダウンロード有無にかかわらず、ダウンロード可能な 1 年分のファイルは、初回のファイル連携（受信）処理が実行された際、自動的にデータ連携用 PC にすべてダウンロードされます。

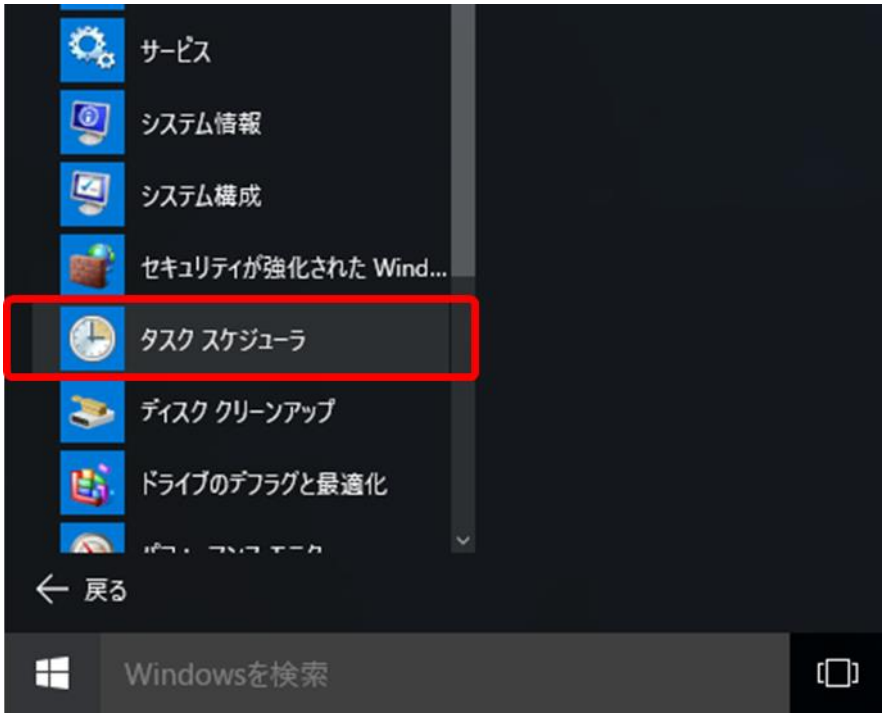
  運用開始当初からオンライン画面でダウンロードしたファイルについては、すでに市町村国保システムに連携済みのため、データ連携用 PC にダウンロードされたファイルから市町村国保システムに連携済みのファイルを削除する必要があります。

注　ダウンロードファイルの格納フォルダは「4.2.2(2) ファイル自動連携（受信）の手順」を参照してください。

1. [スタート]アイコンをクリックし、[Windows 管理ツール]をクリックします。

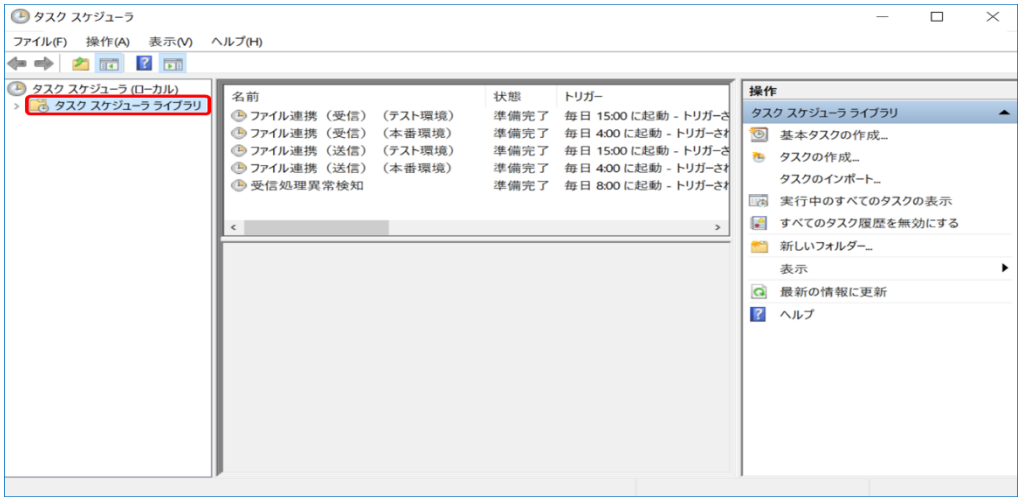


2. [タスク スケジューラ]をクリックします。



「タスク スケジューラ」画面が表示されます。

3. [タスク スケジューラライブラリ]をクリックします。



画面中央に設定したタスクの情報が表示されます。

Point

■連携の実行を停止する場合の手順

タスクスケジューラを設定した後に、連携の実行を停止したい場合には「付録.F.2 タスクの無効化手順」を実施して、タスクを無効にします。

4.「タスク スケジューラ」画面から、動作確認を行うタスクを選択して右クリックし、メニューから[実行する]を選択します。

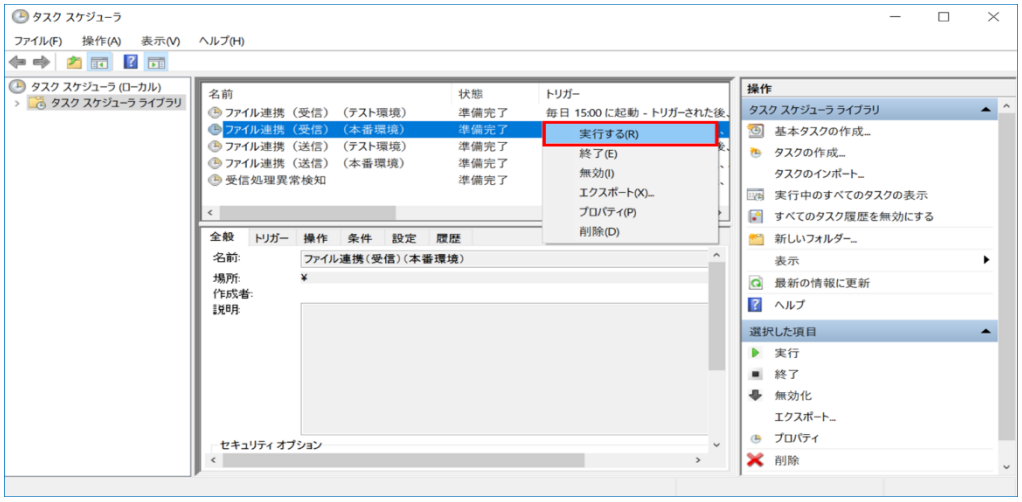
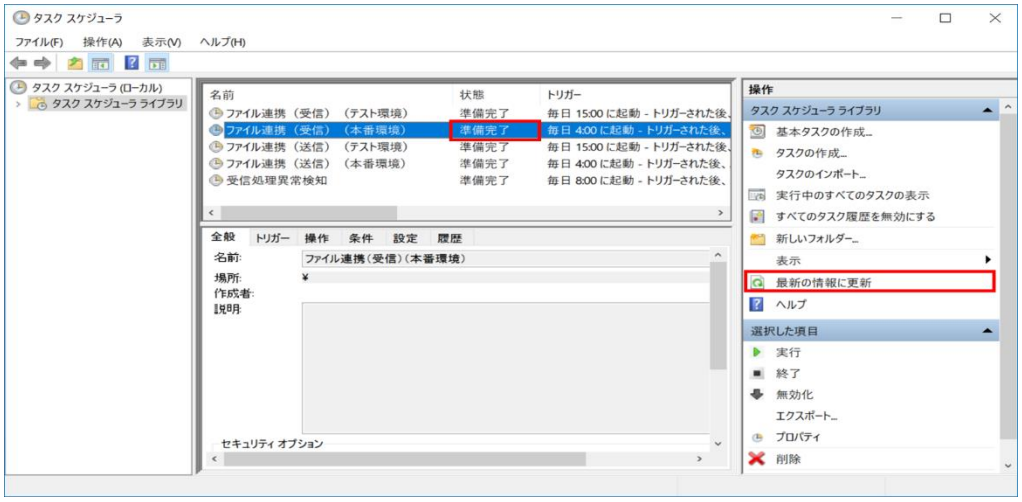


表 4-7 動作確認を行うタスクの名前

No.	動作確認の対象処理	動作確認を行うタスクの名前
1	本番環境へのファイル連携（送信）処理	ファイル連携（送信）（本番環境）
2	本番環境からのファイル連携（受信）処理	ファイル連携（受信）（本番環境）
3	テスト環境へのファイル連携（送信）処理	ファイル連携（送信）（テスト環境）
4	テスト環境からのファイル連携（受信）処理	ファイル連携（受信）（テスト環境）

5. 画面右の[操作]エリアの[最新の情報に更新]をクリックし、タスクの状態が「準備完了」に変更されたことを確認します。



6. 次に示す自動連携ログファイルをメモ帳で開きます。

表 4-8 確認するログファイル

No.	動作確認の対象処理	確認するログファイル※
1	本番環境へのファイル連携（送信）処理	D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Log¥HHHHHHHH_YYYYMMDD_send.log
2	本番環境からのファイル連携（受信）処理	D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Log¥HHHHHHHH_YYYYMMDD_receive.log
3	テスト環境へのファイル連携（送信）処理	D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Log¥HHHHHHHH_YYYYMMDD_send.log
4	テスト環境からのファイル連携（受信）処理	D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Log¥HHHHHHHH_YYYYMMDD_receive.log

注※　ファイル名の HHHHHHHH は市町村保険者番号、YYYYMMDD は出力年月日に置き換えてください。

7. 自動連携ログファイルを確認し、実行時刻に対応したログが出力されていることを確認します。また、国保情報集約システムとの通信が失敗しているログが表示されていないことを確認します。

動作が正常な場合のログの例

```
2017/04/06,18:20:00.368,中略 ,INFO ,中略 ,SZ12B010BM,execute,SZM5015I : 処理開始しました。
2017/04/06,18:20:00.508,中略 ,INFO ,中略 ,SZ12B010BM,execute,SZM5070I : 0件処理しました。
2017/04/06,18:20:00.508,中略 ,INFO ,中略 ,SZ12B010BM,execute,SZM5016I : 処理終了しました。(リターンコード＝0)
```

実行年月日　情報であることを示す　プログラムID　メッセージID、メッセージ

通信が失敗している場合のログの例

```
2017/04/06,17:30:01.485,中略 ,INFO ,中略 ,SZ12B011BM,execute,SZM5015I : 処理開始しました。
2017/04/06,17:32:01.221,中略 ,INFO ,中略 ,SZ12B011BM,execute,SZM5070I : 0件処理しました。
2017/04/06,17:32:01.555,中略 ,INFO ,中略 ,SZ12B011BM,execute,SZM5016I : 処理終了しました。(リターンコード＝16)
2017/04/06,17:32:01.540,中略 ,ERROR ,中略 ,SZ12B011BM,execute,SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。(詳細＝略)
```

実行年月日　エラーメッセージであることを示す　プログラムID　メッセージID、メッセージ

```
jp.co.hitachi.prego.exception.PgSystemException : EC0102 : HTTPトランスポート・エラー: java.net.ConnectException: Connection timed out: connect
        at jp.go.mhlw.s_kokuho.sz.webservice.soap.client.SZFileJduRnkiJshn.receiveFileJduRnki(SZFileJduRnkiJshn.java:95)
        at jp.go.mhlw.s_kokuho.sz.batch.SZ12B011BM.execute(SZ12B011BM.java:159)
        at jp.co.hitachi.prego5.PgBatchMain.start(PgBatchMain.java:90)
        at jp.go.mhlw.s_kokuho.sz.batch.SZ12B011BM.main(SZ12B011BM.java:89)
        ...
```

8. 手順 4. ～手順 7. を繰り返し行い、残りの対象処理の動作確認を行います。

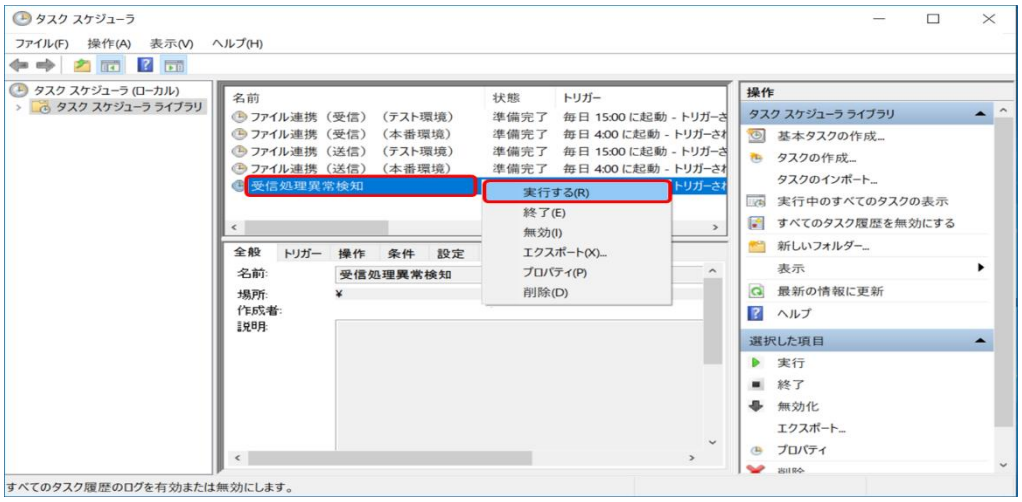
⚠ 注意事項

- ファイル連携（送信）処理は連携対象のファイルがない場合、サーバとの通信を行いません。そのため、ファイル連携（送信）処理のログを確認するだけでは、サーバとの通信が正常に行えているかは確認できません。
  必ずファイル連携（送信）処理、ファイル連携（受信）処理の両方を開き、エラーが発生していないことを確認してください。
  エラーが発生している場合は、「5 障害対応手順」を参照してください。

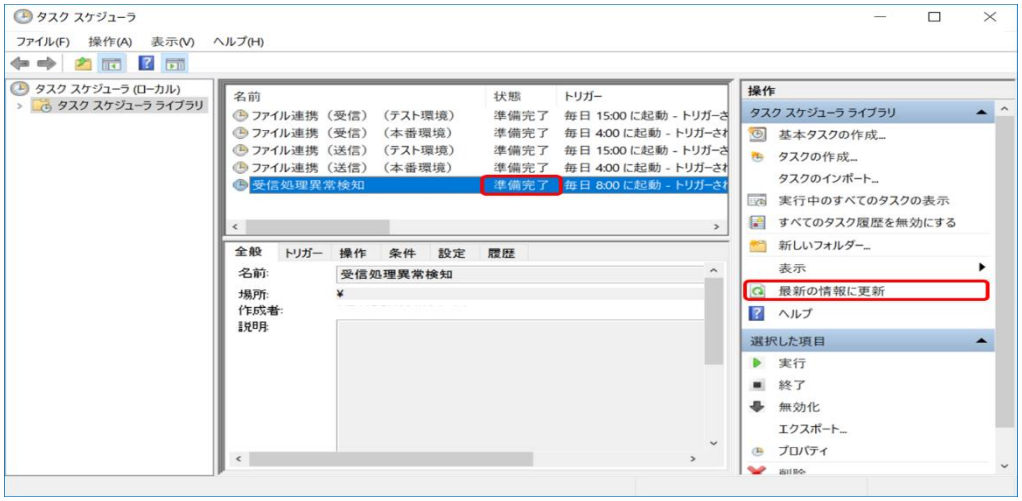
4.1.3 受信処理異常検知の動作確認

タスクスケジューラから受信処理異常検知処理が正常に実行されるか、動作を確認します。

1.「タスク スケジューラ」画面から、[受信処理異常検知]を右クリックし、表示されたメニューから[実行する]を選択します。

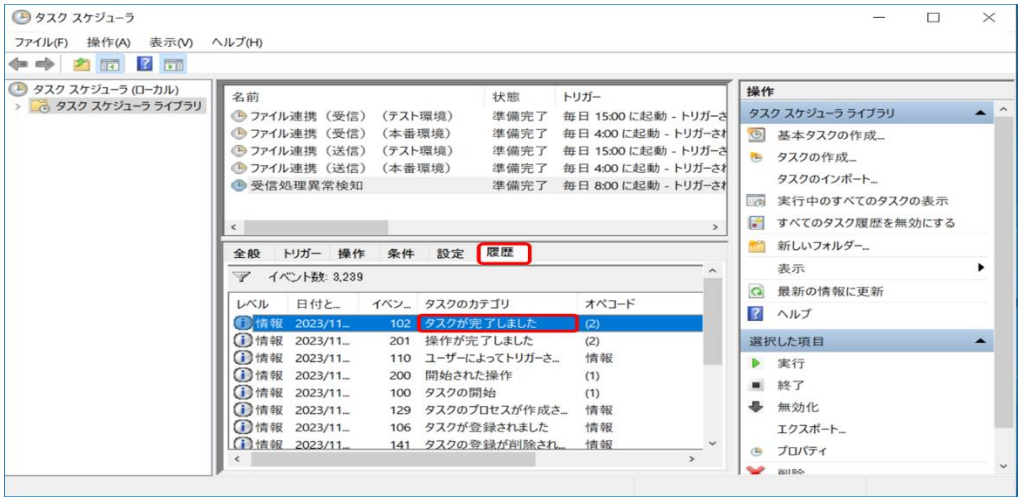


2. 画面右の[操作]エリアの[最新の情報に更新]をクリックし、タスクの状態が「準備完了」に変更されたことを確認します。



3. 画面中央下のタスクの情報表示エリアの[履歴]タブを選択し、「タスクが完了しました」と表示されていることを確認します。

表示されていない場合は、「4.1.1(2)(b) 受信処理異常検知の設定」で示す手順で、タスクスケジューラの設定値を確認し、設定が誤っている箇所があれば設定を変更してください。その後、再度「4.1.3 受信処理異常検知の動作確認」の手順に従って、動作確認を行ってください。問題が解消しない場合は、国保連合会へ問い合わせてください。



4.2 ファイル自動連携の手順

注意事項

・ 本章の作業は、すべて「Administrator」権限の OS ユーザアカウントで実施します。

4.2.1 ファイルを自動連携（送信）する

市町村で作成したファイルを国保情報集約システムへ自動連携する手順について説明します。

(1) ファイル自動連携（送信）の対象となるファイル

ファイル自動連携（送信）の対象となるファイルを次に示します。

・ 資格情報（世帯）ファイル
（JSA01D01001_SA01I001_CT_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv）
・ 資格情報（個人）ファイル
（JSA01D01001_SA01I002_CT_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv）
・ 世帯所得区分情報ファイル
（JSA01X01001_SA01I003_CT_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv）
・ 高額該当情報ファイル（市町村）
（JSA05M01001_SA05I001_CT_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv）
・ 初回登録解除情報一括登録ファイル（市町村）
（JSA10X09001_SA10I002_CT_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv）

注　ファイル名の HHHHHHHH は市町村保険者番号、YYYYMMDDhhmmss は出力年月日時分秒に置き換えてください。

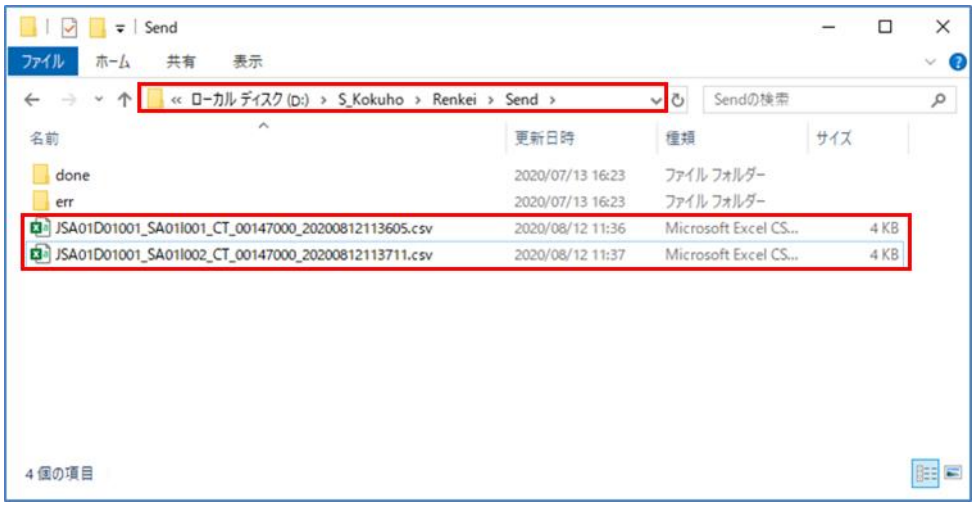
Point

市町村基礎ファイル、市町村基礎ファイル（退職保険料・保険料軽減額）はデータ連携用 PC では送信できません。該当ファイルを送信する場合は、業務端末でオンライン処理のアップロード画面を開きアップロードを行ってください。

(2) ファイル自動連携（送信）の手順

次に示す手順で連携を行います。

1. エクスプローラーを起動し、自動連携（送信）するファイルを次のフォルダに格納します。
   - 本番環境へのファイル連携（送信）
     D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send
   - テスト環境へのファイル連携（送信）
     D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send



2. タスクスケジューラでファイル自動連携（送信）処理が実行されるのを待ちます。

   処理はタスクスケジューラに設定した実行間隔に基づき、自動実行されます。
   処理が実行された際に未送信のファイルがあれば、国保情報集約システムへのファイル送信が行われます。

3. 業務端末で「連携ファイル処理状況照会」画面を開き、ファイルが送信されていることを確認します。

   「連携ファイル処理状況照会」画面からの処理状況確認の方法は、マニュアル「国保情報集約システム　操作マニュアル（国保連合会・市町村向け）」を参照してください。

4. 「エクスプローラー」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

Point

ファイルの送信が正常に行われると、送信したファイルは「D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send¥done」フォルダに移動されます。また、ファイル名の誤りなどでエラーになった場合は「D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send¥err」フォルダにファイルが移動されます。

「done」フォルダ、「err」フォルダに移動されたファイルは削除しても問題ありませんので、必要に応じて削除してください。

注意事項

- 自動連携で送信するファイル（CSV ファイル）のファイル名が大文字以外、拡張子が小文字以外の場合、「国保情報集約システム　外部インタフェース仕様書」で示したファイル名に従い、ファイル名を大文字、拡張子を小文字に自動変換して連携します。これに伴い、「done」フォルダ、「err」フォルダに移動されたファイル、自動連携ログファイルに出力されたファイル名は、自動変換後のファイル名となります。
- エラーが「SZM5059E」のみの場合、自動連携ログファイルにエラーメッセージを出力しますが、「Send」フォルダに残り、「err」フォルダにファイルを移動しません。次回以降の自動連携のタイミングでファイルが対で格納された状態になった場合に送信されます。
- 資格情報（世帯）ファイルと資格情報（個人）ファイルを対で格納した後、連携ファイルのファイル名称に誤りがある場合などは、「err」フォルダに移動します。例えば、翌日以降の日付の資格情報ファイルが送信され取り込み済みになり、「連携ファイルより作成日が新しいファイルが、すでに取り込みを完了している」状態（メッセージ ID：SZM5080E に該当する状態）になった場合は「err」フォルダにファイルが移動されます。

4.2.2 ファイルを自動連携（受信）する

国保情報集約システムのバッチ処理で出力された外部インタフェースファイルなどの市町村へ連携するファイルを国保情報集約システムからデータ連携用PCで受信する手順について説明します。

(1) ファイル自動連携（受信）の対象となるファイル

ファイル自動連携（受信）の対象となるファイルを次に示します。

- 市町村被保険者ID連携ファイル
  (JSA01D02001_SA01I005_CT_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- 処理結果ファイル（市町村被保険者ID連携ファイル）
  (USA01D0200120AB_SA01F012MP_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- 国保資格取得喪失年月日連携ファイル
  (JSA01D04401_SA01I004_CT_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- 処理結果ファイル（国保資格取得喪失年月日連携ファイル）
  (USA01D0440109AB_SA01F013MP_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- 転居月75歳到達時特例対象者情報連携ファイル（市町村連携用）
  (JSA02M07001_SA02I002_CT_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- 処理結果ファイル（転居月75歳到達時特例対象者情報連携ファイル（市町村連携用））
  (USA02M0700133AB_SA02F005MP_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- 転居に伴う負担限度額特例対象世帯情報連携ファイル（市町村連携用）
  (JSA02M06001_SA02I001_CT_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- 処理結果ファイル（転居に伴う負担限度額特例対象世帯情報連携ファイル（市町村連携用））
  (USA02M0600120AB_SA02F001MP_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- 高額該当引継情報連携ファイル（市町村連携用）
  (JSA05M04001_SA05I002_CT_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- 処理結果ファイル（高額該当引継情報連携ファイル（市町村連携用））
  (USA05M0400129AB_SA05F003MP_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- オンライン修正後資格情報未連携ファイル
  (USA01X0600104AB_SA01F010MP_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)
- オンライン修正後世帯所得区分情報未連携ファイル
  (USA01X0600107AB_SA01F011MP_HHHHHHHH_YYYYMMDDhhmmss.csv)

注　ファイル名のHHHHHHHHは市町村保険者番号、YYYYMMDDhhmmssは出力年月日時分秒を置き換えてください。

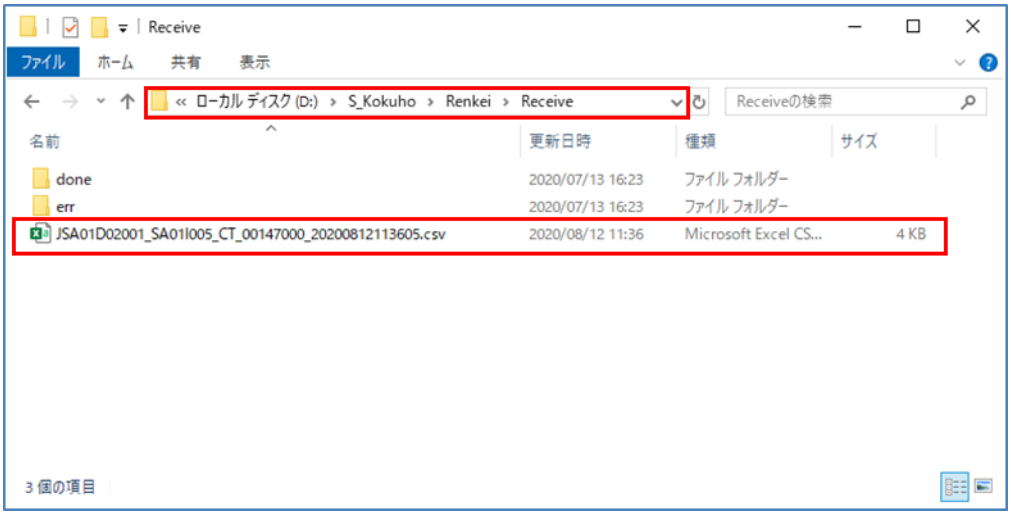
(2) ファイル自動連携（受信）の手順

次に示す手順で連携を行います。

1. タスクスケジューラでファイル自動連携（受信）処理が実行されるのを待ちます。

   処理はタスクスケジューラに設定した実行間隔に基づき、自動実行されます。
   処理が実行された際に未受信のファイルがあれば、国保情報集約システムからファイル受信が行われます。

2. エクスプローラーを起動し、次のフォルダに受信したファイルが格納されたことを確認します。
   - 本番環境へのファイル連携（送信）
     D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Receive
   - テスト環境へのファイル連携（送信）
     D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Receive



3.「エクスプローラー」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

4.3 データ連携用 PC のシャットダウンについて

データ連携用 PC を停止する際は、スタートメニューからシャットダウンを行ってください。停止に伴い、タスクスケジューラの設定を操作する必要はありません。

また、データ連携用 PC を再起動した後も、タスクスケジューラに設定した時間間隔に従って、データ連携のタスクが実行されます。そのため、タスクスケジューラの設定を操作する必要はありません。

データ連携中にデータ連携用 PC を停止した場合、データ連携用 PC を再起動後、停止のために中止となったデータ連携が再実行されます。再起動後も、送信のために格納したファイルは、格納したフォルダから移動させないでください。

4.4 データ連携用 PC の再起動について

システム管理者は、データ連携用 PC の安定稼働を維持するために、適宜再起動を実施してください。データ連携用 PC 再起動の運用については、市町村の運用を踏まえて、市町村にて決定してください。

注意事項

・ データ連携用 PC の再起動は、次の時間帯に行ってください。

① 市町村国保システムがデータ連携用 PC にアクセスしない時間帯

② データ連携用 PC において、ファイル自動連携（送信）およびファイル自動連携（受信）を実施しない時間帯

4.5 データ連携用 PC の時刻同期について

データ連携用 PC は、自動連携（送信）時にシステム時刻が連携ファイルのファイル名称に付与されている日時より遅れていた場合、データ連携用 PC の送信時チェック処理でエラーと判定され送信できません。

データ連携用 PC のシステム時刻同期確認の運用については、市町村にて決定してください。

なお、市町村ネットワーク上に接続可能な NTP サーバがあり、データ連携用 PC が市町村国保システムと自動的な時刻同期が可能である場合は、NTP サーバを用いて時刻同期を行うことを推奨します。また、自動的な時刻同期ができない場合は、データ連携用 PC において、「Administrator」権限のユーザアカウントでログインし、「コントロールパネル」-「時計と地域」-「日付と時刻」をクリックし、市町村国保システムの時刻と手動で同期させてください。

付録

この付録では、次に示す内容について説明します。
・ミドルウェアインストール手順
・OS 詳細設定手順
・セキュリティパッチ一覧
・データ連携用 PC アプリケーションのフォルダ構成
・ファイル自動連携するためのタスクスケジューラの設定
・タスクの有効化／無効化手順
・タスクの実行時間帯変更手順
・メッセージ一覧
・データ連携用 PC のファイル送受信に係るエラーへの対処方法などについて

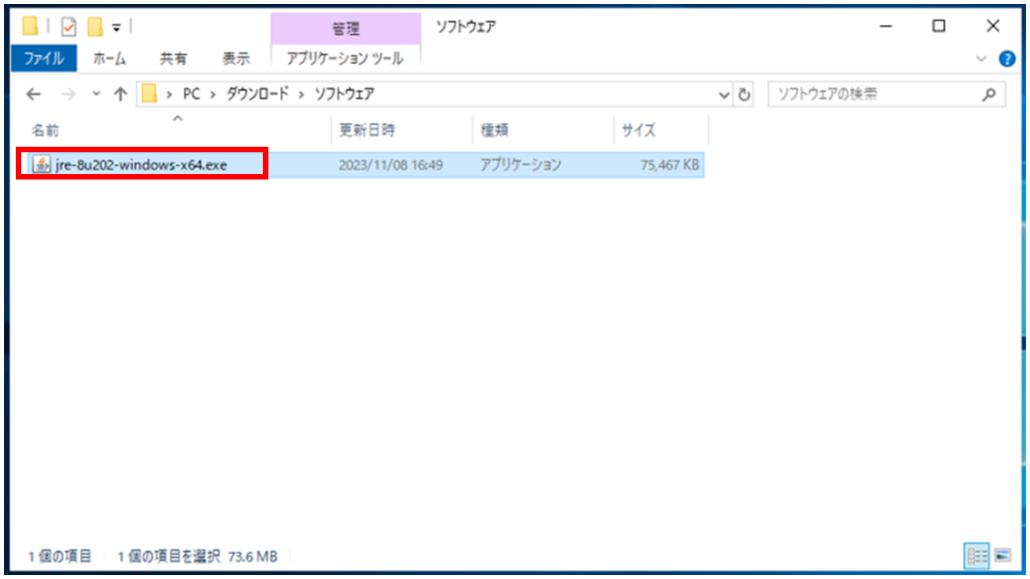
付録.A ミドルウェアインストール手順

(1) Oracle Java Standard Edition のインストール

1. エクスプローラーを起動し、Oracle Java Standard Edition のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。

   注　「資材格納フォルダ」は任意のフォルダです。

2. 資材格納フォルダ配下にある「jre-8u202-windows-x64.exe」ファイルをダブルクリックします。



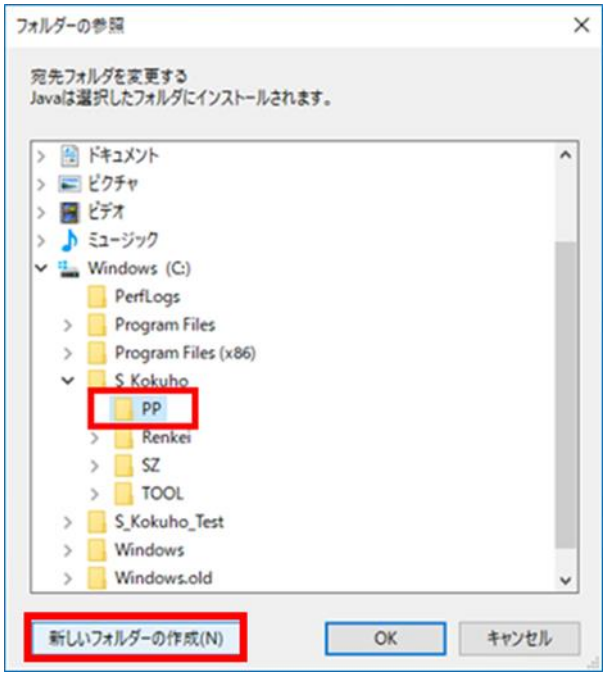
3. 「Java セットアップ － ようこそ」画面で、[宛先フォルダを変更する]をチェックし、[インストール]ボタンをクリックします。

⚠ 注意事項

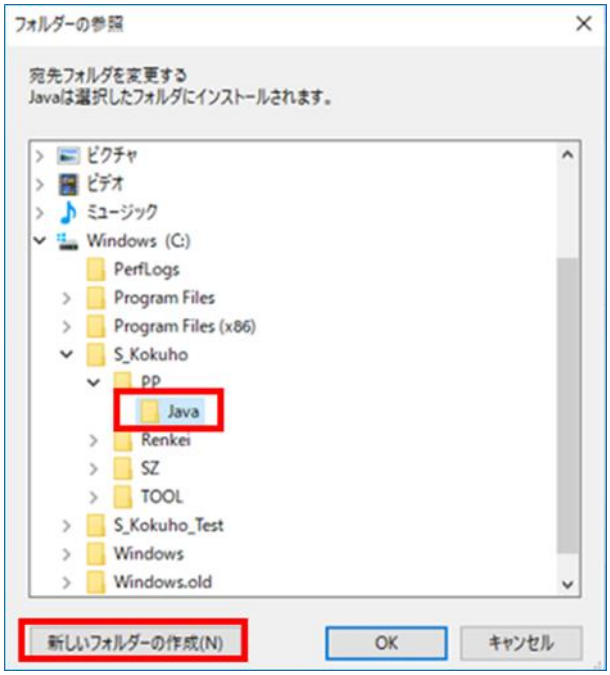
- 「ライセンス条項の変更」画面が表示された場合は、[OK]ボタンをクリックして作業を続行してください。

4.「Java セットアップ － コピー先フォルダ」画面で、[変更]ボタンをクリックします。

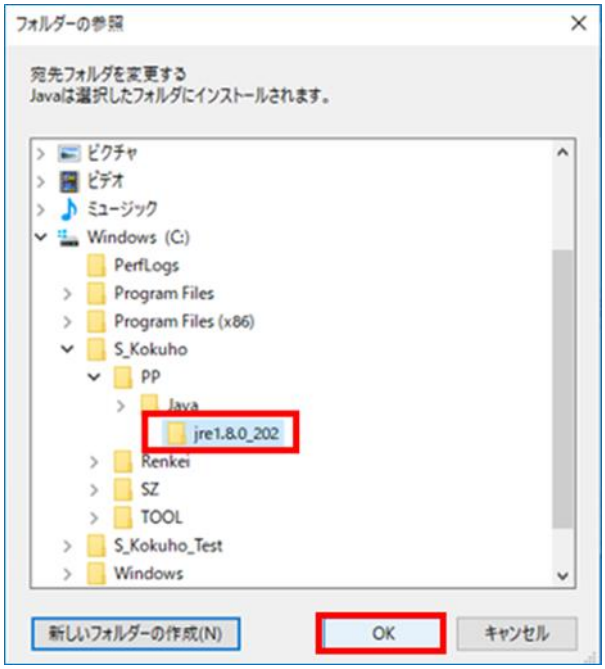
5.「フォルダーの参照」画面で、下記の画面のとおり「C:¥S_Kokuho¥PP」を選択し、[新しいフォルダーの作成]ボタンをクリックします。



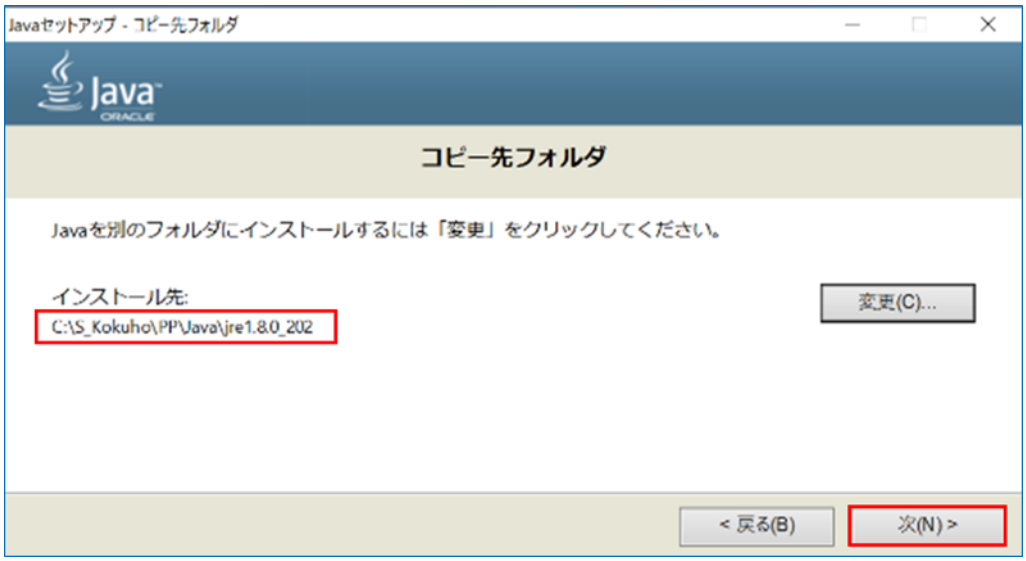
6.「新しいフォルダー」が作成されるので、作成されたフォルダに対し下記の画面のとおり「Java」と入力し、[新しいフォルダーの作成]ボタンをクリックします。



7.「新しいフォルダー」が作成されるので、作成されたフォルダに対し下記の画面のとおり「jre1.8.0_202」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



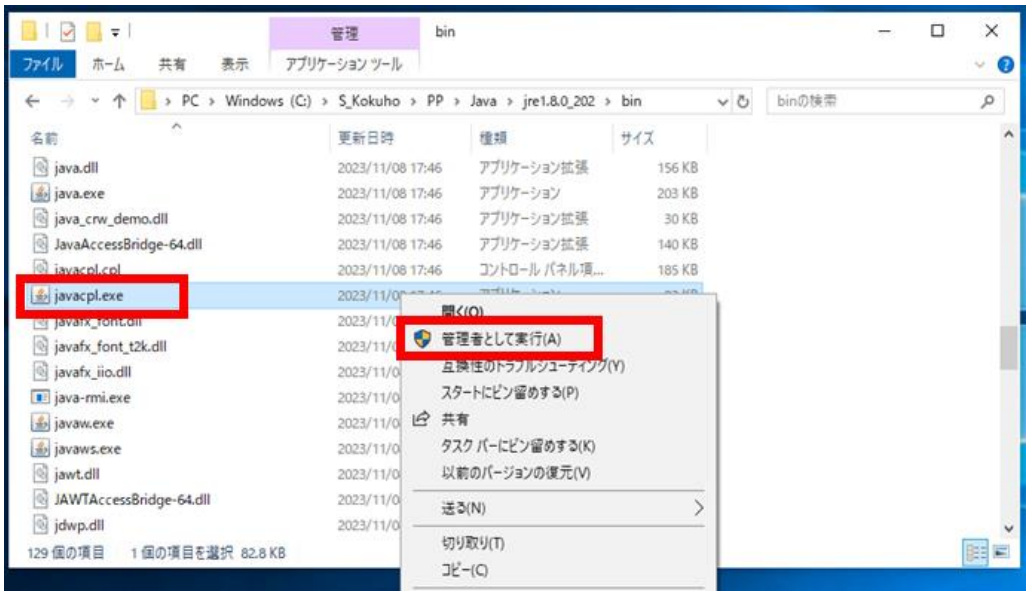
8.「Java セットアップ － コピー先フォルダ」画面で、インストール先が「C:¥S_Kokuho¥PP¥Java¥jre1.8.0_202」となっていることを確認し、[次]ボタンをクリックします。



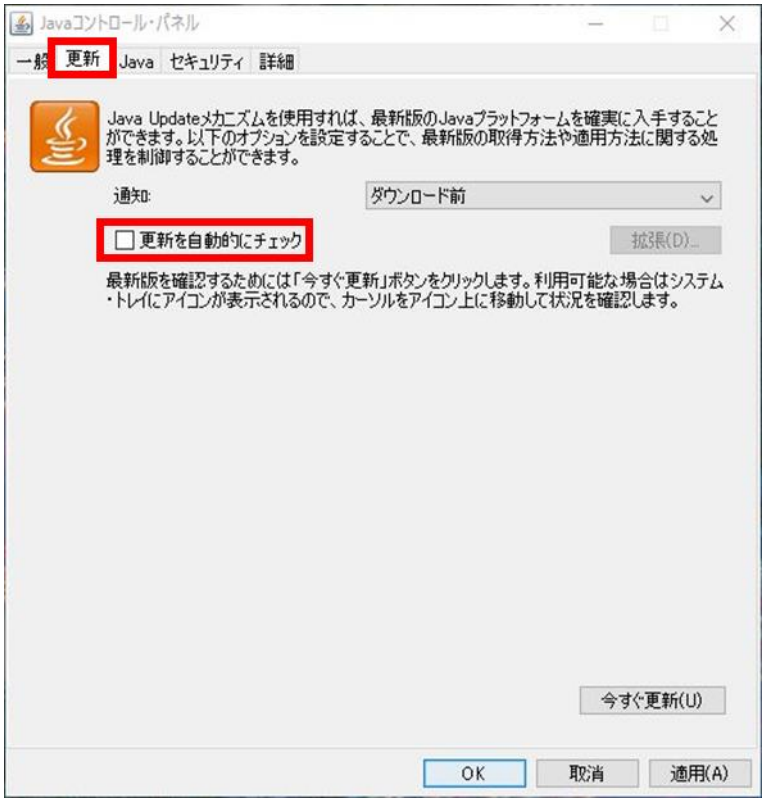
9.「Java セットアップ － 進行中」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます（しばらく待つと、手順 10.の画面が表示されます）。

10.「Java セットアップ － 完了」画面で、「Java が正常にインストールされました」と表示されたことを確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。

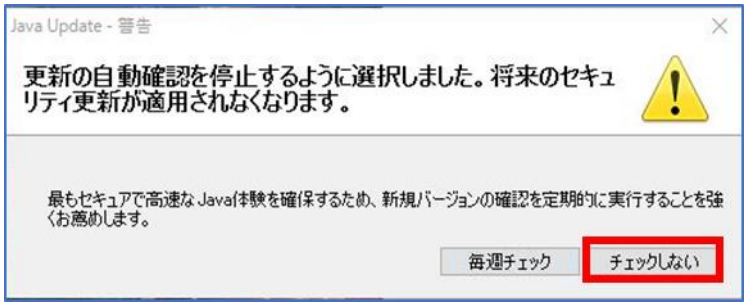
11.「C:¥S_Kokuho¥PP¥Java¥jre1.8.0_202¥bin」フォルダ配下にある「javacpl.exe」ファイルを右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。



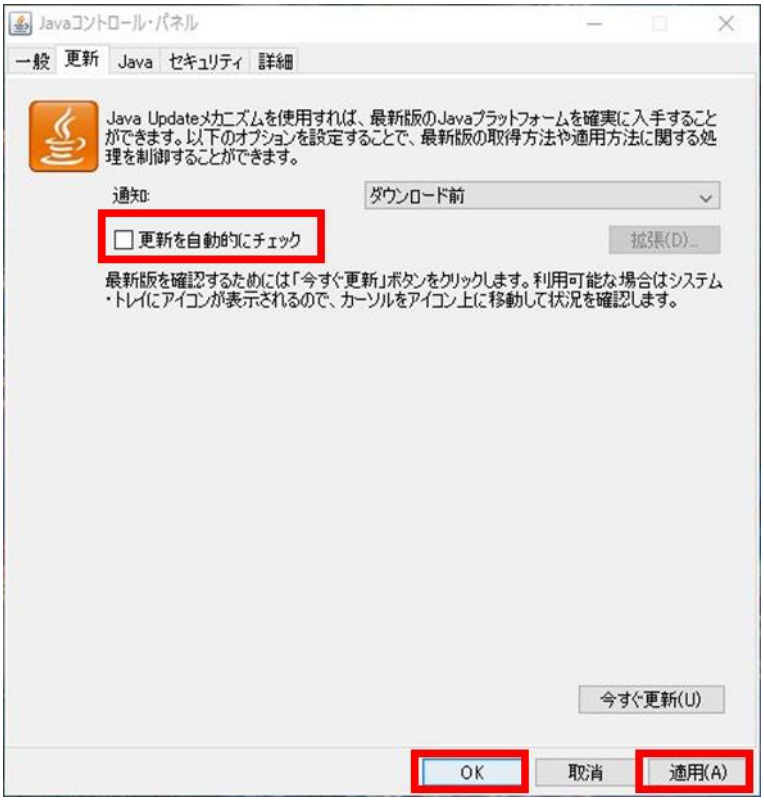
12.「Java コントロール・パネル」画面で、[更新]タブを選択し、[更新を自動的にチェック]のチェックを外します。



13.「Java Update - 警告」画面で、[チェックしない]ボタンをクリックします。



14.「Java コントロール･パネル」画面で、「更新を自動的にチェック」のチェックが外れていることを確認し[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。



15.「エクスプローラー」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

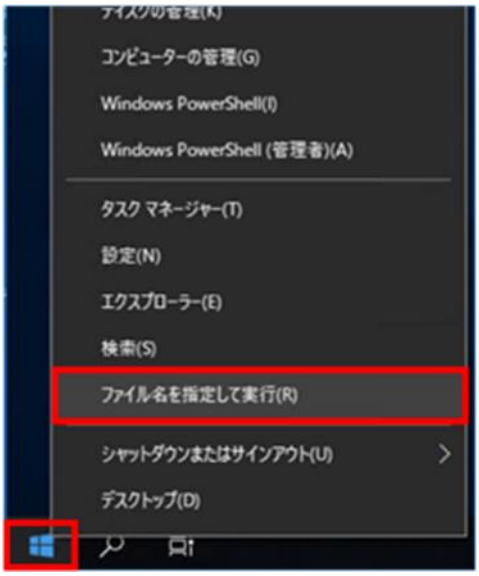
付録.B OS 詳細設定手順

⚠ 注意事項

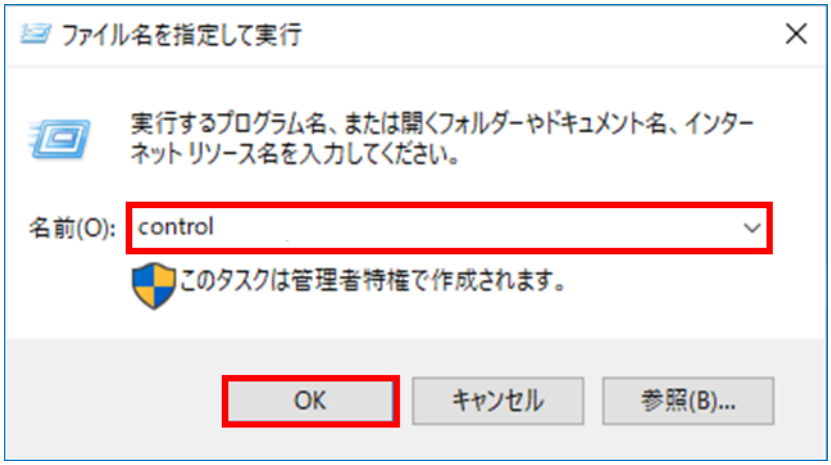
- 本手順は LTSC 2019 の手順例です。バージョンによって手順に差異がある場合がありますので、バージョンに合わせて設定してください。

(1) Windows Defender ファイアウォールの設定

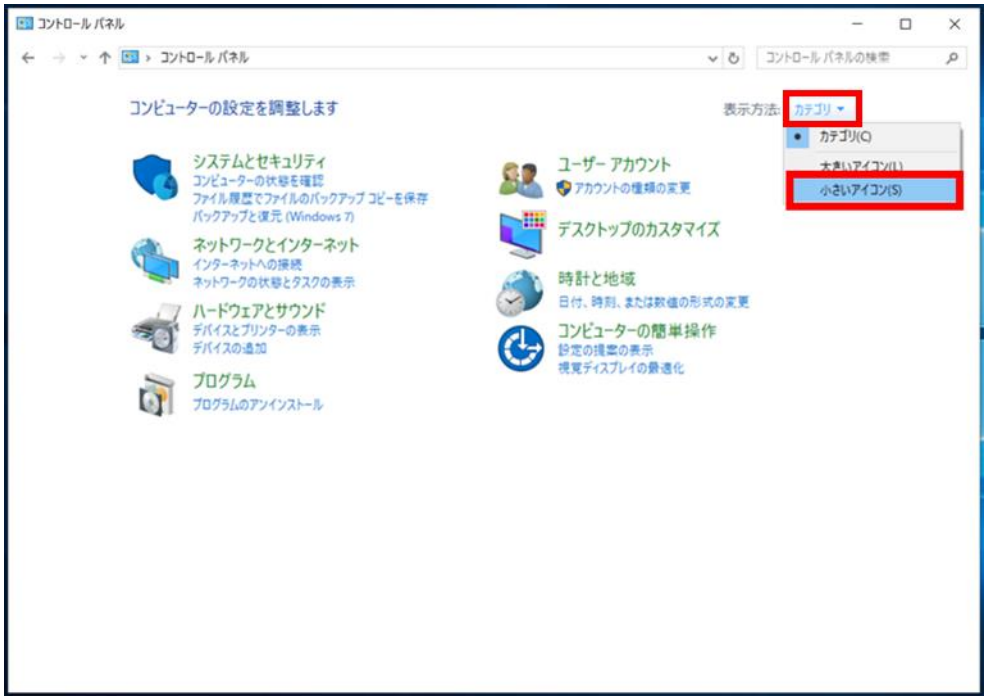
1. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



2. 「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「control」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



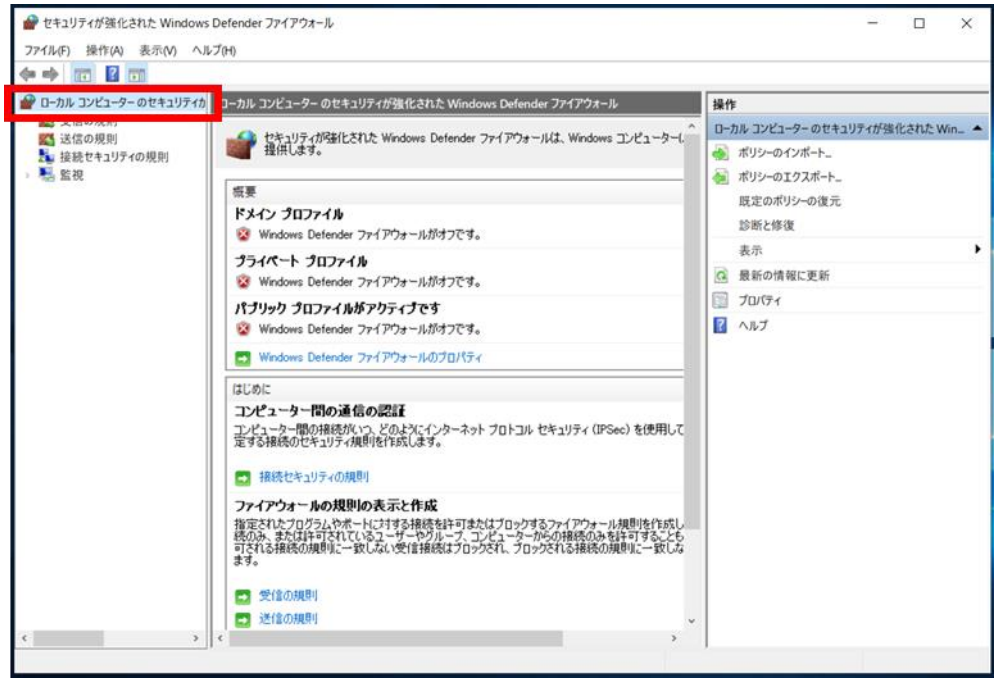
3.「コントロールパネル」画面で、[カテゴリ▼]をクリックし、[小さいアイコン]をクリックします。



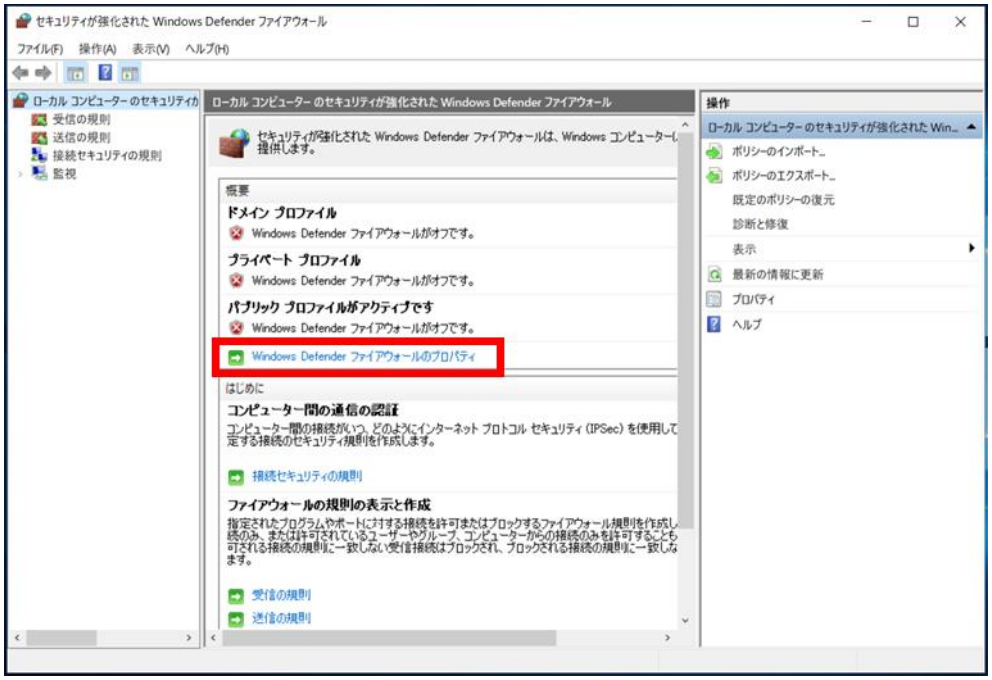
4.「すべてのコントロールパネル項目」画面で、[Windows Defender ファイアウォール]をクリックします。

5.「Windows Defender ファイアウォール」画面で[詳細設定]をクリックします。

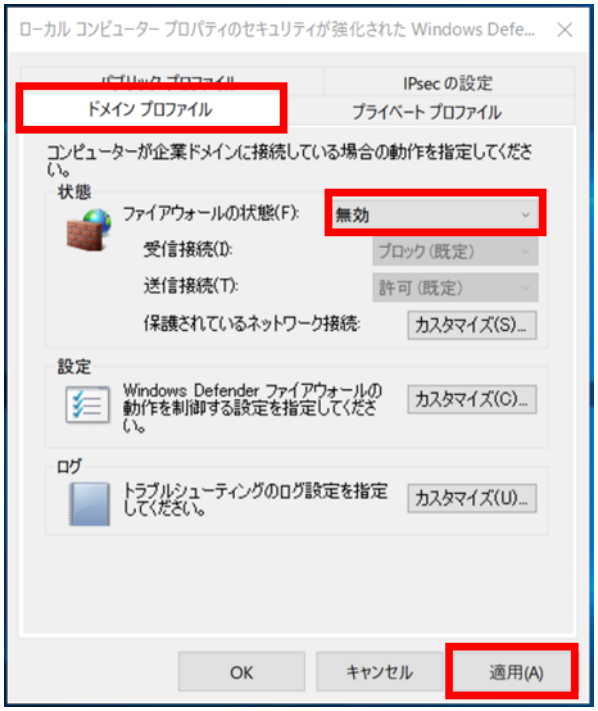
6.「セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」画面で、[ローカルコンピューターのセキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール]をクリックします。



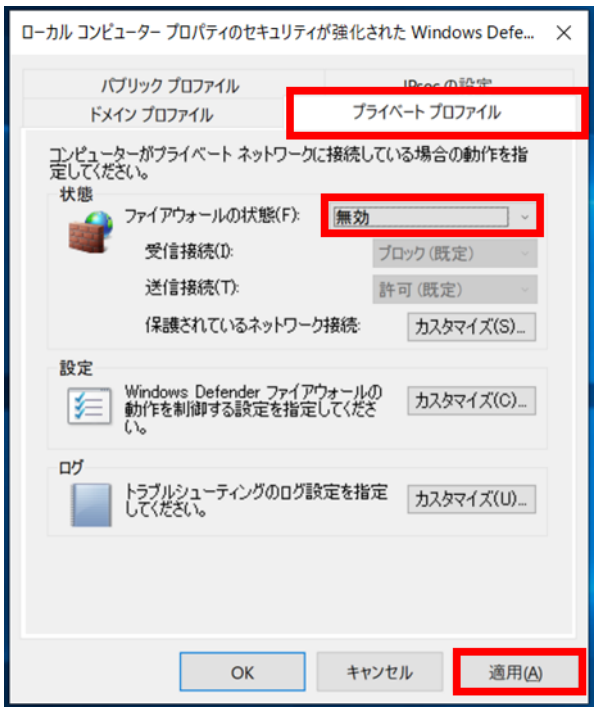
7.「概要」欄にある[Windows Defender ファイアウォールのプロパティ]をクリックします。



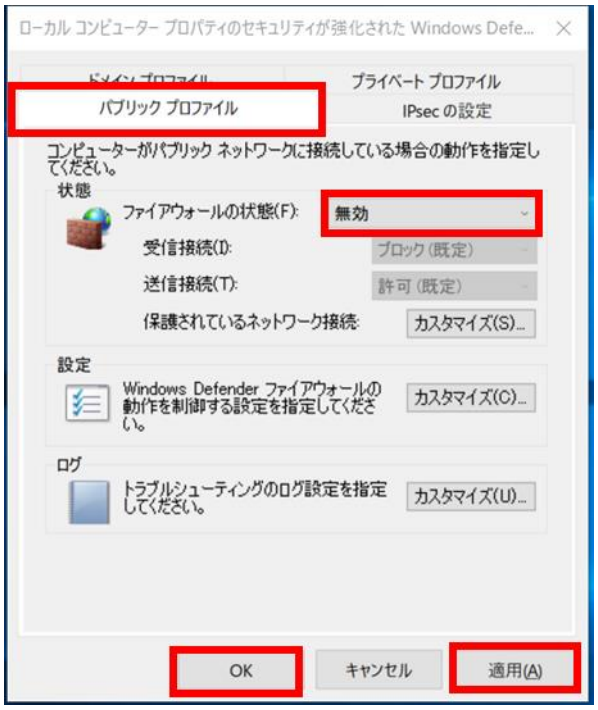
8.「ローカルコンピュータープロパティのセキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」画面で、[ドメインプロファイル]タブをクリックし、「状態」-「ファイアウォールの状態」のプルダウンから[無効]を選択し、[適用]ボタンをクリックします。



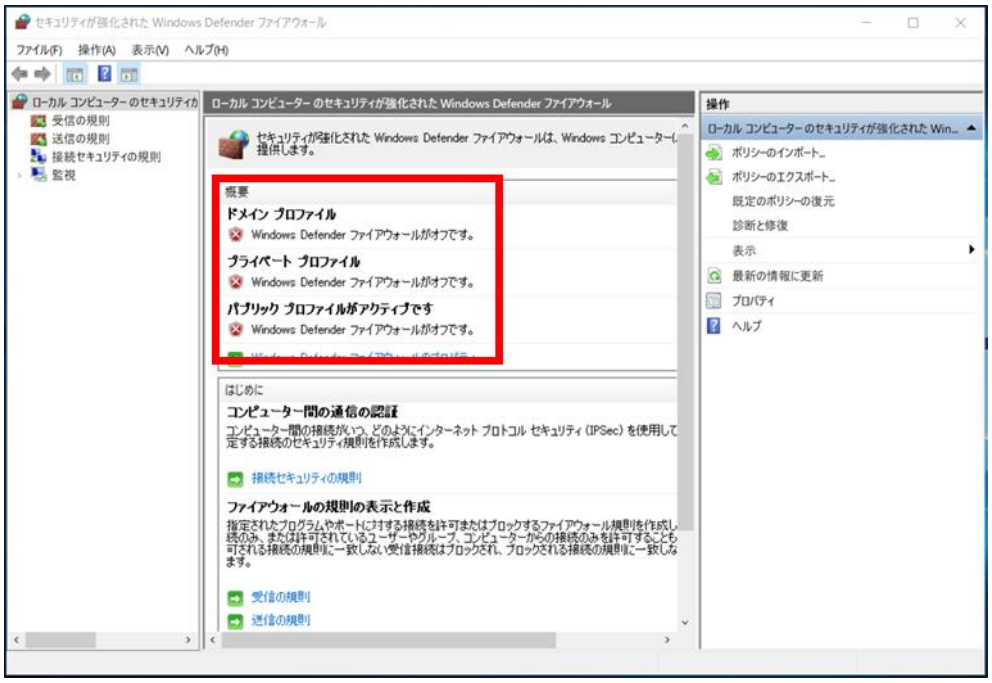
9. [プライベートプロファイル]タブをクリックし、「状態」-「ファイアウォールの状態」のプルダウンから[無効]を選択して、[適用]ボタンをクリックします。



10. [パブリックプロファイル]タブをクリックし、「状態」-「ファイアウォールの状態」のプルダウンから[無効]を選択した後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。



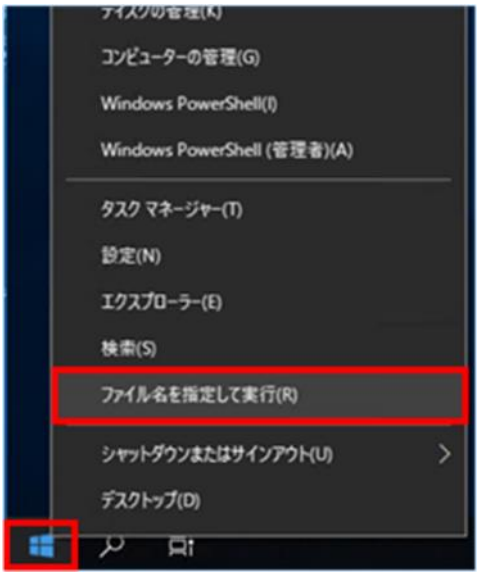
11.「概要」欄に表示されているすべてのプロファイルにおいて、「Windows Defender ファイアウォールがオフです。」と表示されていることを確認し、「セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」画面を閉じます。



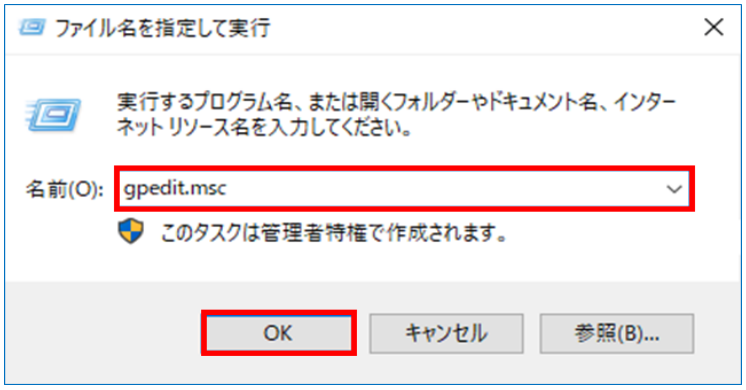
12.「Windows Defender ファイアウォール」画面を閉じます。

(2) ローカルポリシーの設定

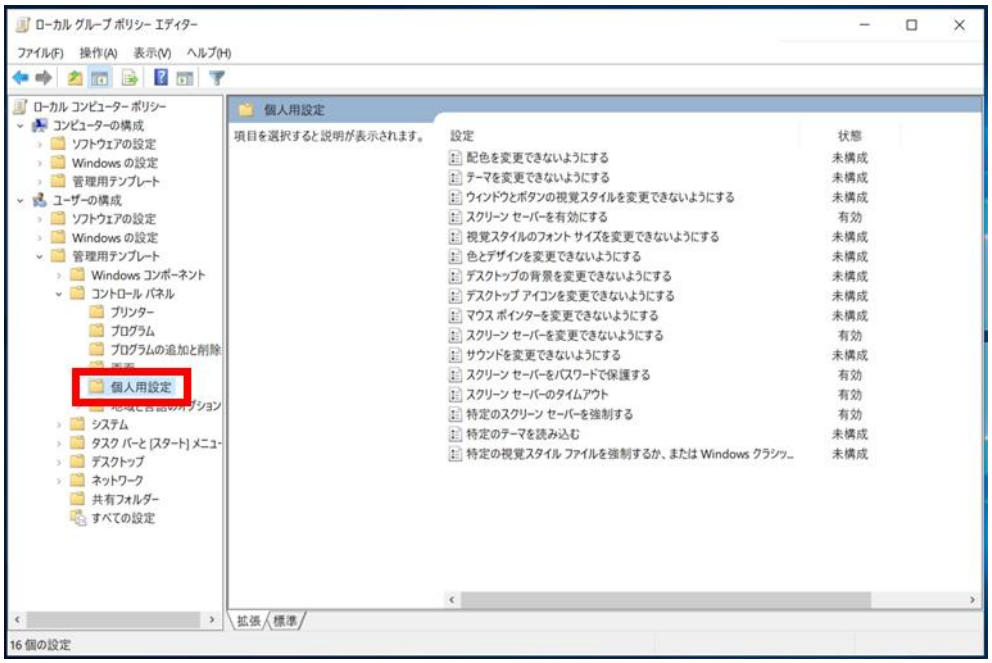
1. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



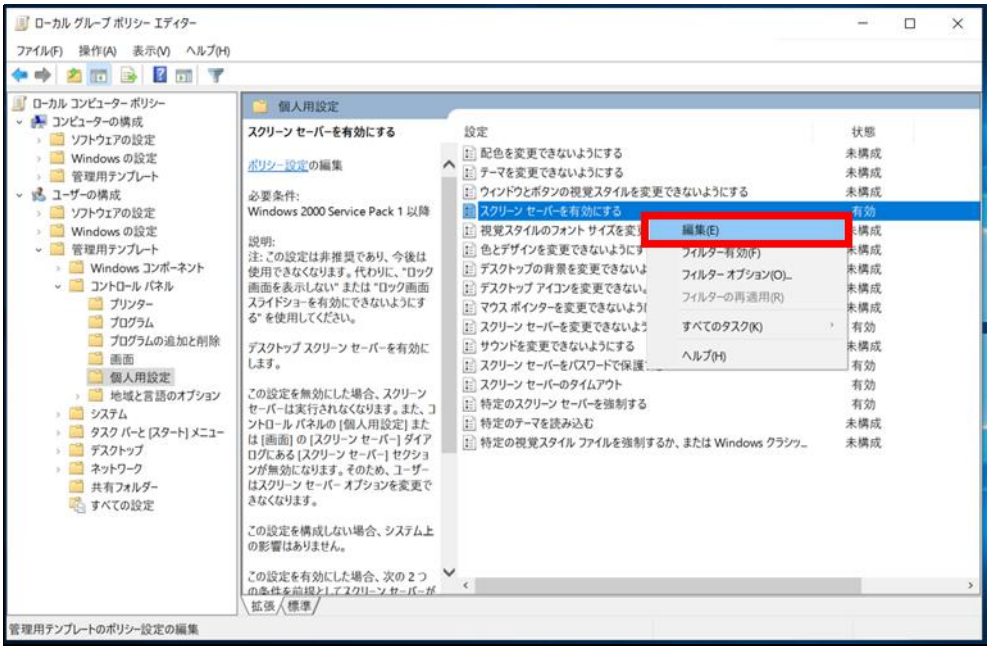
2.「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「gpedit.msc」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



3.「ローカルグループポリシーエディター」画面で、[ローカルコンピューターポリシー]-[ユーザーの構成]-[管理用テンプレート]-[コントロールパネル]-[個人用設定]をクリックします。



4.「個人用設定」の設定列から、表 B-1 に記載されている設定項目を右クリックし、[編集]をクリックします。



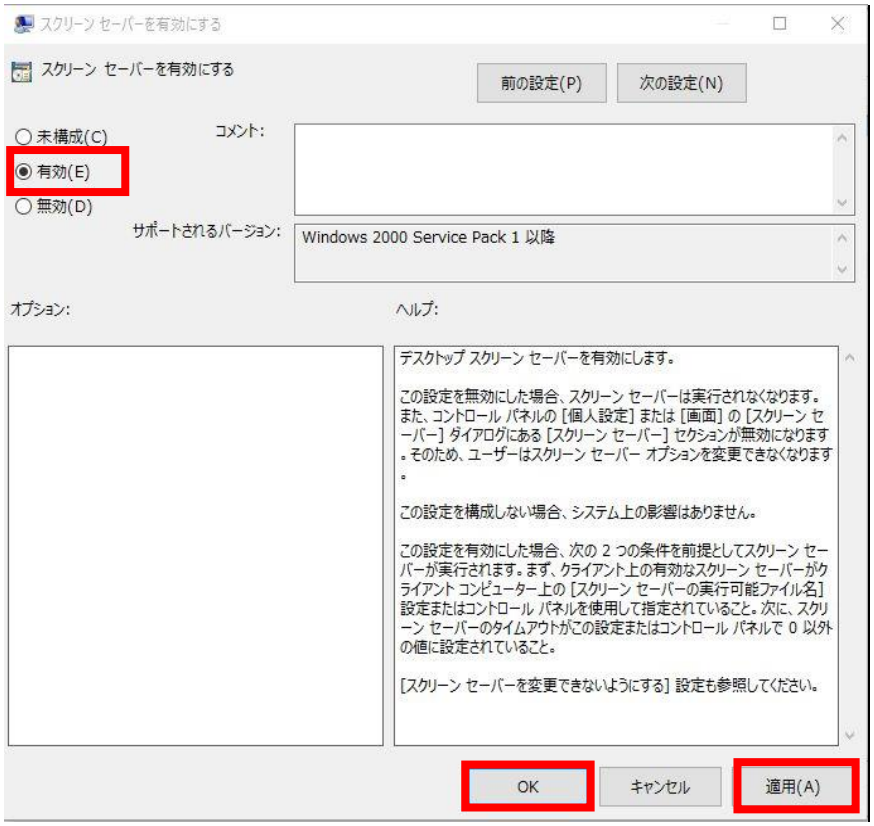
⚠ 注意事項

- 図は表 B-1 の No.1 を設定する場合となります。選択する項目は表 B-1 の設定項目ごとに読み替えてください。

表 B-1 ローカルグループポリシー（個人用設定）

No.	設定項目	設定値
1	個人用設定	
	スクリーンセーバーを有効にする	有効
2	スクリーンセーバーを変更できないようにする	有効
3	スクリーンセーバーをパスワードで保護する	有効
4	スクリーンセーバーのタイムアウト	有効
5	スクリーンセーバーを起動するまでの時間	600
6	特定のスクリーンセーバーを強制する	有効
7	スクリーンセーバーの実行可能ファイル名	C:¥Windows¥System32¥scrnsave.scr

5. 手順 4.にて選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-1 の設定値を設定した後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。

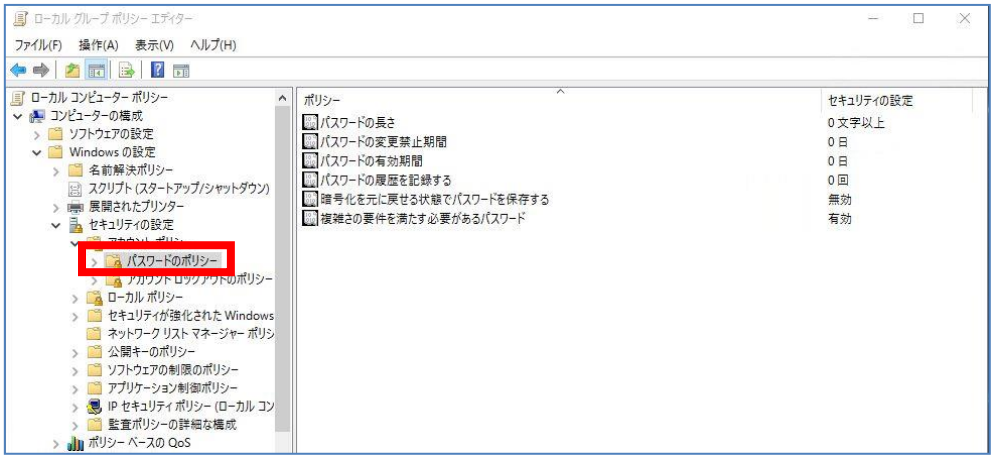


⚠ 注意事項

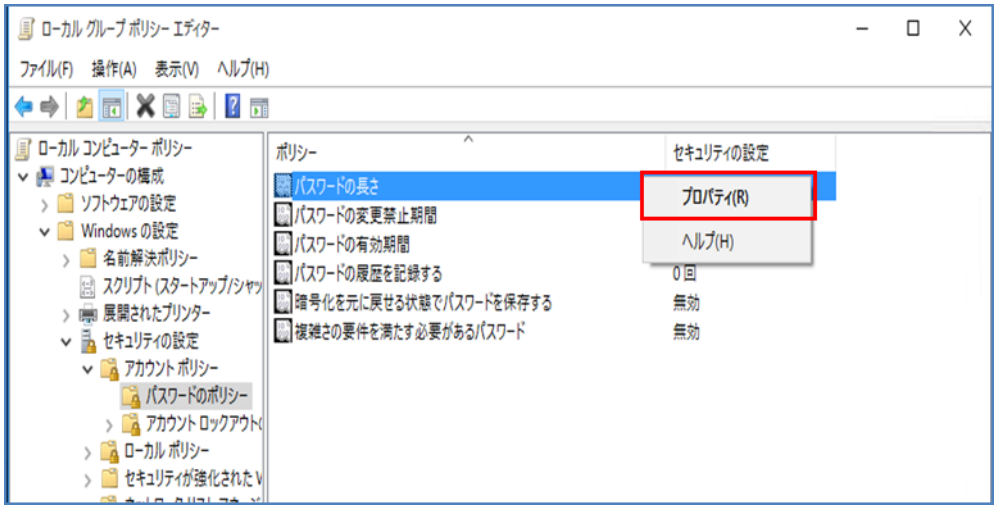
- 図は表 B-1 の No.1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-1 の設定項目ごとに読み替えてください。

6. 表 B-1 に示す設定項目の設定が完了するまで手順 4.と手順 5.を繰り返します。

7. [ローカルコンピューターポリシー]-[コンピューターの構成]-[Windows の設定]-[セキュリティの設定]-[アカウントポリシー]-[パスワードのポリシー]をクリックします。



8. ポリシー列から、表 B-2 に記載されている設定項目を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



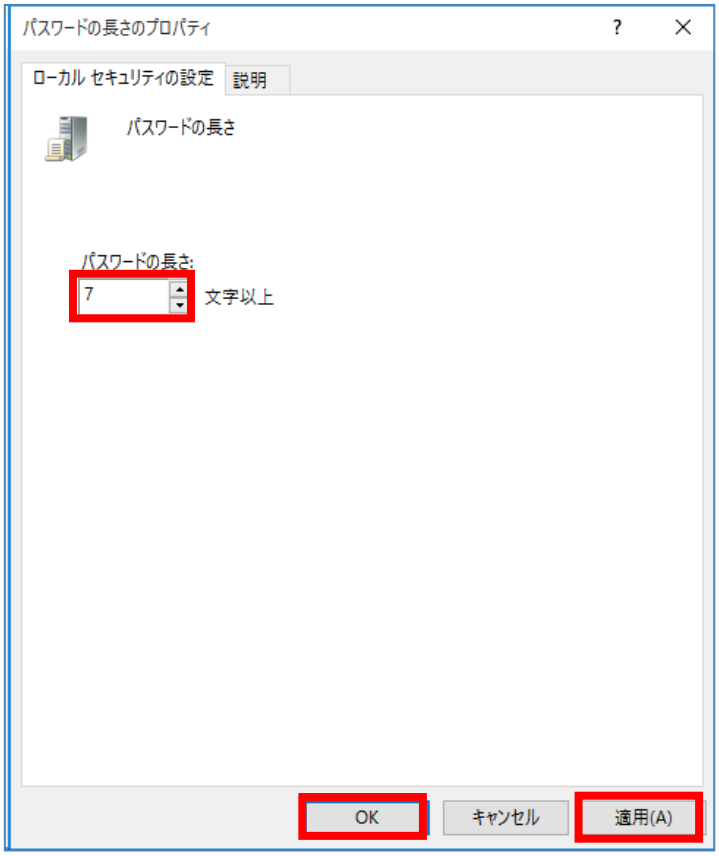
⚠ 注意事項

- 図は表 B-2 の No.1 を設定する場合となります。選択する項目は表 B-2 の設定項目ごとに読み替えてください。

表 B-2 ローカルグループポリシー（パスワードのポリシー）

No.	設定項目	設定値
1	パスワードのポリシー	
	パスワードの長さ	7 文字以上
2	パスワードの変更禁止期間	0 日
3	パスワードの有効期間	92 日
4	パスワードの履歴を記録する	0 回
5	暗号化を元に戻せる状態でパスワードを保存する	無効
6	複雑さの要件を満たす必要があるパスワード	有効

9. 手順 8.にて選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-2 の設定値を設定した後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。

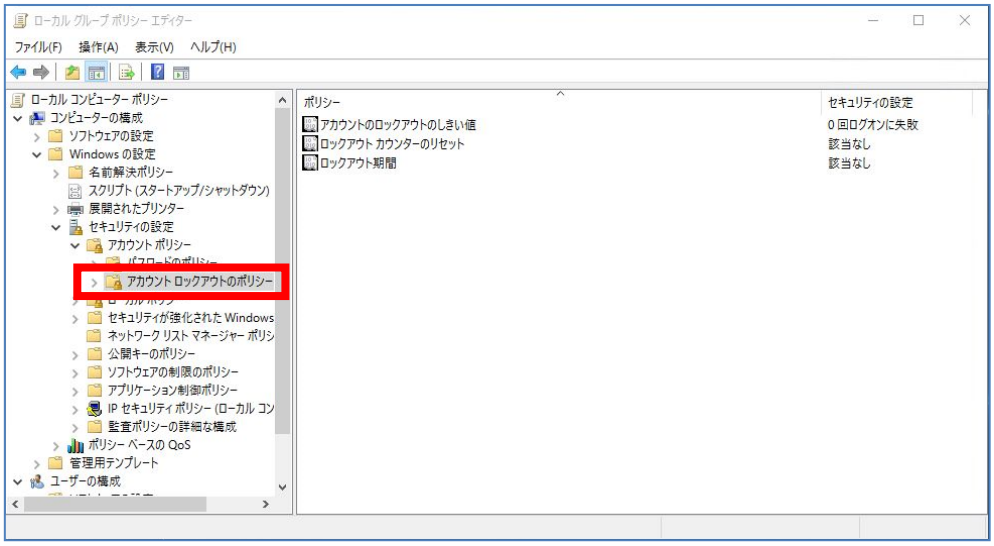


⚠ 注意事項

- 図は表 B-2 の No.1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-2 の設定項目ごとに読み替えてください。

10. 表 B-2 に示す設定項目の設定が完了するまで手順 8.と手順 9.を繰り返します。

11. [ローカルコンピューターポリシー]-[コンピューターの構成]-[Windows の設定]-[セキュリティの設定]-[アカウントポリシー]-[アカウントロックアウトのポリシー]をクリックします。



12. ポリシー列から、表 B-3 に記載されている設定項目を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

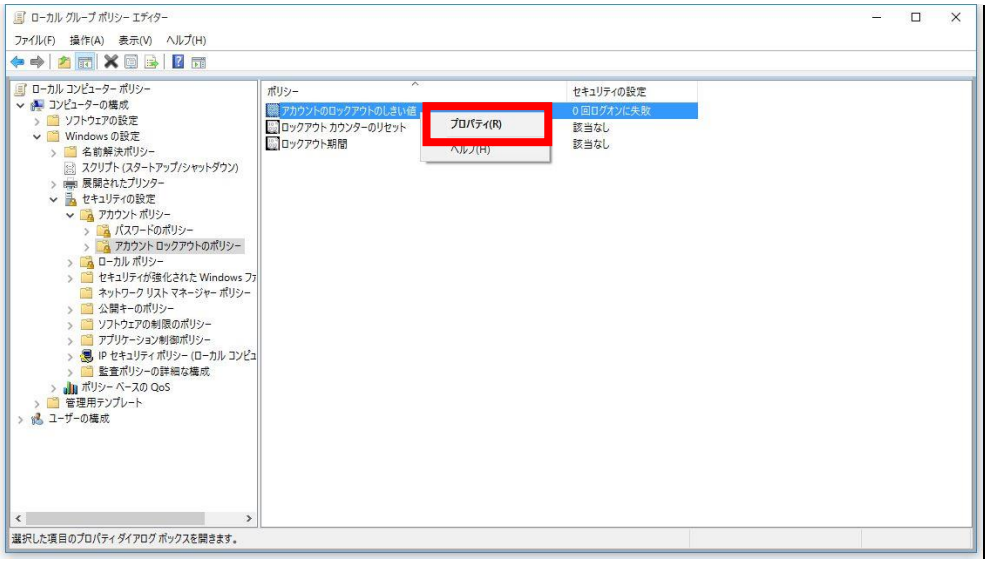


表 B-3 ローカルグループポリシー（アカウントロックアウトのポリシー）

No.	設定項目		設定値
1	アカウントのロックアウトのポリシー		
		アカウントのロックアウトのしきい値	5 回ログオンに失敗
2		ロックアウトカウンターのリセット	30 分後
3		ロックアウト期間	0

⚠ 注意事項

・ 図は表 B-3 の No. 1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-3 の設定項目ごとに読み替えてください。

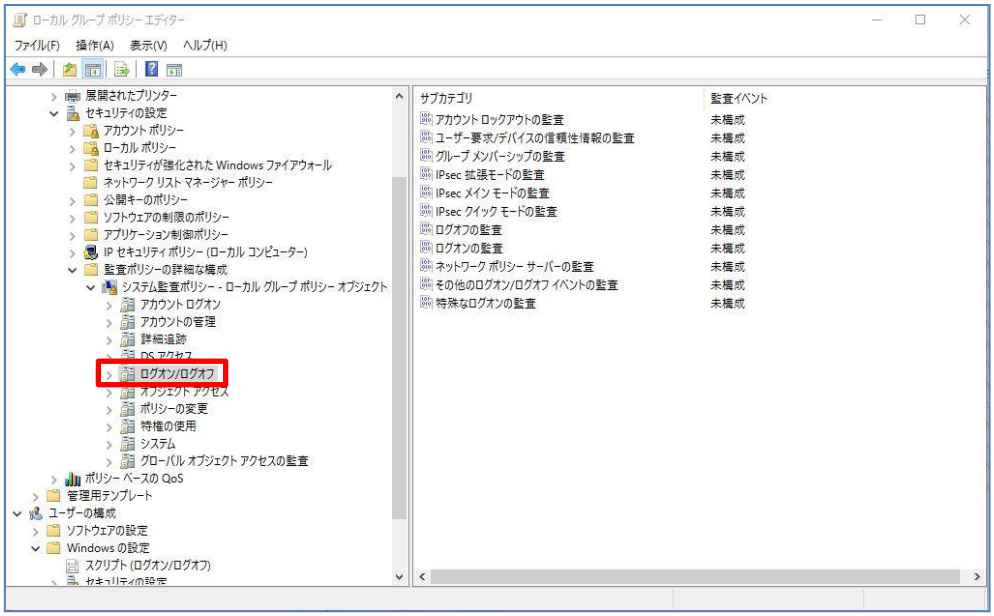
13. 手順 12.にて選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-3 の設定値を設定した後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。

⚠ 注意事項

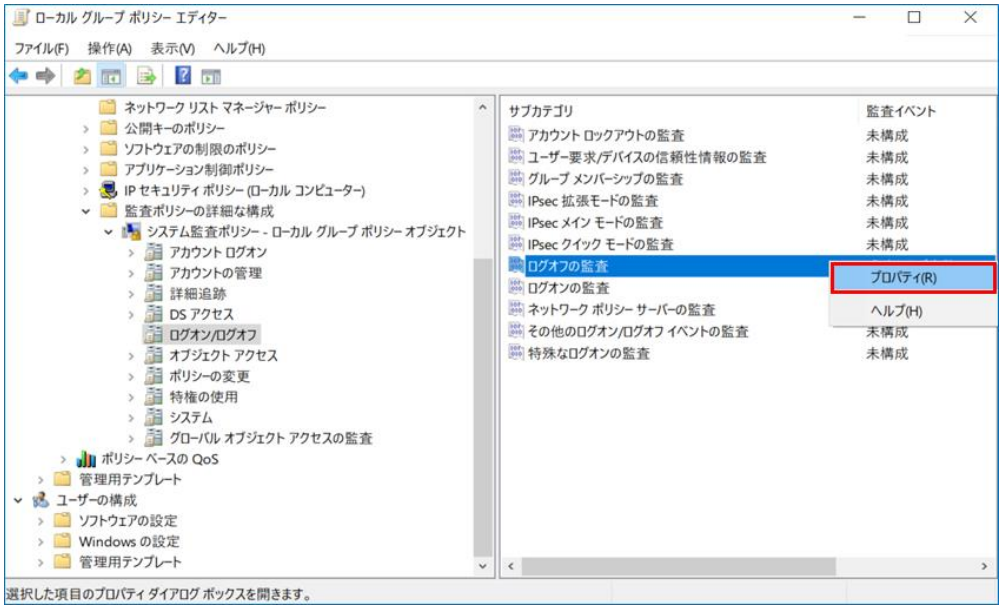
- 図は表 B-3 の No.1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-3 の設定項目ごとに読み替えてください。

14. 表 B-3 に示す設定項目の設定が完了するまで手順 12.と手順 13.を繰り返します。

15.「ローカルグループポリシーエディター」画面で、[ローカル コンピューター ポリシー]-[コンピューターの構成]-[Windows の設定]-[セキュリティの設定]-[監査ポリシーの詳細な構成]-[システム監査ポリシー - ローカル グループ ポリシー オブジェクト]-[ログオン/ログオフ]をクリックします。



16. サブカテゴリ列から表 B-4 に記載されている設定項目を右クリックし[プロパティ]をクリックします。



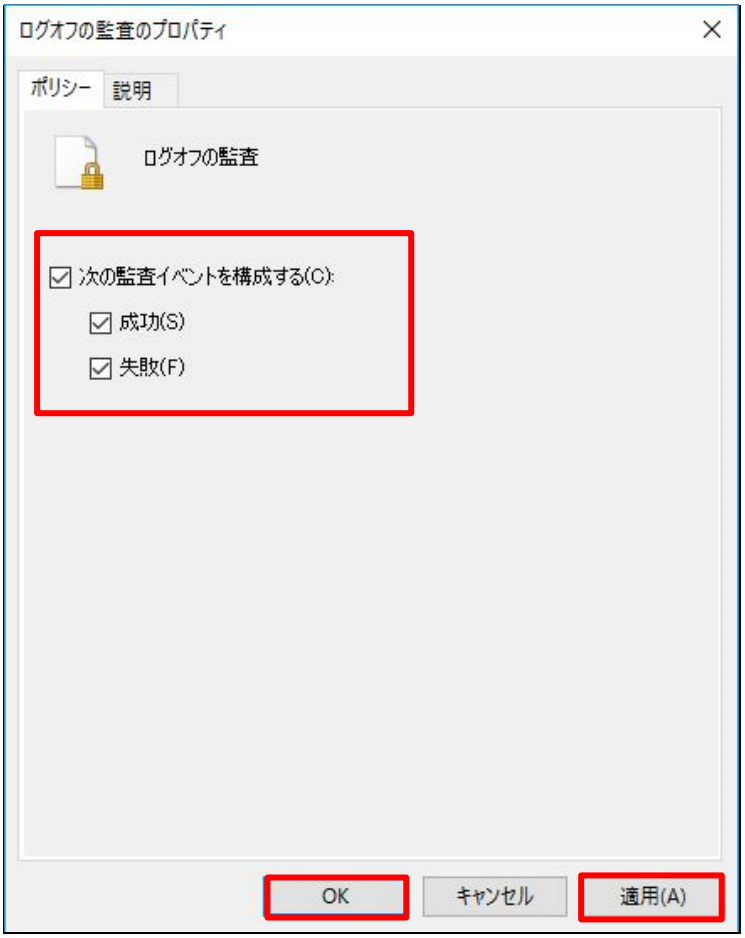
⚠ 注意事項

- 図は表 B-4 の No.1 を設定する場合となります。選択する項目は表 B-4 の設定項目ごとに読み替えてください。

表 B-4 ローカルグループポリシー（ログオン/ログオフ）

No.	設定項目		設定値
1	ログオン/ログオフ		
		ログオフの監査	成功および失敗
2		ログオンの監査	成功および失敗

17. 手順 16.にて選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-4 の設定値をチェックした後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。

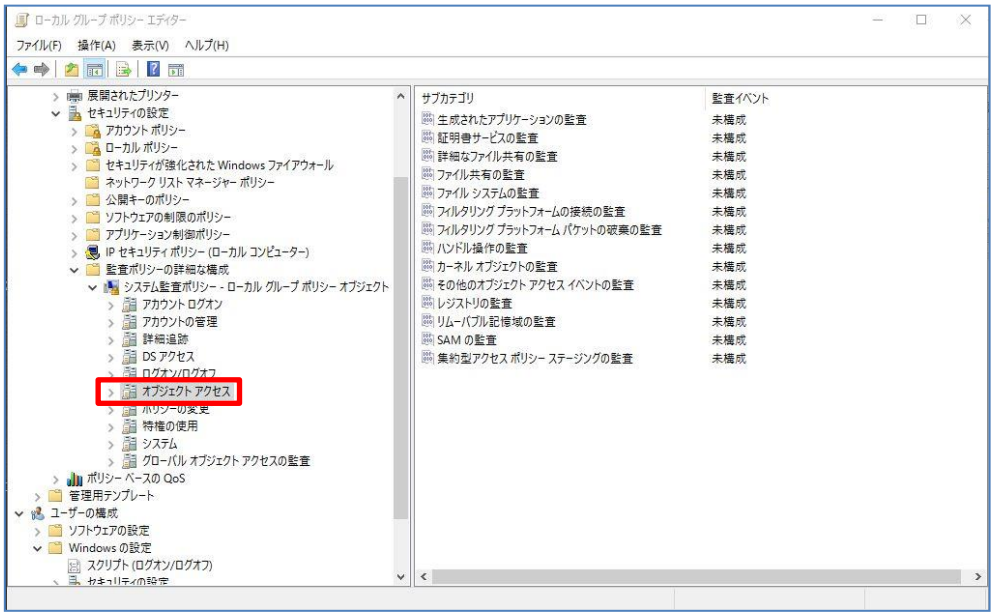


⚠ 注意事項

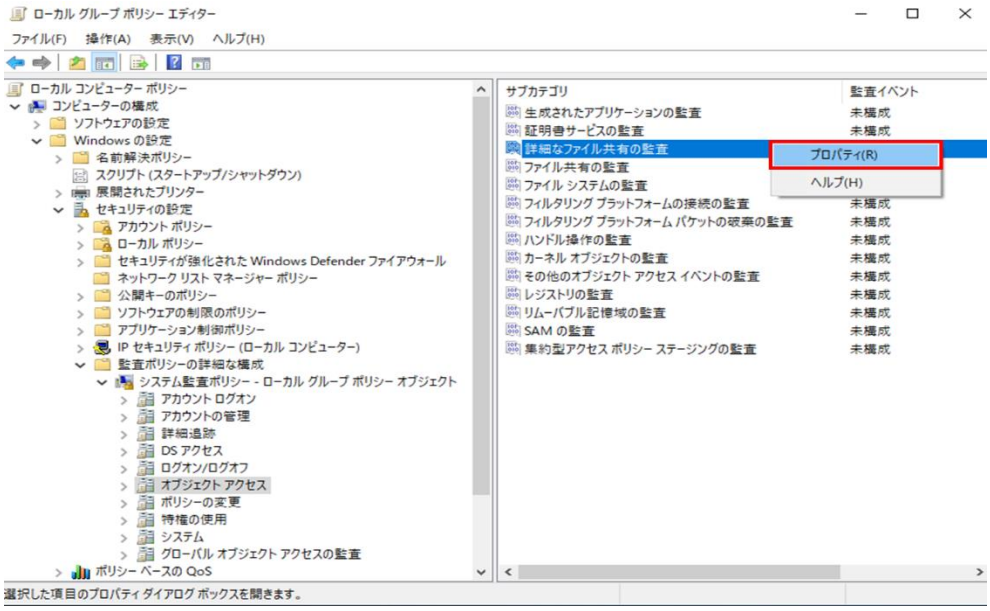
- 図は表 B-4 の No.1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-4 の設定項目ごとに読み替えてください。

18. 表 B-4 に示す設定項目の設定が完了するまで手順 16.と手順 17.を繰り返します。

19.「ローカルグループポリシーエディター」画面で、[ローカル コンピューター ポリシー]-[コンピューターの構成]-[Windows の設定]-[セキュリティの設定]-[監査ポリシーの詳細な構成]-[システム監査ポリシー - ローカル グループ ポリシー オブジェクト]-[オブジェクトアクセス]をクリックします。



20. サブカテゴリ列から表 B-5 に記載されている設定項目を右クリックし[プロパティ]をクリックします。



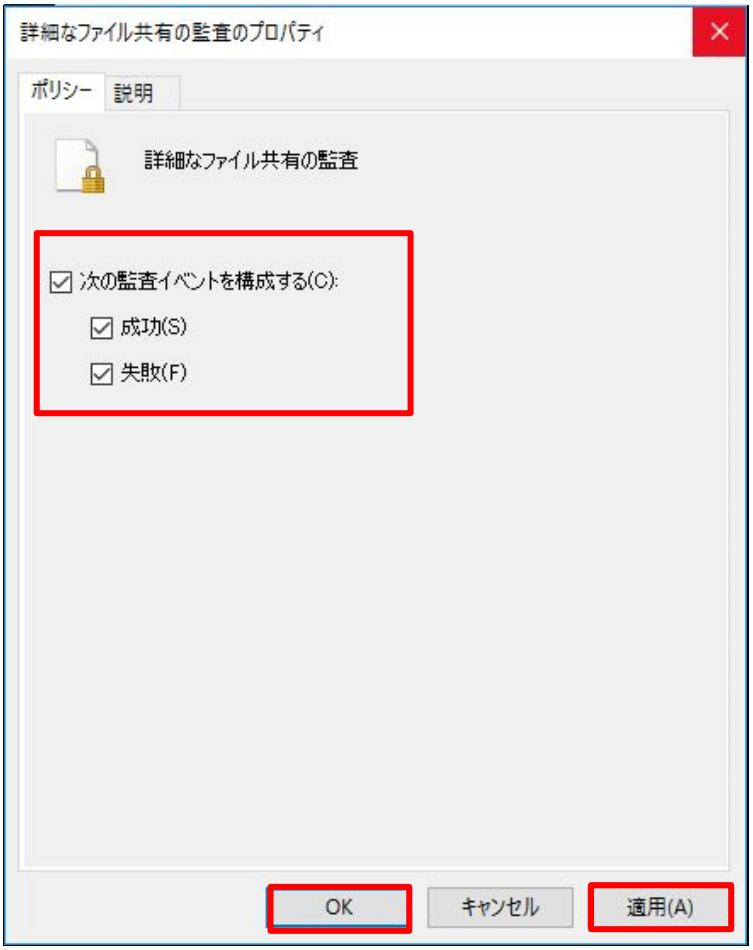
⚠ 注意事項

- 図は表 B-5 の No.1 を設定する場合となります。選択する項目は表 B-5 の設定項目ごとに読み替えてください。

表 B-5 ローカルグループポリシー（オブジェクトアクセス）

No.	設定項目		設定値
1	オブジェクトアクセス		
		詳細なファイル共有の監査	成功および失敗
2		ファイル共有の監査	成功および失敗

21. 手順 20. で選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-5 の設定値をチェックした後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。

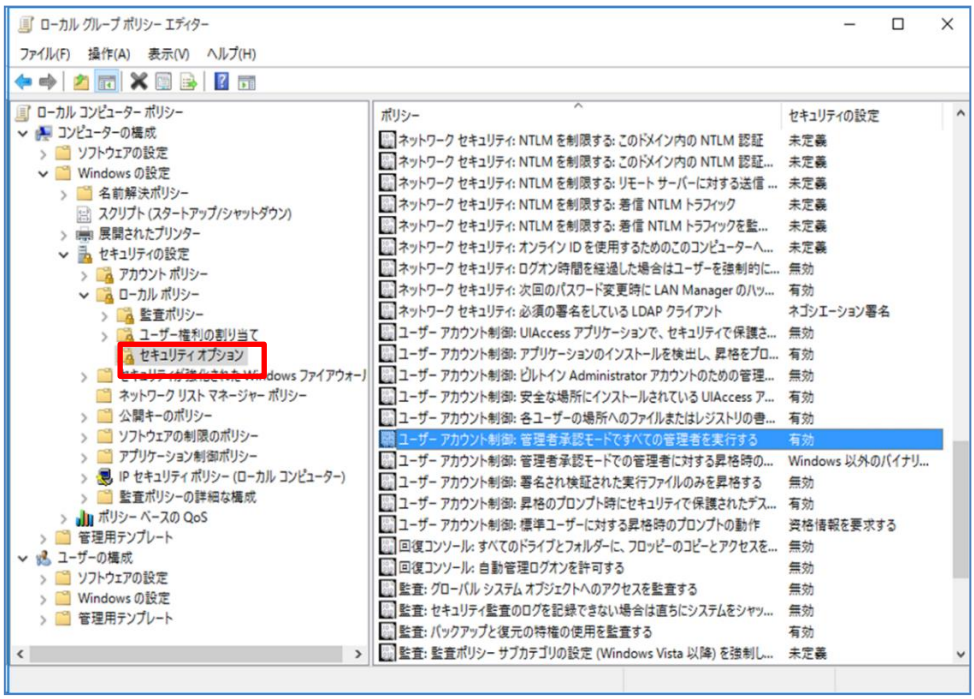


⚠ 注意事項

- 図は、表 B-5 の No. 1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-5 の設定項目ごとに読み替えてください。

22. 表 B-5 に示す設定項目の設定が完了するまで手順 20. と手順 21. を繰り返します。

23.「ローカルグループポリシーエディター」画面で、[ローカル コンピューター ポリシー]-[コンピューターの構成]-[Windows の設定]-[セキュリティの設定]-[ローカルポリシー]-[セキュリティ オプション]をクリックします。



24. ポリシー列から表 B-6 に記載されている設定項目を右クリックし[プロパティ]をクリックします。

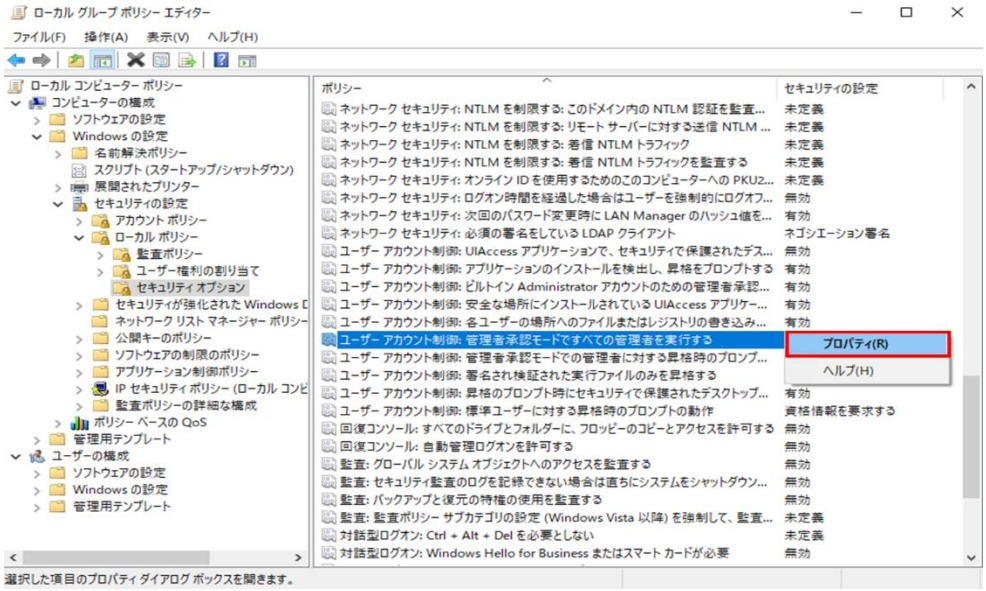
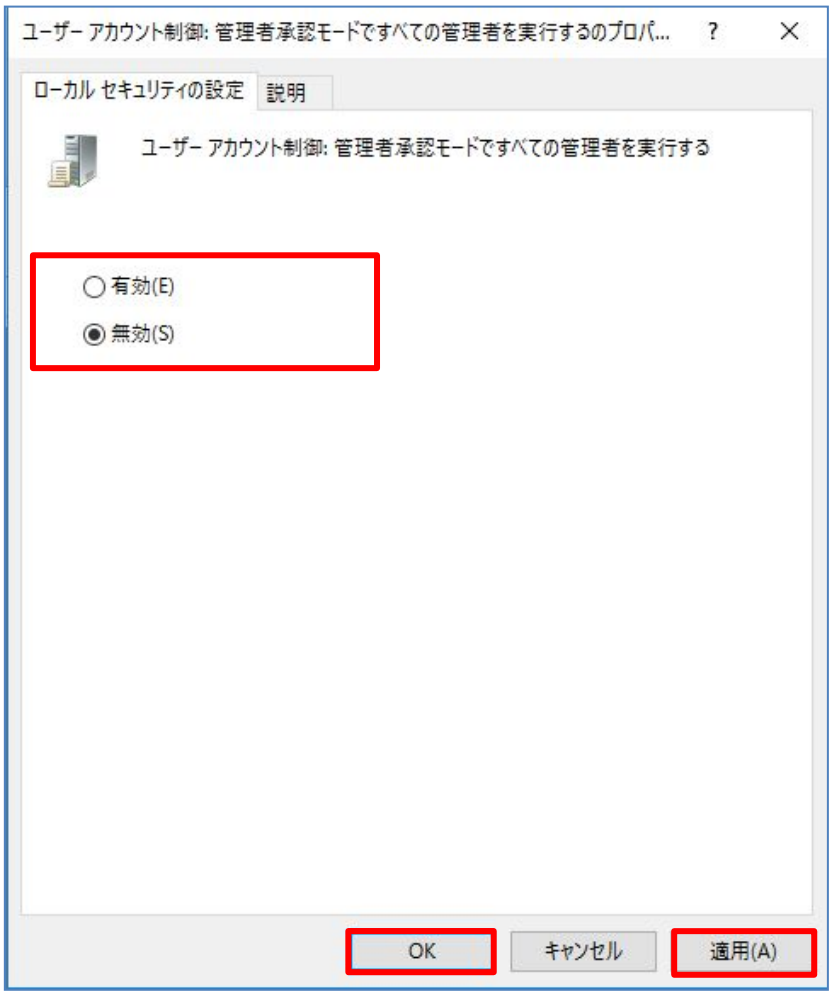


表 B-6 ローカルグループポリシー（セキュリティオプション）

No.	設定項目	設定値
1	セキュリティ オプション	
	ユーザー アカウント制御: 管理者承認モードですべての管理者を実行する	無効

25. 手順 24.にて選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-6 の設定値をチェックした後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。

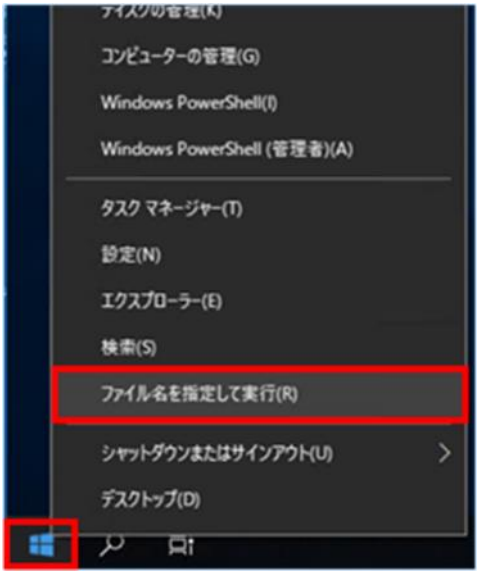


26.「ローカルグループポリシーエディター」画面を閉じます。

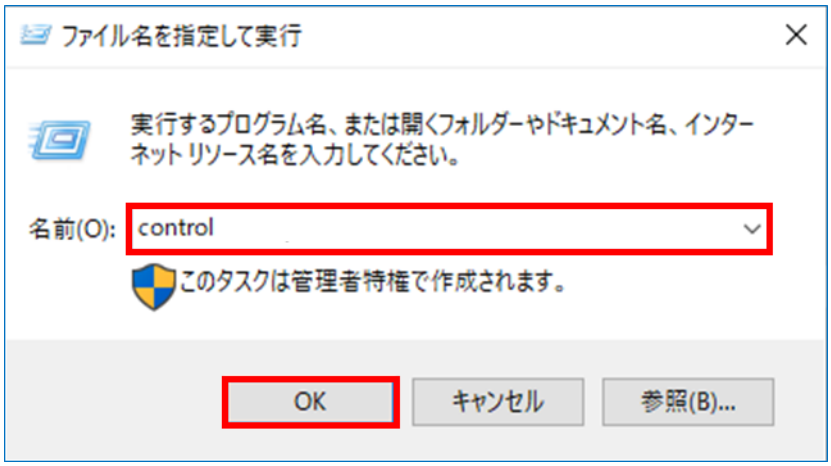
27. データ連携用 PC を再起動します。

(3) フォルダオプションの設定

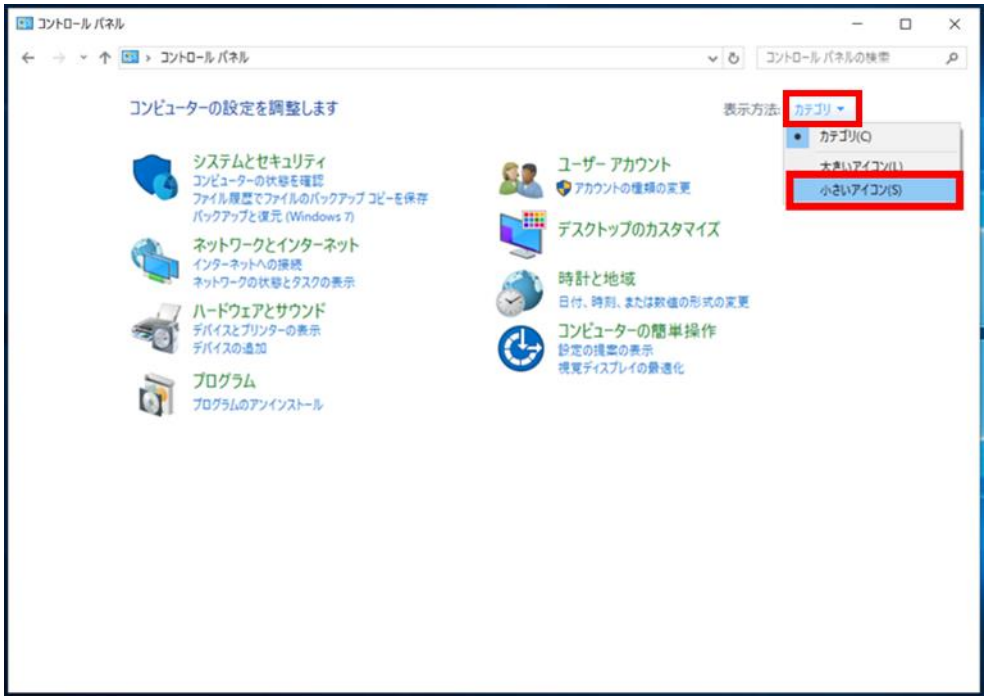
1. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



2. 「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「control」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

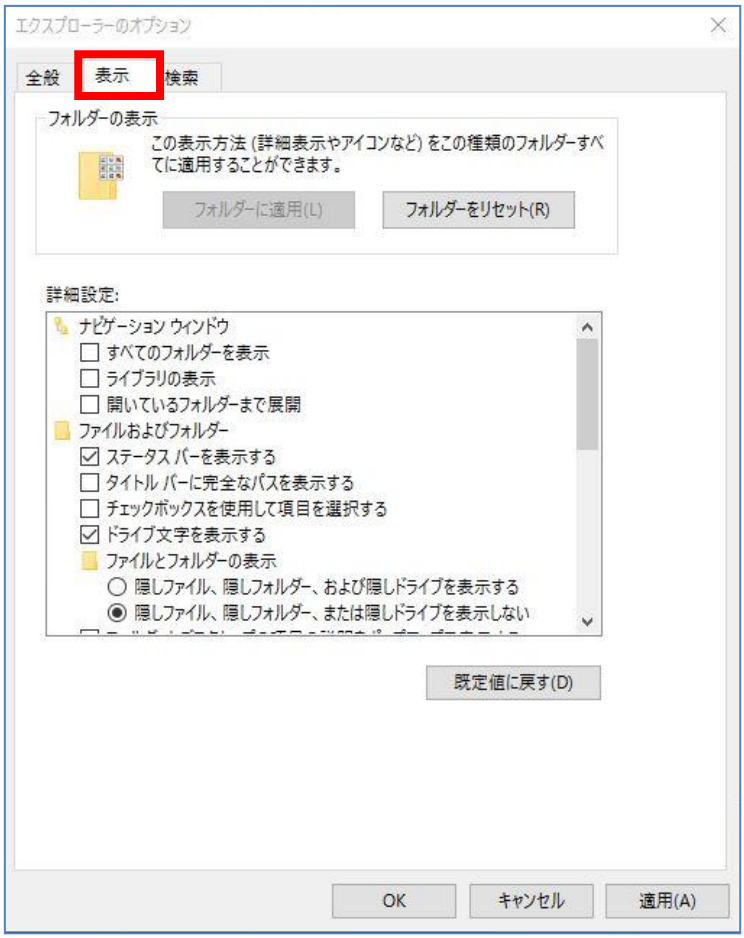


3.「コントロールパネル」画面で、[カテゴリ▼]をクリックし、[小さいアイコン]をクリックします。

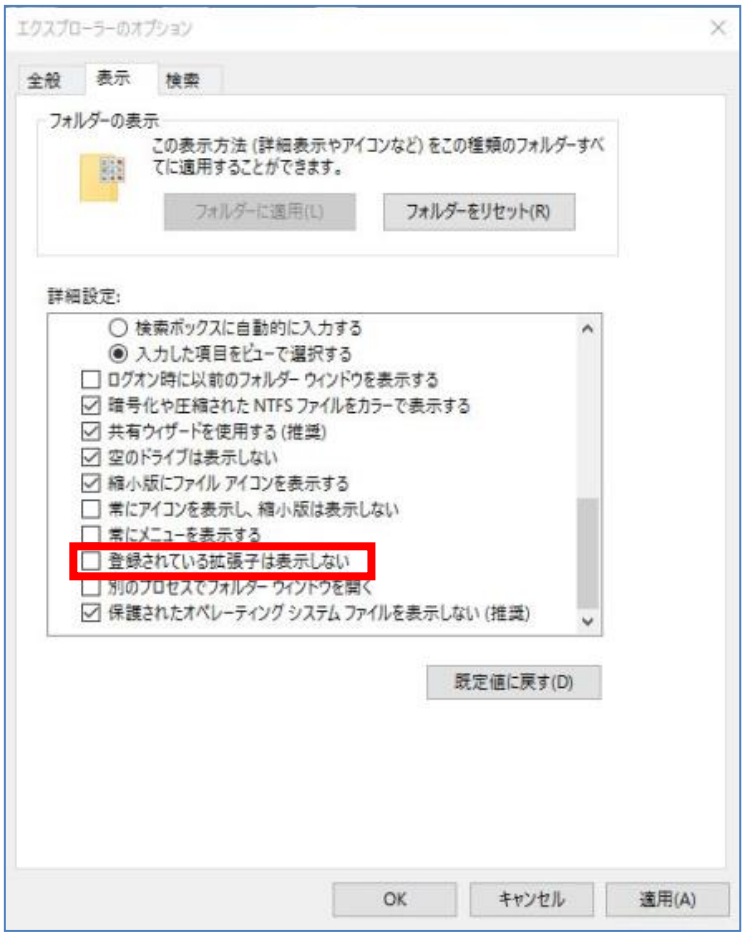


4.「すべてのコントロールパネル項目」画面で、[エクスプローラーのオプション]をクリックします。

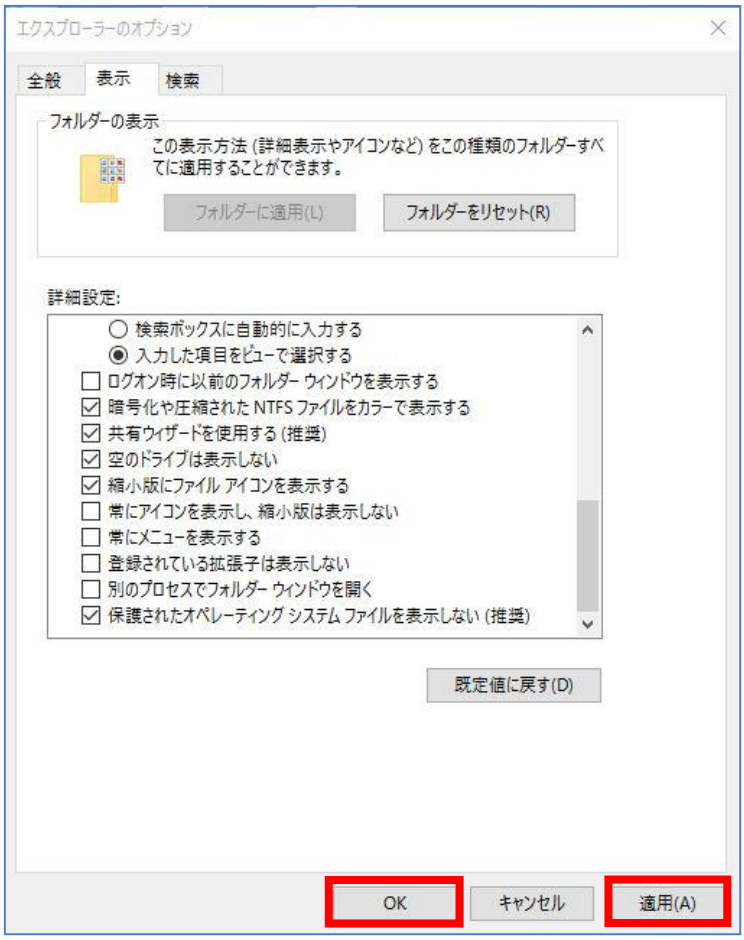
5.「エクスプローラーのオプション」画面で、[表示]タブをクリックします。



6. 下記の画面のとおり、[登録されている拡張子は表示しない]のチェックを外します。



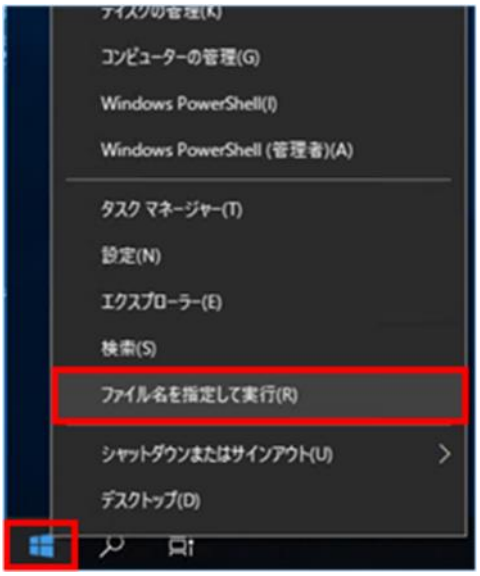
7. [適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。



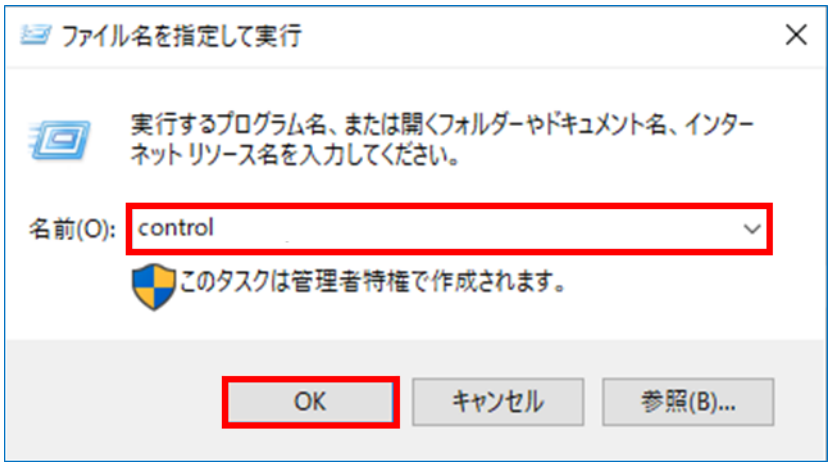
8.「すべてのコントロールパネル項目」画面を閉じます。

(4) 電源オプションの設定

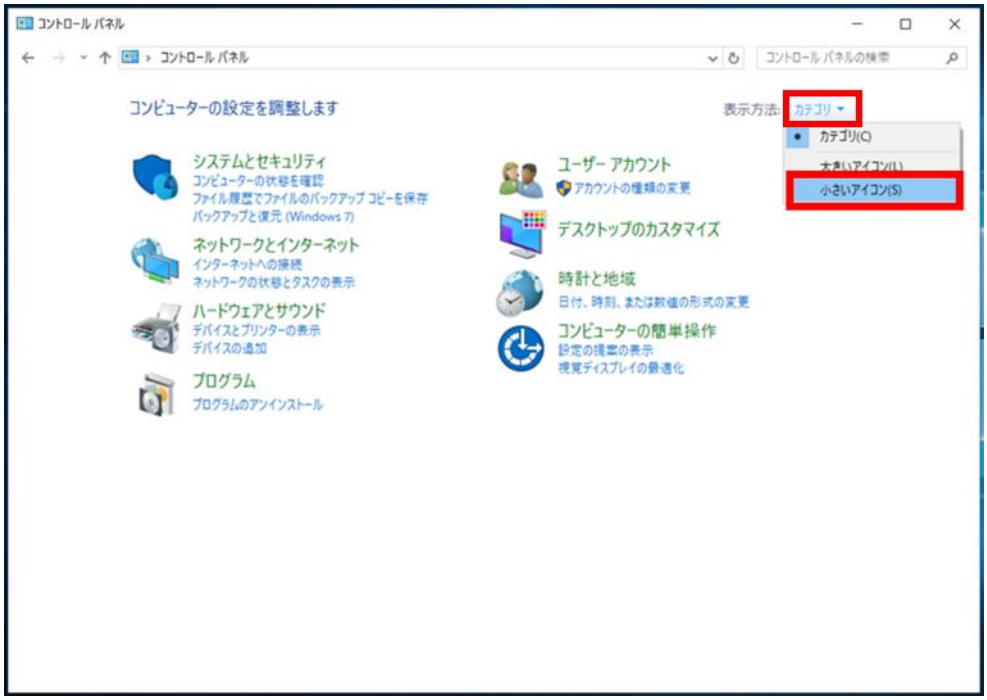
1. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



2.「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「control」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



3.「コントロールパネル」画面で、[カテゴリ▼]をクリックし、[小さいアイコン]をクリックします。



4.「すべてのコントロールパネル項目」画面で、[電源オプション]をクリックします。

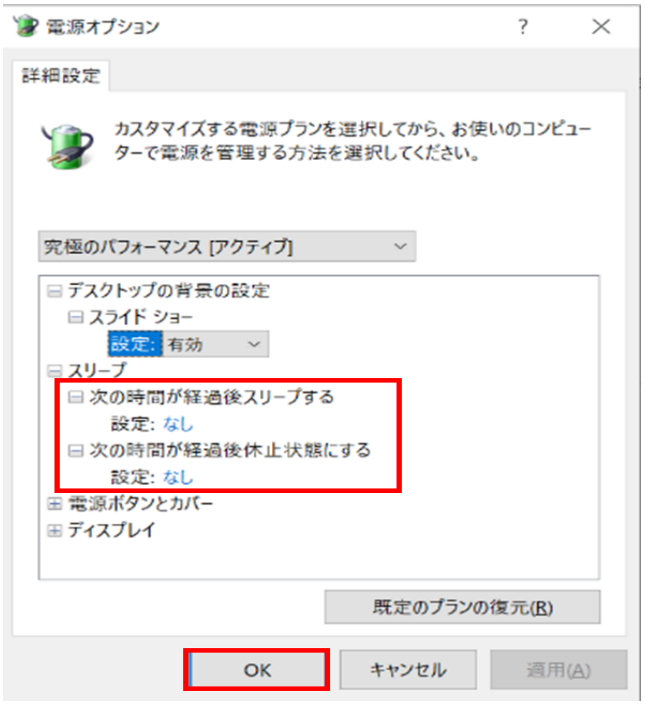
5.「電源オプション」画面で、[究極のパフォーマンス]のラジオボタンにチェックを入れ、[プラン設定の変更]をクリックします。

⚠ 注意事項

- [究極のパフォーマンス]のラジオボタンにチェックができない場合には、「選択されたプラン」の上に表示される[現在利用可能ではない設定を変更します]をクリックし、その後設定してください。

6.「プラン設定の編集」画面で、[詳細な電源設定の変更]をクリックします。

7.「電源オプション」画面で、「スリープ」-「次の時間が経過後スリープする」、「スリープ」-「次の時間が経過後休止状態にする」の「設定」が「なし」となっていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



8.「プラン設定の編集」画面を閉じます。

9.「電源オプション」画面を閉じます。

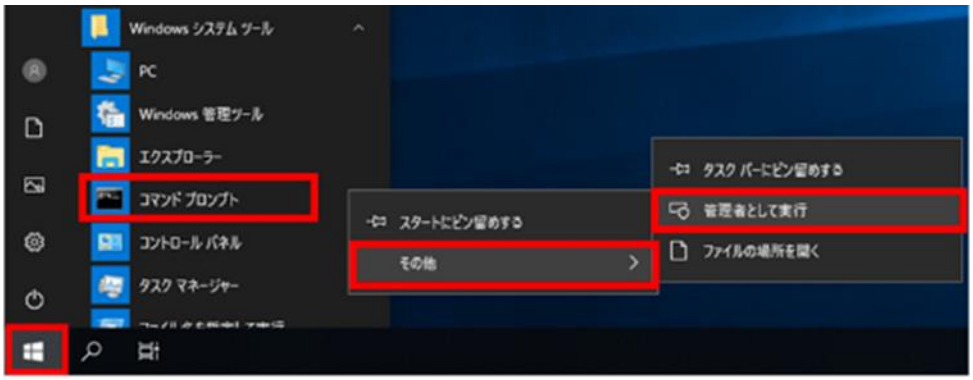
(5) セキュリティパッチの適用

データ連携用 PC に、セキュリティパッチおよび重要な更新プログラムを適用します。適用するセキュリティパッチは「付録.C セキュリティパッチ一覧」を参照してください。

1. **適用するセキュリティパッチを「資材格納フォルダ」に格納します。**

   注　「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。

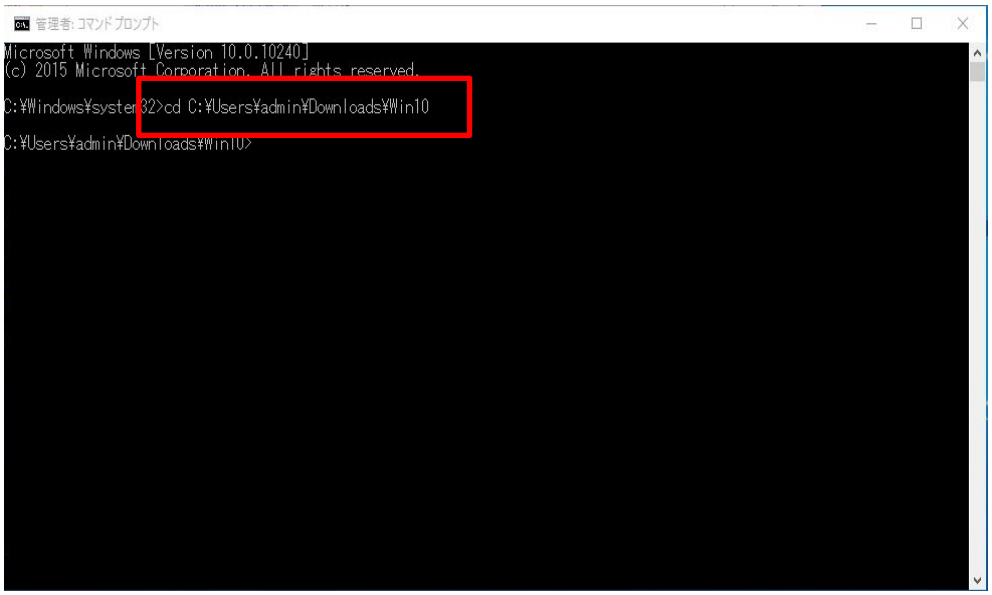
2. [スタート]アイコンをクリックし、[Windows システム ツール]-[コマンドプロンプト]を右クリックし、[その他]-[管理者として実行]をクリックします。



3.「コマンドプロンプト」画面で、次のコマンドを入力して、Enter キーを押下します。

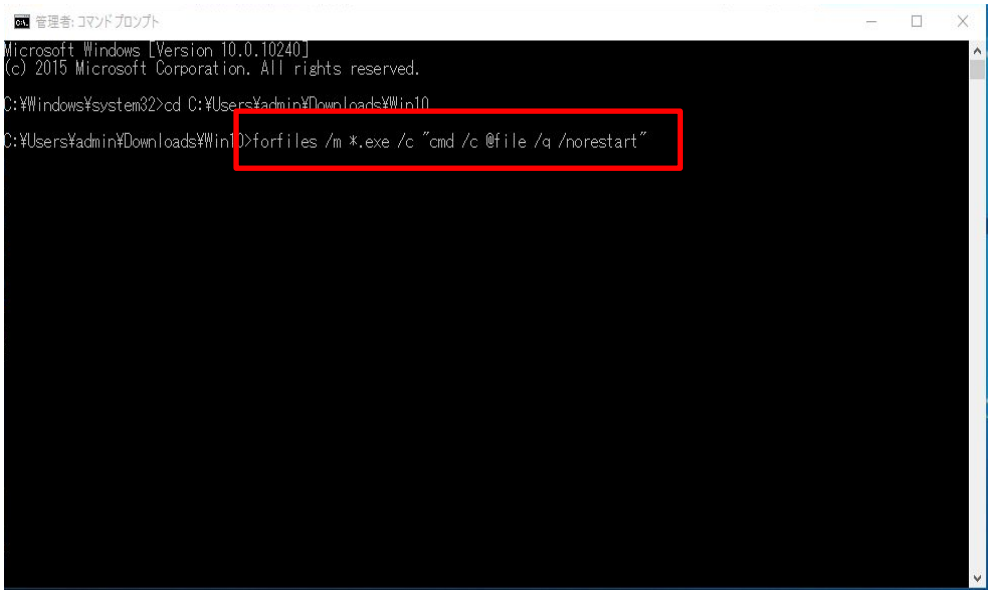
cd△”資材格納フォルダ”

注　△は半角スペースを表します。



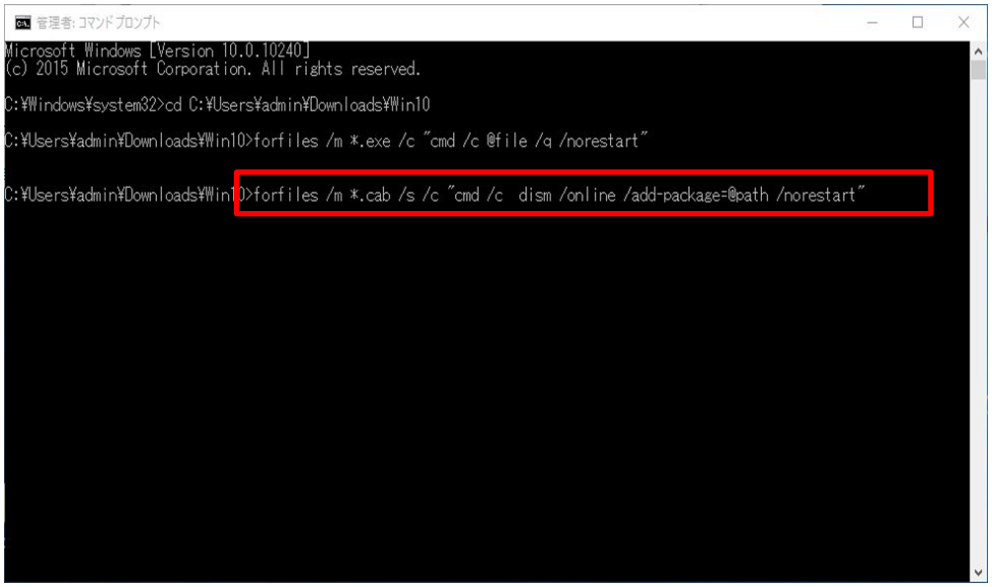
4. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに張り付けて、Enter キーを押下します。

forfiles /m *.exe /c "cmd /c @file /q /norestart"



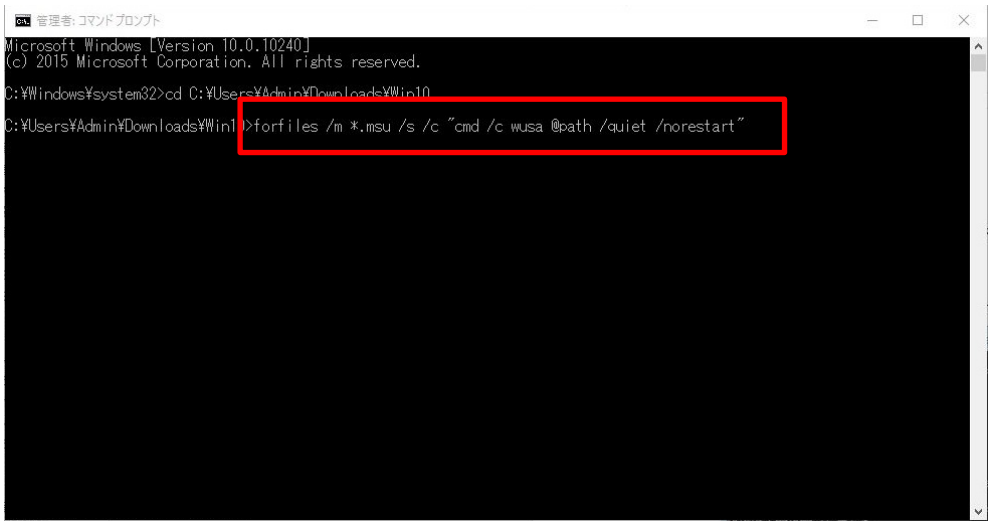
5. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに張り付けて、Enter キーを押下します。

forfiles /m *.cab /s /c "cmd /c dism /online /add-package=@path /norestart"



6. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに張り付けて、Enter キーを押下します。

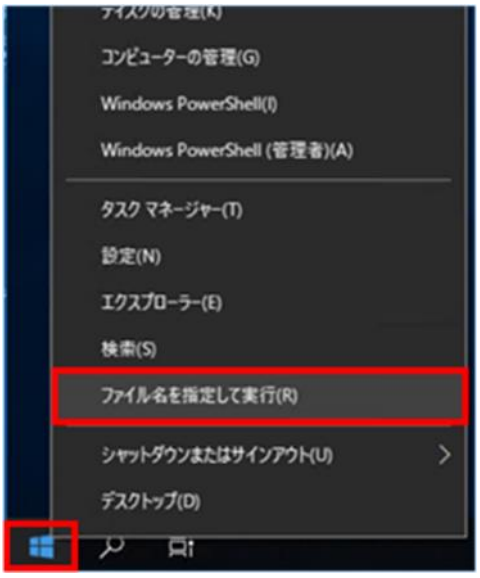
forfiles /m *.msu /s /c "cmd /c wusa @path /quiet /norestart"



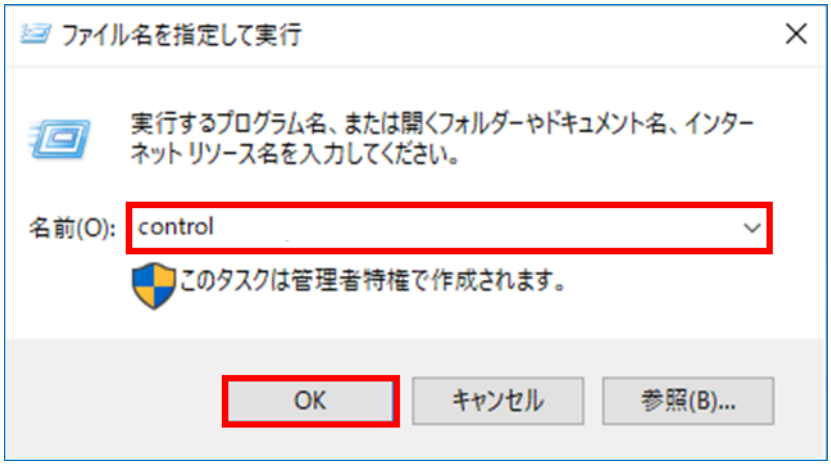
7. データ連携用 PC を再起動します。

8. データ連携用 PC 起動後、ログインします。

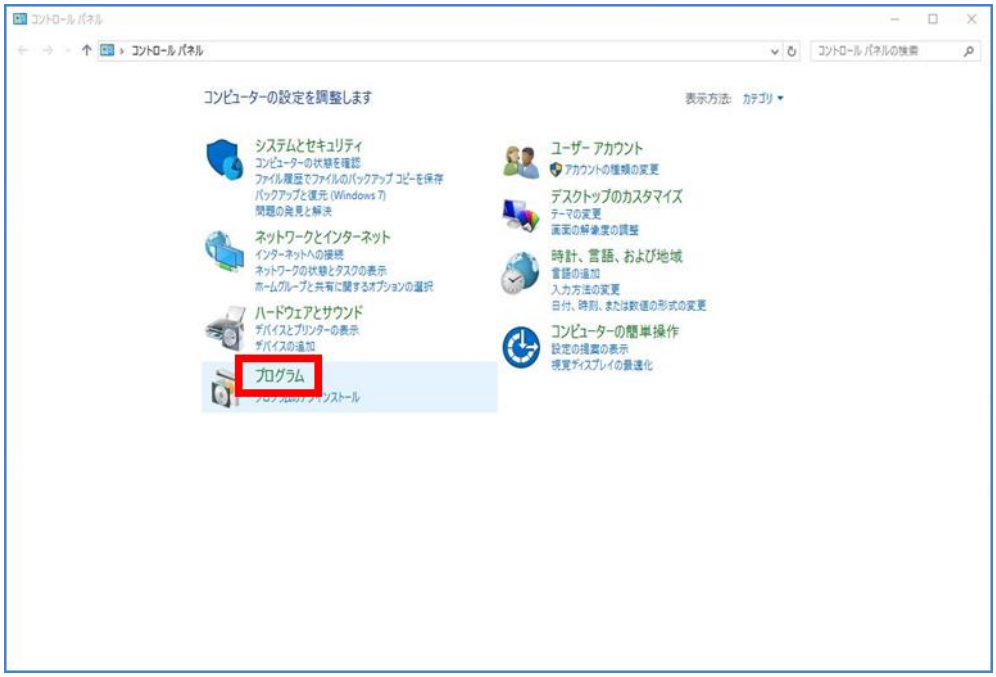
9. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



10.「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「control」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



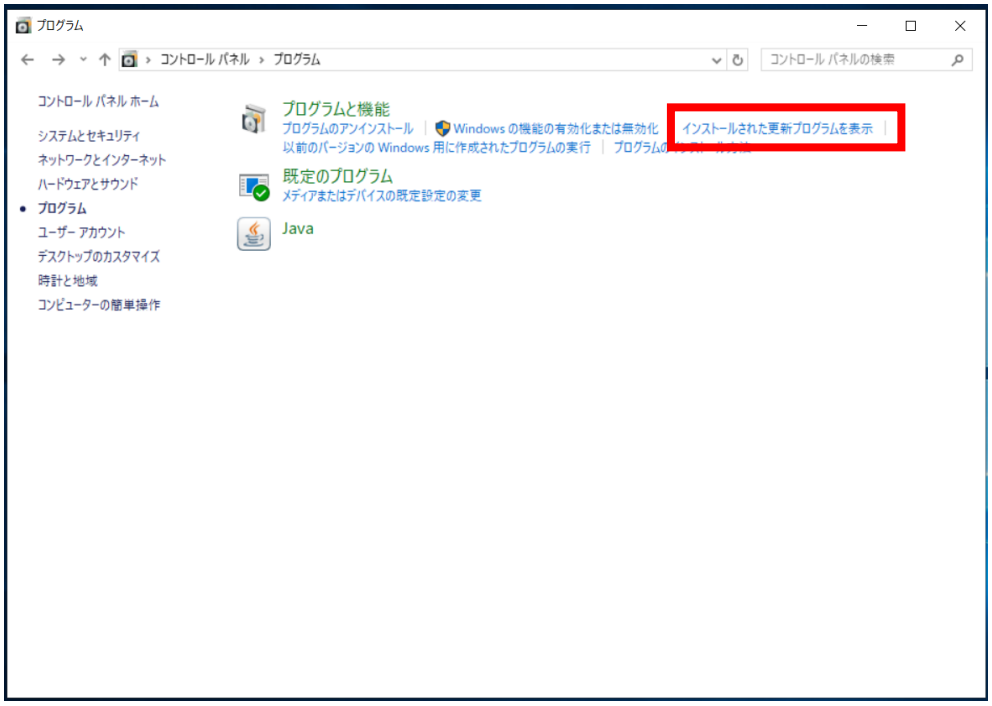
11.「コントロールパネル」画面で、[プログラム]をクリックします。



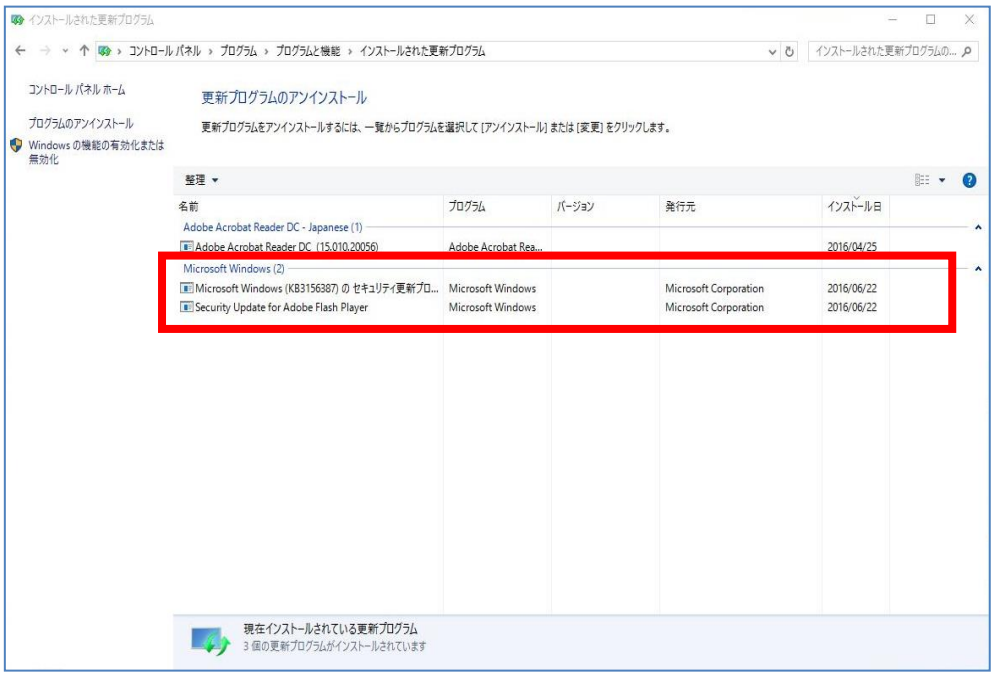
⚠ 注意事項

・「表示方法：小さいアイコン▼」となっている場合、[小さいアイコン▼]をクリックし、[カテゴリ]をクリックします。

12.「プログラム」画面で、[インストールされた更新プログラムを表示]をクリックします。



13.「インストールされた更新プログラム」画面で、「インストール日」がセキュリティパッチ適用作業を実施した日となっている更新プログラムの「名前」欄に、手順 2.～手順 8.にて適用したセキュリティパッチがすべて表示されていることを確認します。



⚠ 注意事項

- 手順 13.にて、適用できていないセキュリティパッチおよび重要な更新プログラムがある場合には、手順 2.～手順 13.を繰り返し実施してください。

14. 「インストールされた更新プログラム」画面を閉じます。

付録.D データ連携用 PC アプリケーションのフォルダ構成

データ連携用 PC のアプリケーションのフォルダの構成について記載します。

表 D-1 データ連携用 PC 用アプリケーションのフォルダ構成

ルート	フォルダ			
D:¥	S_Kokuho¥			
		SZ¥		
			Tool¥	
				bat¥
				conf¥
				lib¥
				tmp¥
				truststore¥
				log¥
				data¥
		Renkei¥		
			Conf¥	
			Send¥	
				done¥
				err¥
			Receive¥	
				done¥
				err¥
			Log¥	
				done¥
				err¥
		TOOL¥		
			Batch¥	
				bat¥
				log¥
	S_Kokuho_Test¥			
		SZ¥		
			Tool¥	
				bat¥
				conf¥
				lib¥
				tmp¥
				truststore¥
				log¥
				data¥

ルート	フォルダ			
		Renkei¥		
			Conf¥	
			Send¥	
				done¥
				err¥
			Receive¥	
				done¥
				err¥
			Log¥	
				done¥
				err¥